

「高等教育機関における人材育成」に関する実態調査（Ⅱ）

《学生対象：2018 年 11 月～2019 年 1 月実施》

報 告 書

2019 年 12 月

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

<https://www.shogai-soken.or.jp/>

「高等教育機関における人材育成」に関する実態調査（Ⅱ） 報告書

目次

調査概要	2
回答者の属性	3
集計結果と分析	6
1. 質問項目	6
2. 各設問における回答割合（設置者別・学問系統別）	8
3. 図 5-1～図 5-67 の概観	42
4. 因子分析の結果	47
(1) 因子分析の結果，および調査実施時の設定	47
(2) 表 6-1, 表 6-2 概観との対応	48
(3) 日本生涯学習総合研究所における 16 の「非認知能力」の要素との比較	51
＜参考 1＞「2017 年度調査における学問系統区分」	55
＜参考 2＞日本生涯学習総合研究所の 16 の「非認知能力」の要素	56
＜参考 3＞「特性」について	59
＜参考 4＞「非認知能力」の要素ごとの下位項目	60
＜参考 5＞「非認知能力の育成と発揮」に関する要素概念図	63

調査概要

1. 調査内容

社会の中で生き抜く対応力や物事への取り組みの姿勢，学力観の変化により重要視されるようになった「知識・技能を習得し，それらを活用して，自ら考え，判断し，表現する力や，主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する調査

2. 調査実施期日

2018 年 11 月 16 日開始，2019 年 1 月 31 日締切

3. 調査項目

P.6-P.7「集計結果と分析 1. 質問項目」に記載

4. 調査対象

全国の大学の学部生

※2,599 名から回答があった。このうち，記述箇所について，表記統一・修正（内容が判別できない場合は調査実施者に確認のうえ修正）。同一人物が複数回回答していると思われるものについては調査実施者に確認のうえ，1 回答のみを有効とした。また，大学院生については集計から除外した。その結果，最終的な有効回答数は，2,543 件であった。

回答者の属性

1. 回答者数・大学数	表 1
2. 学年別回答者数	表 2
3. 性別回答者数	表 3
4. 社会人経験の有無	表 4
5. 学問系統	表 5-1, 5-2

1. 回答者数・大学数

表 1 回答者数・大学数

	国立	公立	私立	総計
回答者数	514	155	1,874	2,543
大学数	18	4	41	63

※うち、29 名が留学生

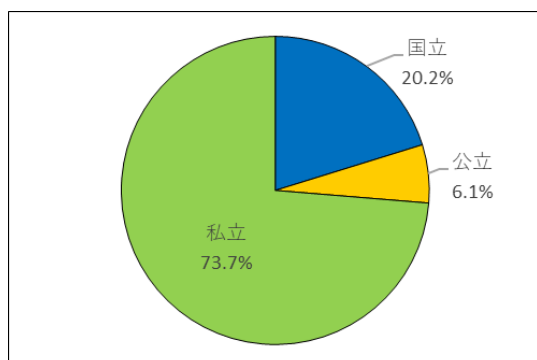


図 1 設置者別回答者割合

2. 学年別回答者数

表 2 学年別回答者数

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	その他	合計
全体	805	703	457	503	69	6	2,543
国立	164	160	123	63	2	2	514
公立	60	50	25	20	0	0	155
私立	581	493	309	420	67	4	1,874

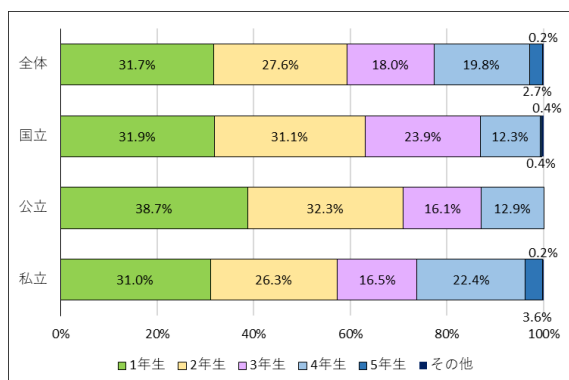


図 2 学年別回答者割合

3. 性別回答者数

表 3 性別回答者数

	男性	女性	その他	合計
性別	953	1,584	6	2,543

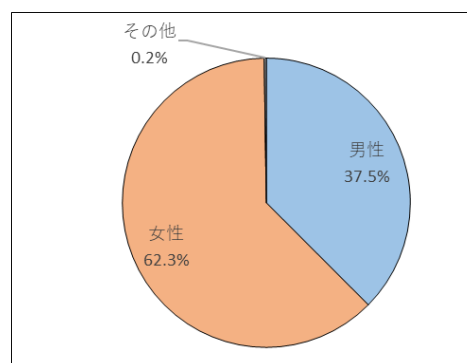


図 3 性別回答者割合

4. 社会人経験の有無

表 4 社会人経験の有無

	あり	なし	その他	合計
社会人経験	33	2,493	17	2,543

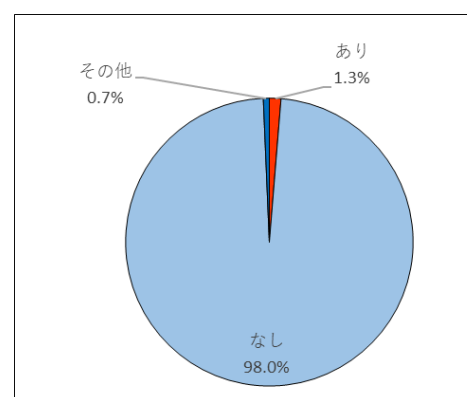


図4 社会人経験の有無別回答者割合

5. 学問系統

表 5-1 学問系統別回答者数

学問系統	全体 (N=2543)		国立 (N=514)		公立 (N=155)		私立 (N=1874)	
人文科学	551	21.7%	109	21.2%	0	0.0%	442	23.6%
社会科学	137	5.4%	73	14.2%	8	5.2%	56	3.0%
自然科学	619	24.3%	266	51.8%	84	54.2%	269	14.4%
医学歯学	201	7.9%	47	9.1%	0	0.0%	154	8.2%
保健薬学看護	527	20.7%	1	0.2%	63	40.6%	463	24.7%
家政	390	15.3%	0	0.0%	0	0.0%	390	20.8%
芸術・体育	56	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	56	3.0%
教養	61	2.4%	17	3.3%	0	0.0%	44	2.3%
無効回答	1	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%

記入式で大学・学部・学科名を回答してもらい、日本生涯学習総合研究所において、上記「学問系統」に振り分けた。主な学部名は、次頁「表 5-2 各学問系統に振り分けた学部名の目安」を参照。

表 5-2 各学問系統に振り分けた学部名の目安

学問系統	回答者の所属学部（回答者人数の多い順に記載）
人文科学	文学部，人間学部，人文学部，人間発達学部，教育学部， コミュニケーション文化学部，国際文化学部，文化構想学部，人間科学部
社会科学	商学部，経営情報学部，経済学部，経営学部，法学部，観光メディア文化学部， 教育学部（教育実践・政策学），経営文化学部，総合情報学部
自然科学	工学部，情報科学部，理工学部，農学部，理学部，情報理工学域， 生物資源科学部，情報学部，工芸科学部，共同獣医学部，海洋科学部， 生命科学部
医学・歯学	医学部，歯学部
保健・薬学・看護	看護学部，リハビリテーション学部，薬学部，保健医療学部，人間福祉学部， 健康栄養学部
家政	生活科学部，家政学部，人間生活学部
芸術・体育	感性デザイン学部，人間健康学部，芸術文化学群
教養	リベラルアーツ学群，前期教養課程，国際教養学部

※2017年度実施の調査（学部長・研究科長を調査対象）では，「人文科学」「社会科学」「自然科学」「総合系」「その他」で分析。区分については，P.55＜参考1＞「2017年度調査における学問系統区分」参照。

集計結果と分析

1. 質問項目

2017年度の調査では、全国の大学の学部長および大学院の研究科長を対象に、学生に関する「問題解決力」、「批判的思考力」、「協調性」、「コミュニケーション力」、「主体性」、「創造性」を想定した26項目の質問項目を設定し、調査を実施した。その結果を因子分析したところ、「論理的思考性」、「協調性」、「独創性」の3因子を抽出した。本調査においては、当該3因子を想定した質問項目を設定した。

2017年度調査におけるそれぞれの因子に該当する質問項目数は、「論理的思考性」12項目、「協調性」9項目、「独創性」4項目であったが、本調査においては該当質問項目数が概ね10項目程度となるように、67質問項目を設定した。

次の67項目について、[1] 全く当てはまらない [2] あまり当てはまらない [3] どちらとも言えない [4] やや当てはまる [5] 大いに当てはまる、の5つの選択肢で自己評価をもらった。

なお、測定したい能力とは逆の能力について問うた質問（例えば、論理的思考性を想定した質問項目「9.自分の考えに固執する」は、論理的思考力とは逆の能力になる）を＜反転項目＞と記載しており、23項目が該当する。

また、各質問項目において設定した因子名は、P.47「4.因子分析の結果（1）因子分析の結果、および調査実施時の設定」に記載している。

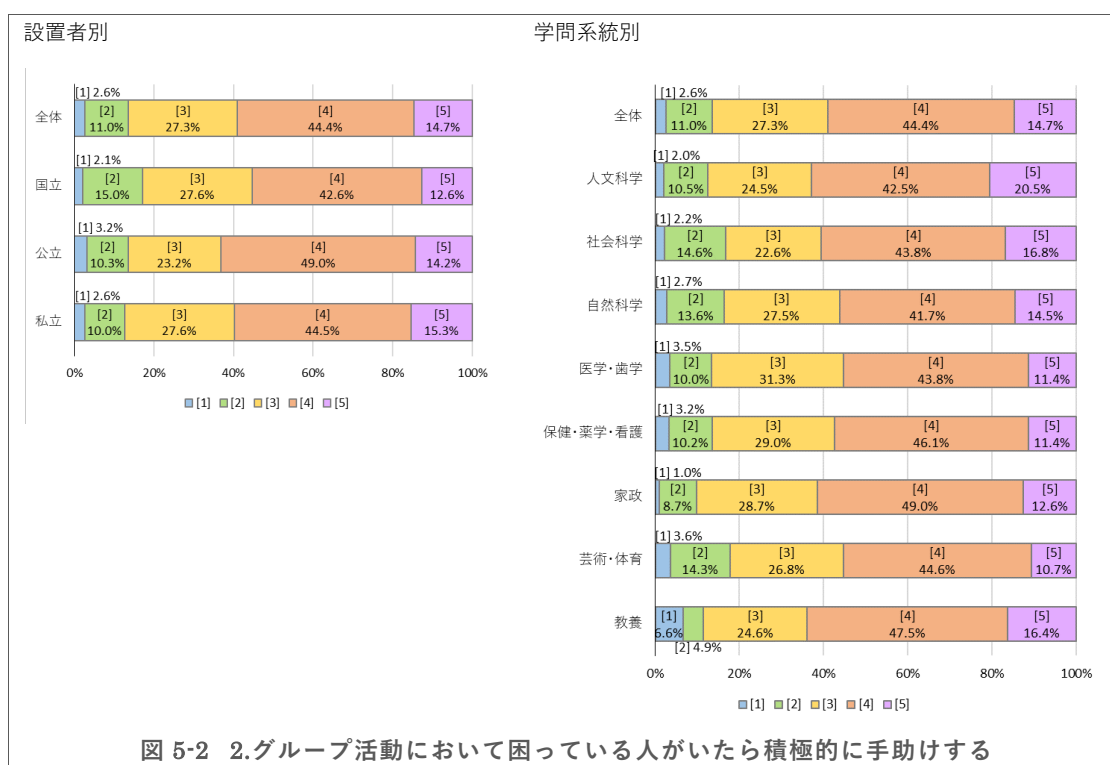
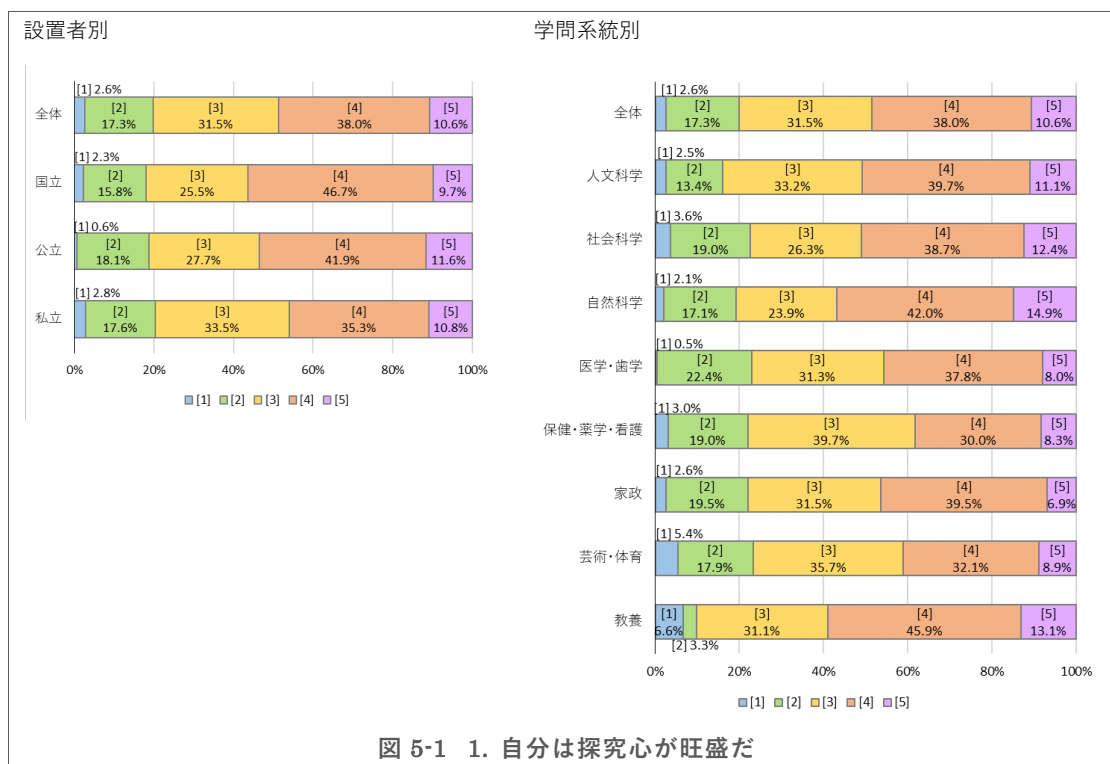
- | |
|-----------------------------------|
| 1. 自分は探究心が旺盛だ |
| 2. グループ活動において困っている人がいたら積極的に手助けする |
| 3. 自分も相手も尊重した言動をとる |
| 4. 色々なアイデアを生み出そうとする |
| 5. 迷惑をかけたことに気づいたら素直に謝る |
| 6. 物事を人と違う視点から見る |
| 7. 失敗を恐れない |
| 8. 話し合いをするとき相手の立場に立った言動をする |
| 9. 自分の考えに固執する＜反転項目＞ |
| 10. 新しい発見をするのが好きだ |
| 11. 既成の枠組みにとらわれずに物事を考える |
| 12. 得た情報が信頼できるかどうか様々な視点で判断する |
| 13. 既存例から独自性を見出そうとする |
| 14. 意見を批判されると自分が否定されたように感じる＜反転項目＞ |
| 15. 今まで知らなかったことを知ることに面白みを感じる |
| 16. 複雑な問題を考えると混乱してしまう＜反転項目＞ |
| 17. 解決すべき問題を探りながら物事を決める |
| 18. 新しいことに積極的に取り組む |
| 19. 相手の話をしっかり聞きながら対話する |
| 20. 失敗を人のせいにする＜反転項目＞ |
| 21. 結論をくだす場合には確たる証拠の有無にこだわる |
| 22. 人の役に立つことをしたい |
| 23. 根拠に基づいて判断する |
| 24. 論理的にレポートを書ける |
| 25. 自分さえ良ければいい＜反転項目＞ |
| 26. 新しいことを考えて人を驚かせたい |
| 27. 理由を考えずに判断する＜反転項目＞ |
| 28. 新しいことに取り組むのは億劫だ＜反転項目＞ |
| 29. 人と違うことを考えることが好きである |

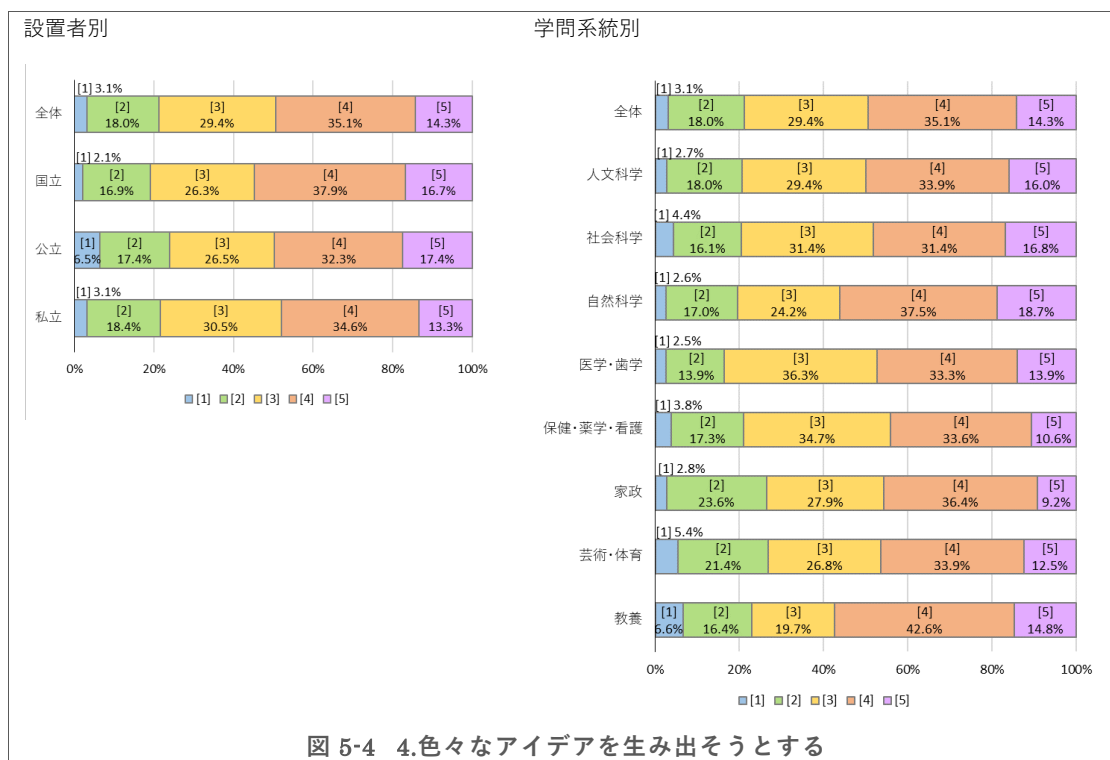
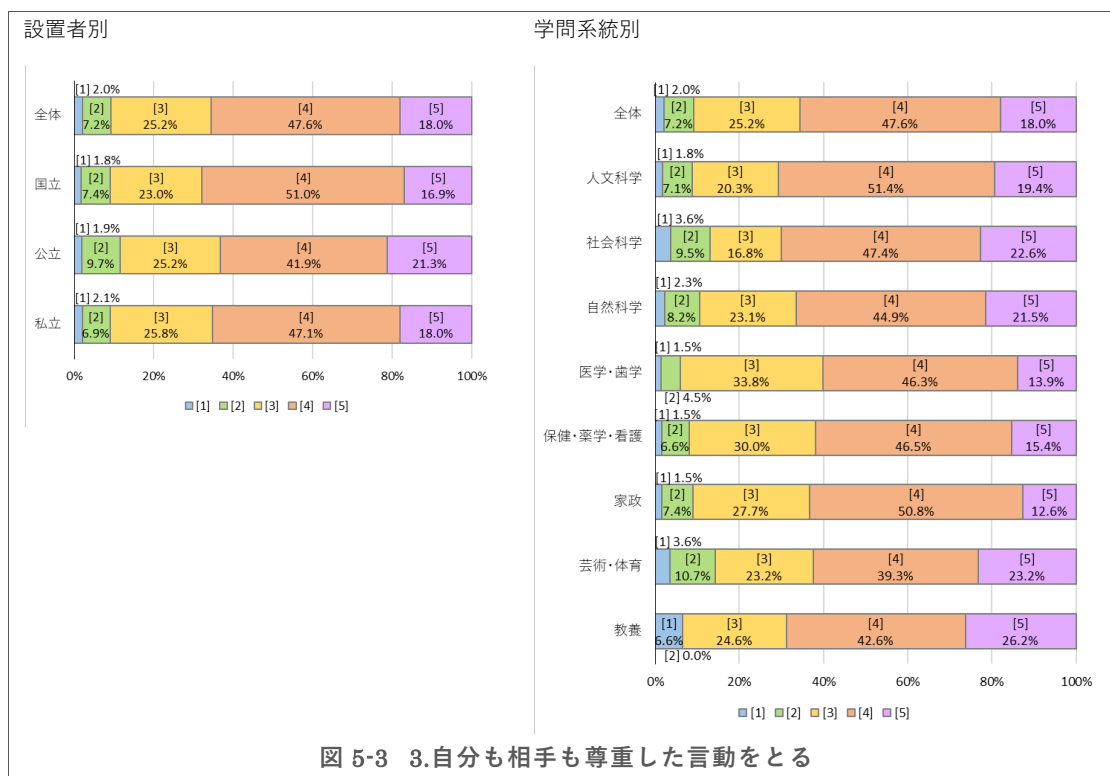
30. 他人と協力したいとは思わない<反転項目>
31. 物事を感覚で捉える<反転項目>
32. グループで物事を決めるとき自発的に発言する
33. 自分とは違う考えの人の話は聞きたくない<反転項目>
34. 物事を決めるとき深く考えない<反転項目>
35. 何か思いついても、すぐに別のことに興味が移る<反転項目>
36. 新しく知ったことを自分のアイデアに取り入れる
37. 物事を考えるとき必要な情報を多くの情報の中から選ぶ
38. 話し合いのとき自分の意見を人と合わせようとは思わない<反転項目>
39. 人と違うアイデアを出したい
40. 問題が解決しても更により方法を考える
41. どんなことにでも自分の持っているアイデアを生かそうとする
42. 言われたことにはそのまま従う<反転項目>
43. 判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる
44. グループ活動において自分の役割を考える
45. 他の人が見過ごしがちな事にもあえて疑問を持つ
46. 物事を筋道立てて考える
47. 自分のものと違う意見であっても受け入れる
48. 直感に頼らず客観的に考える
49. アイデアが浮かんだとき、その実現手段も考える
50. グループ内で意見が対立しているとき両者が歩み寄れるように調整しようとする
51. ディスカッションをするときの外れな発言をしてしまう<反転項目>
52. 自分の過ちを素直に認めるのは難しい<反転項目>
53. 疑問に思ったことは納得できるまで調べる
54. 失敗から何かを学ぼうとする
55. 話し合いをするとき自分の主張を押し通す<反転項目>
56. 複雑な問題について順序立てて考える
57. 新しい発想が浮かんでも行動には移さない<反転項目>
58. 直感を信じて判断する<反転項目>
59. 起こった問題や結果に対して要因を繰り返し何度も考えながら深掘りしていく
60. 他の人と同じ考え方だと安心する<反転項目>
61. 思いついたことは完成するまでやり遂げる
62. 困っている人がいても他の人が助けるだろうと思う<反転項目>
63. 他の人と違う考え方をしていることが多い
64. アイデアを自ら生み出したり考えたりすることに興味が無い<反転項目>
65. ディスカッションをするとき明確な根拠を持った上で自分の意見を言う
66. 知っている知識から必要なものを選び出せない<反転項目>
67. その場の状況に合わせて自分の気持ちをうまくコントロールする

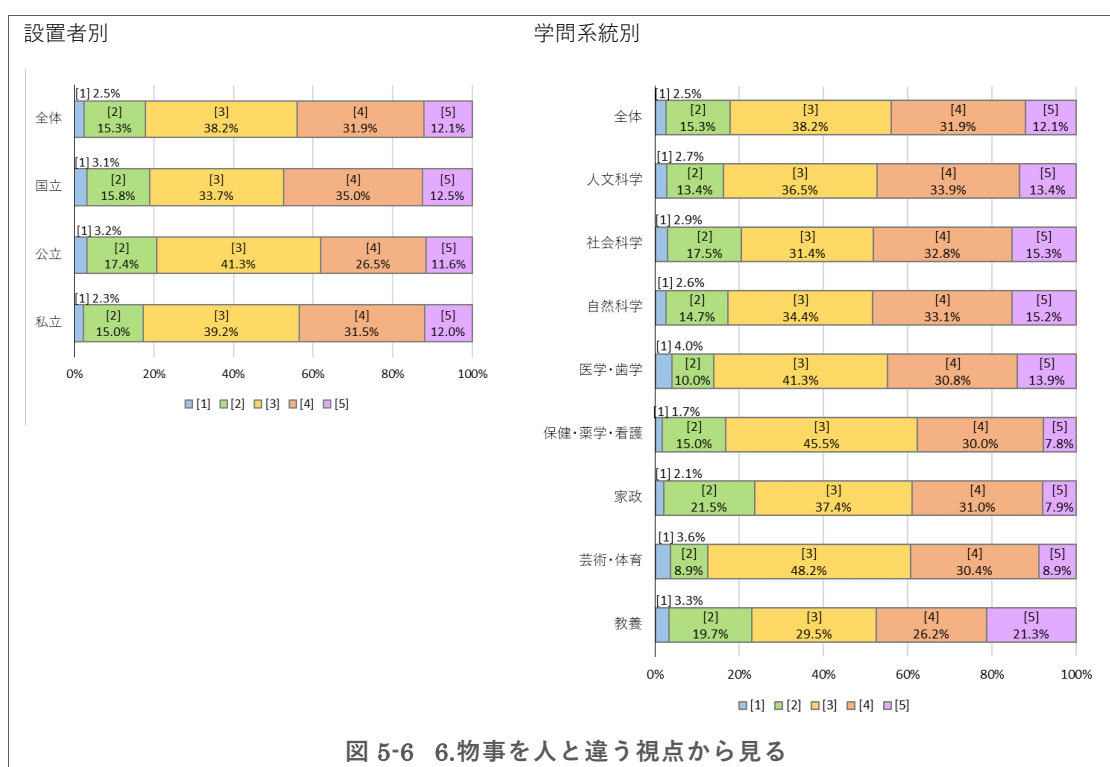
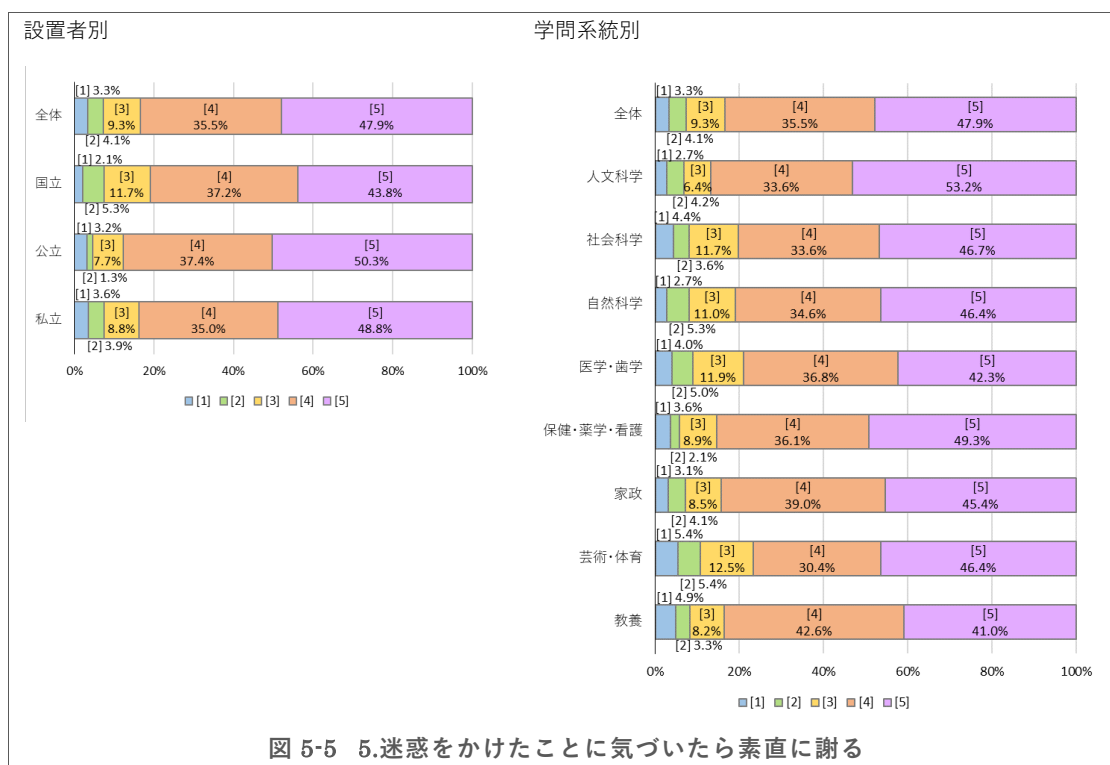
2. 各設問における回答割合（設置者別・学問系統別）

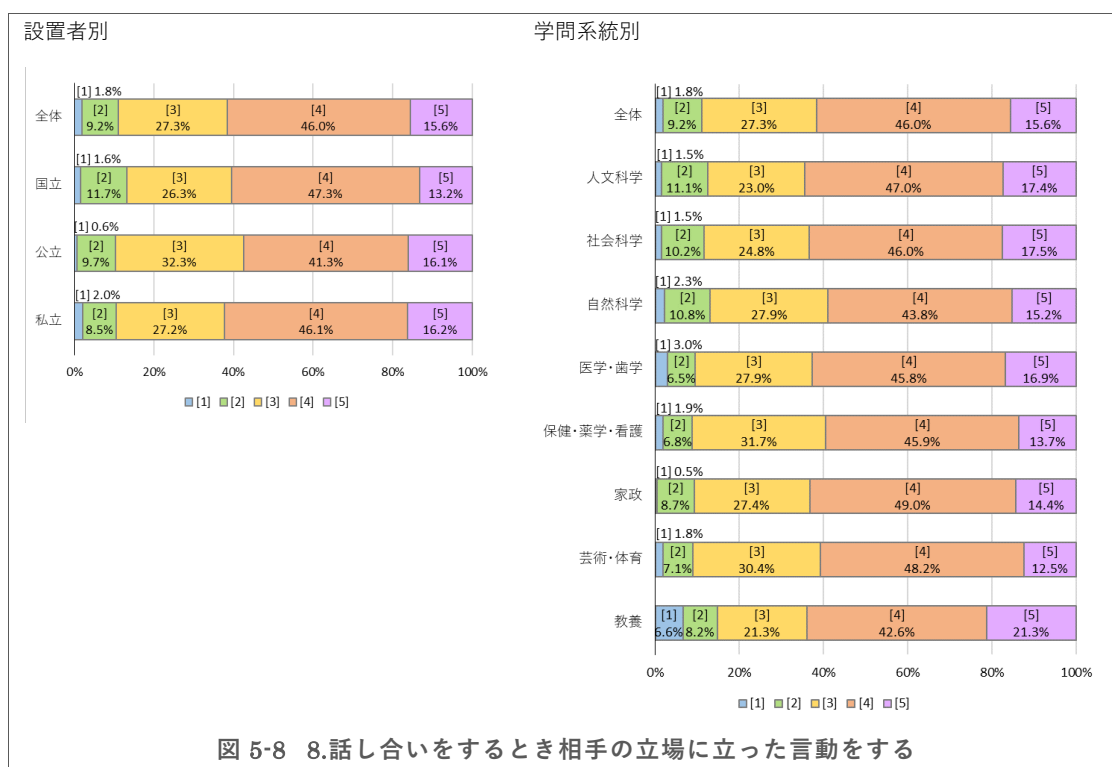
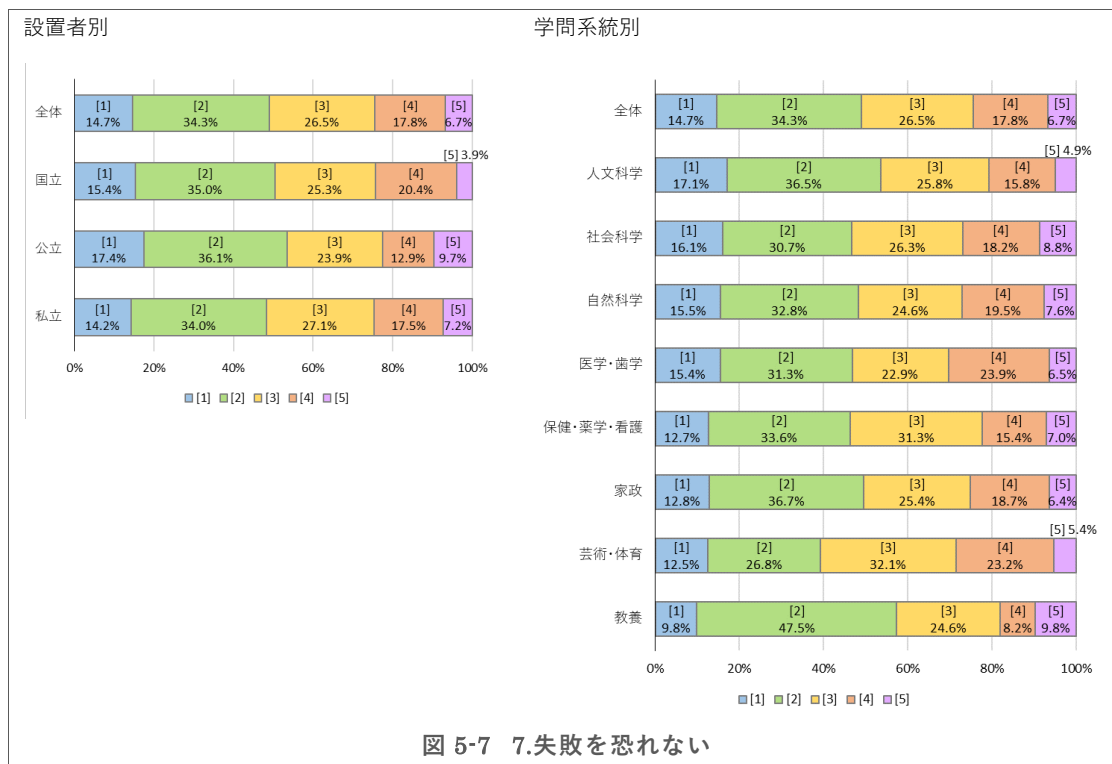
集計結果は以下の通りである。

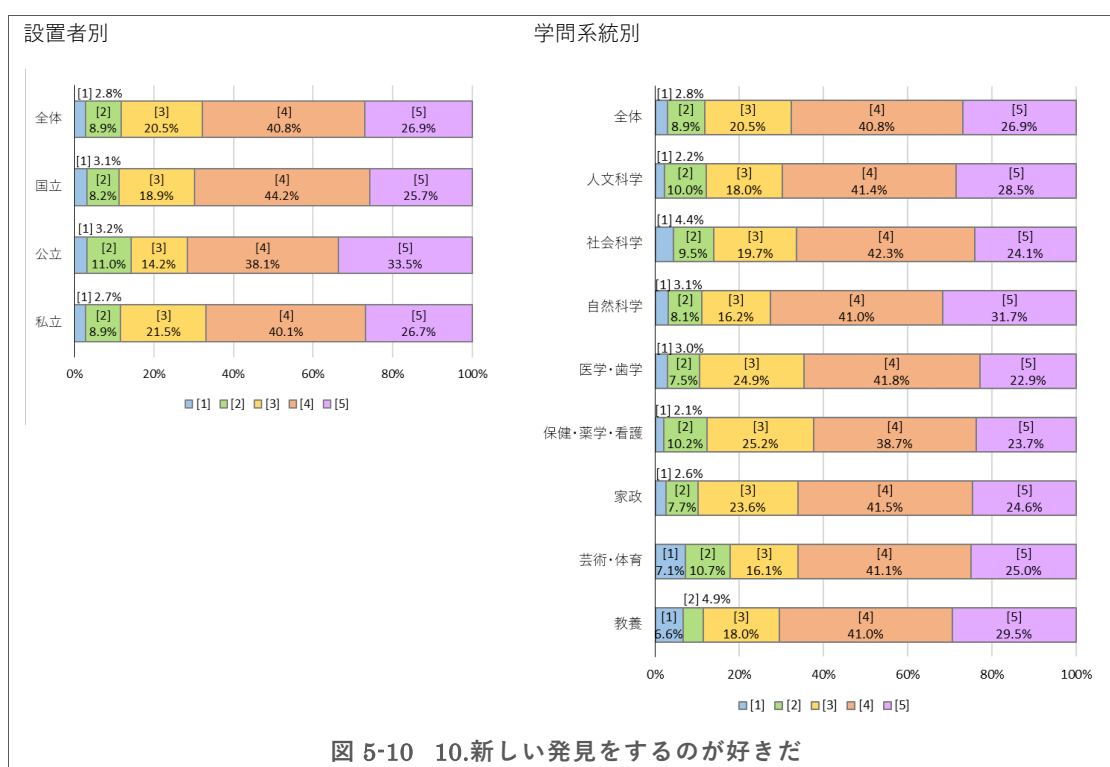
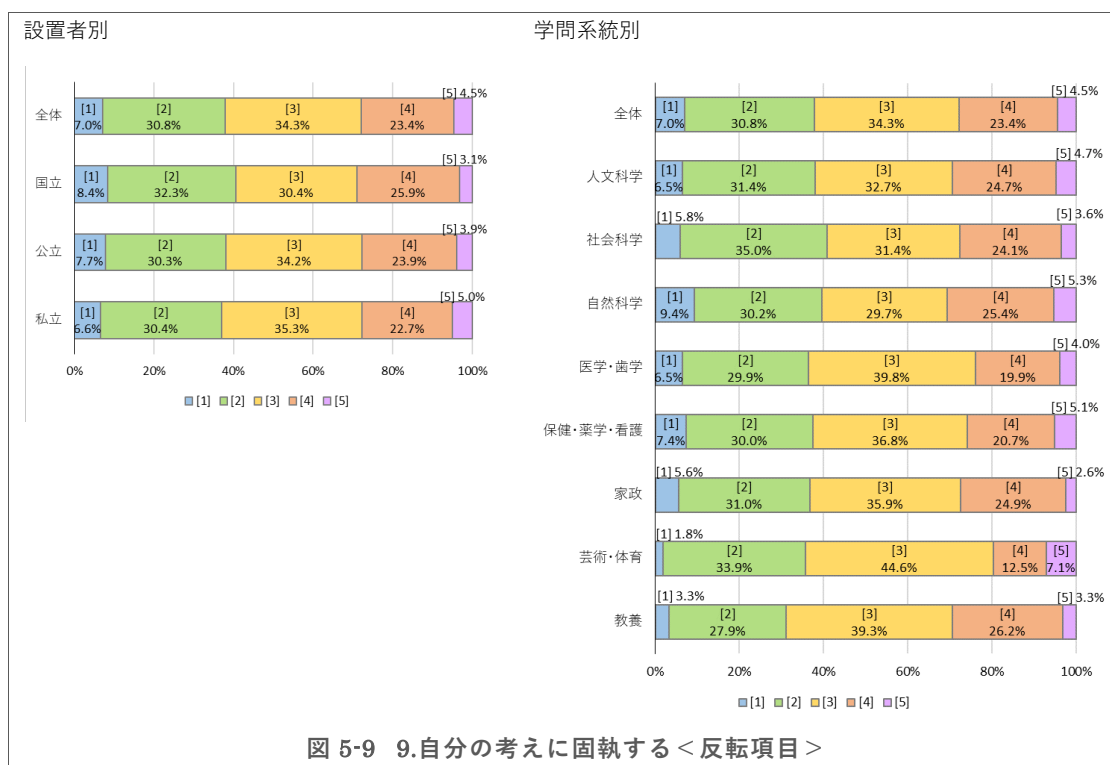
【選択肢】 [1] 全く当てはまらない [2] あまり当てはまらない [3] どちらとも言えない
[4] やや当てはまる [5] 大いに当てはまる

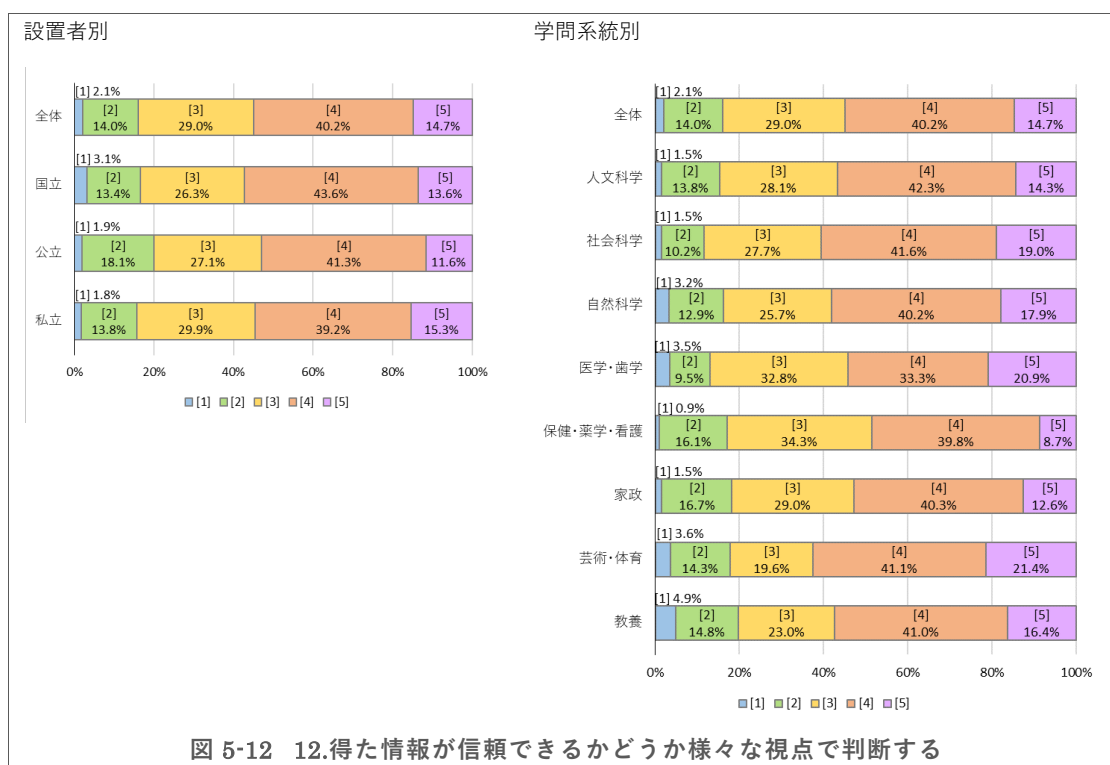
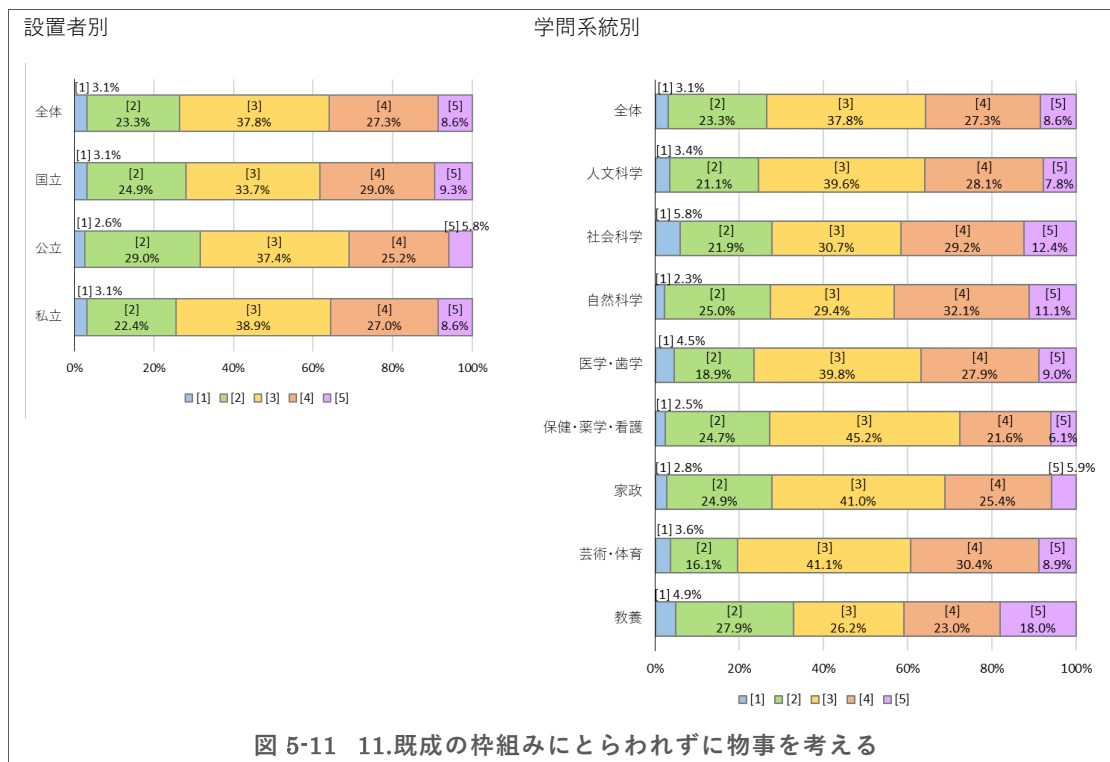


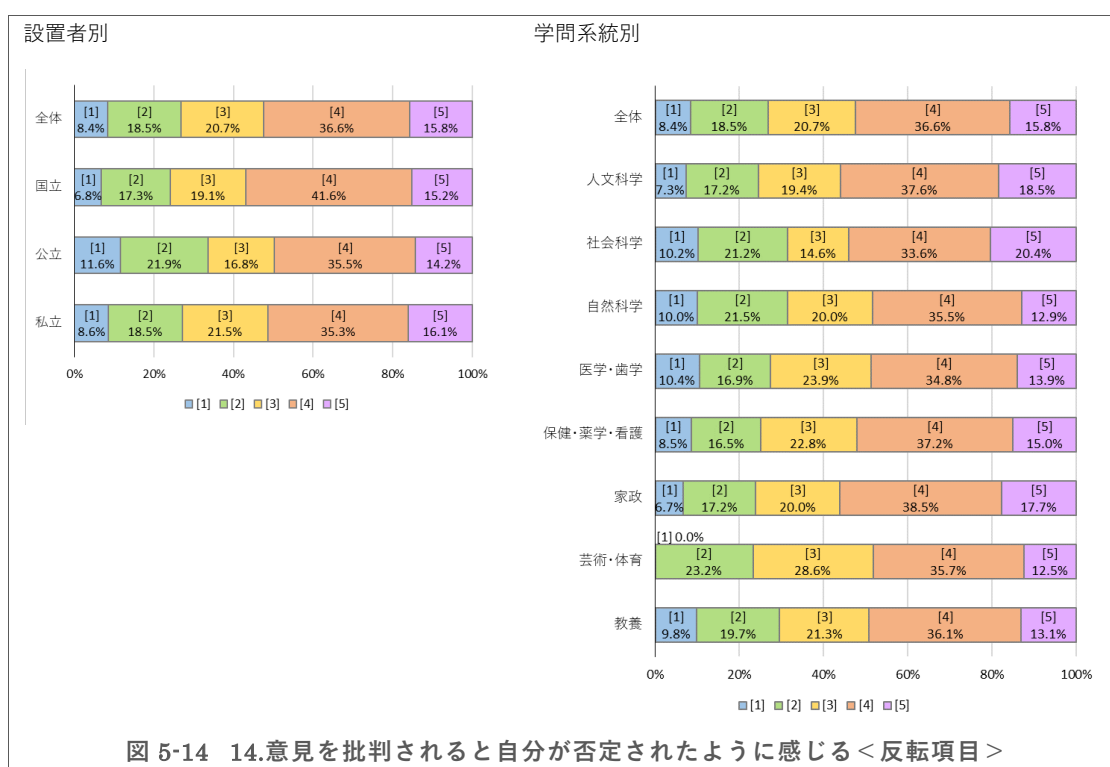
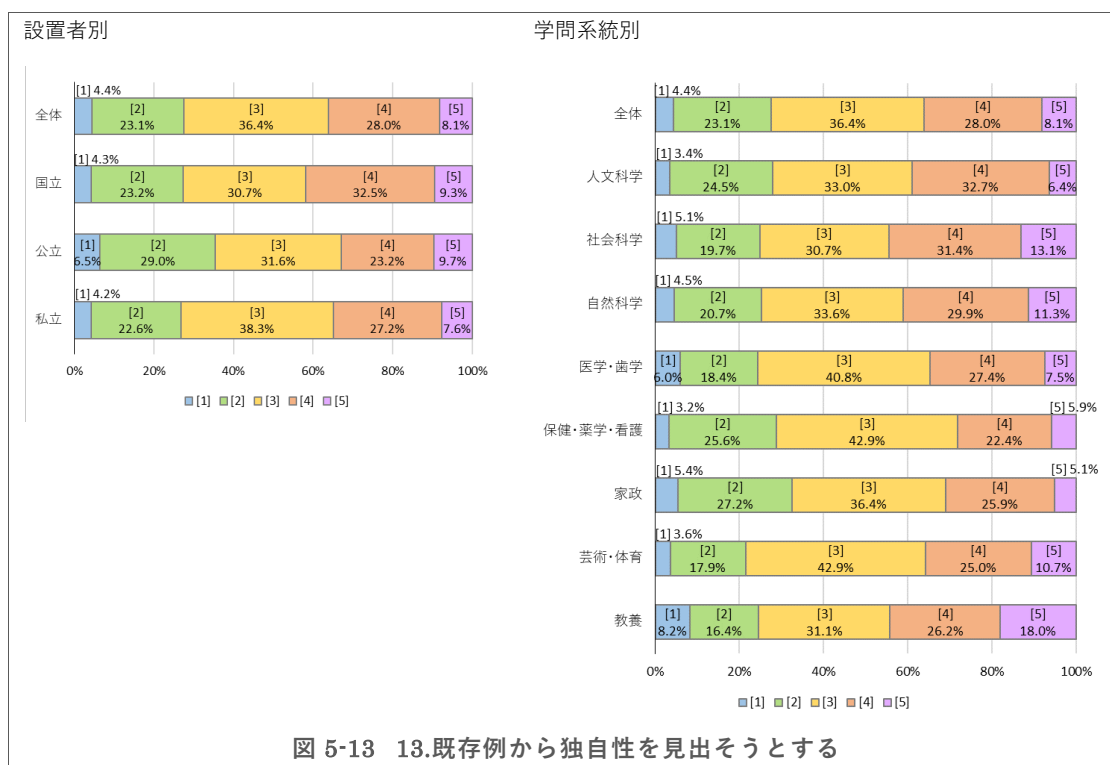


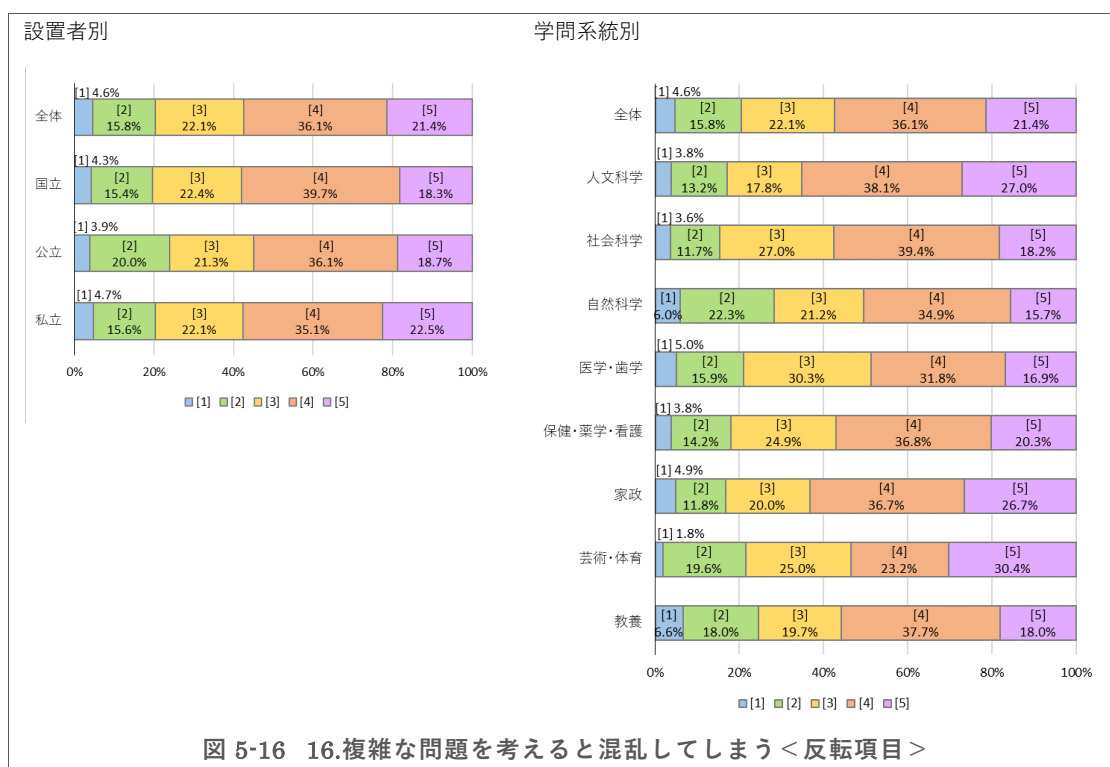
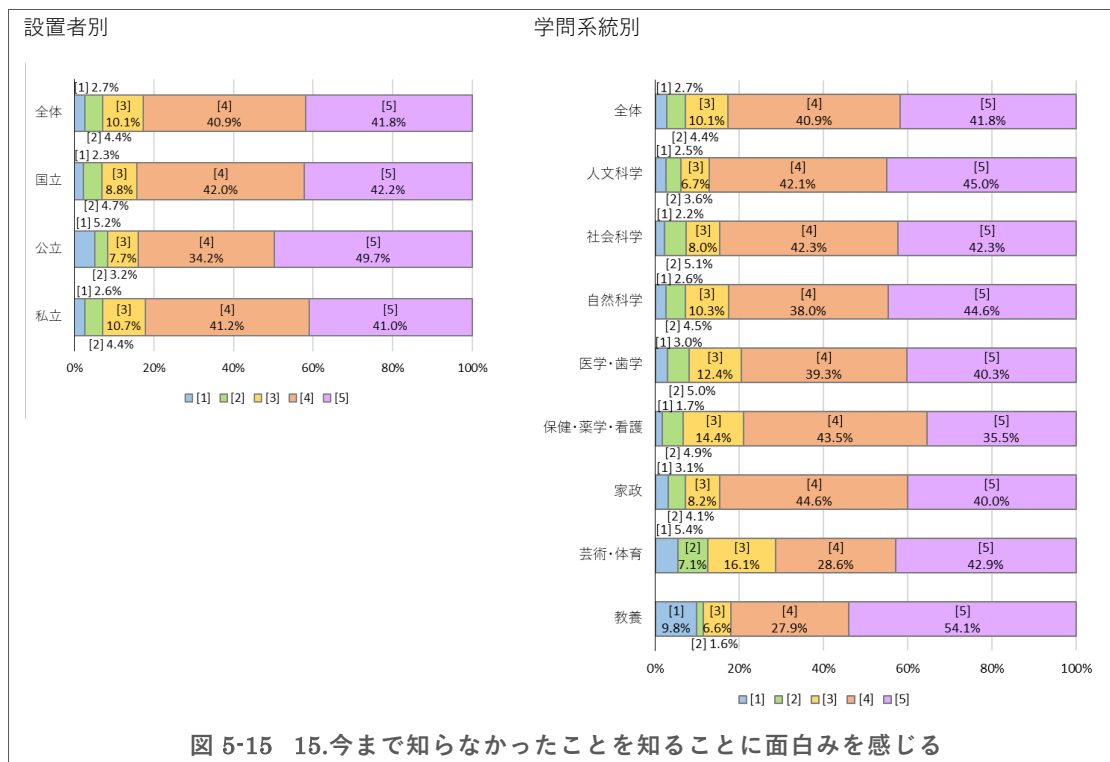


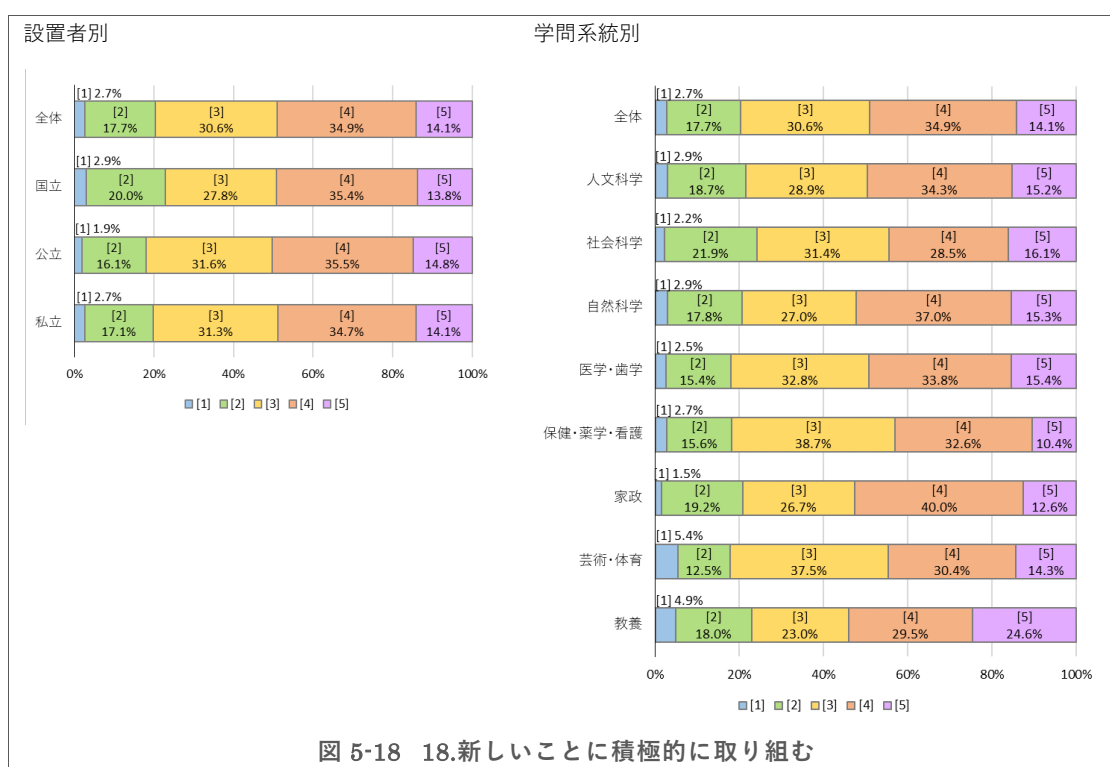
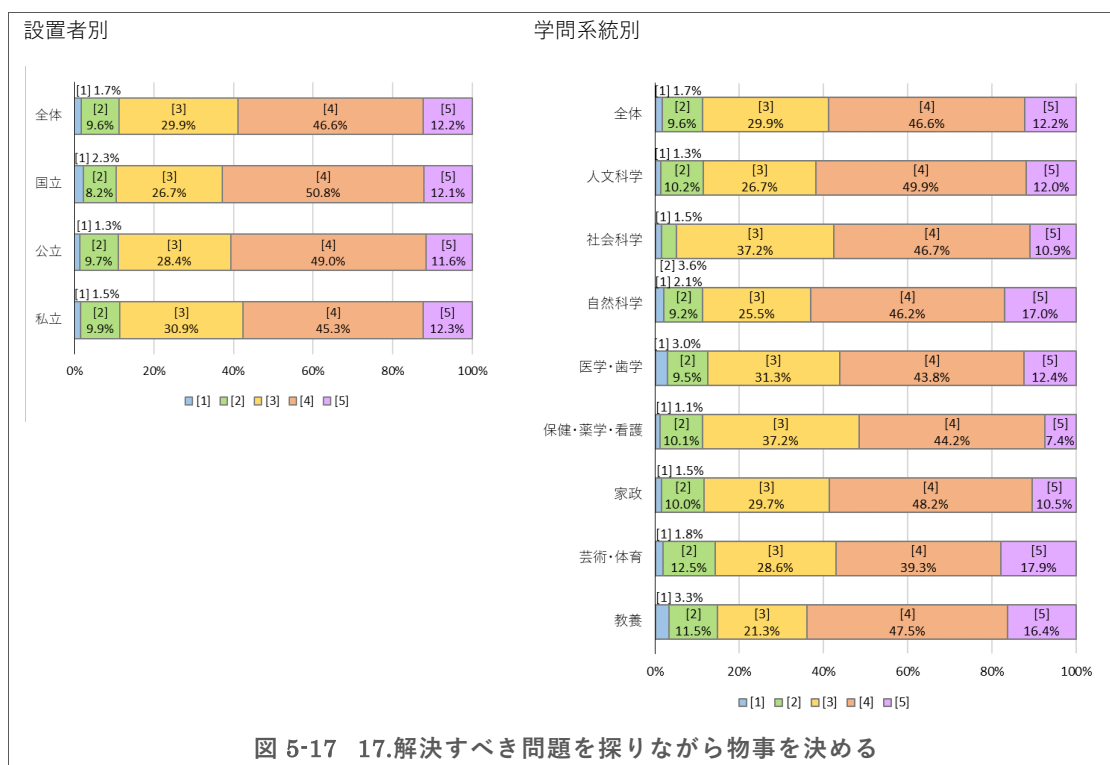


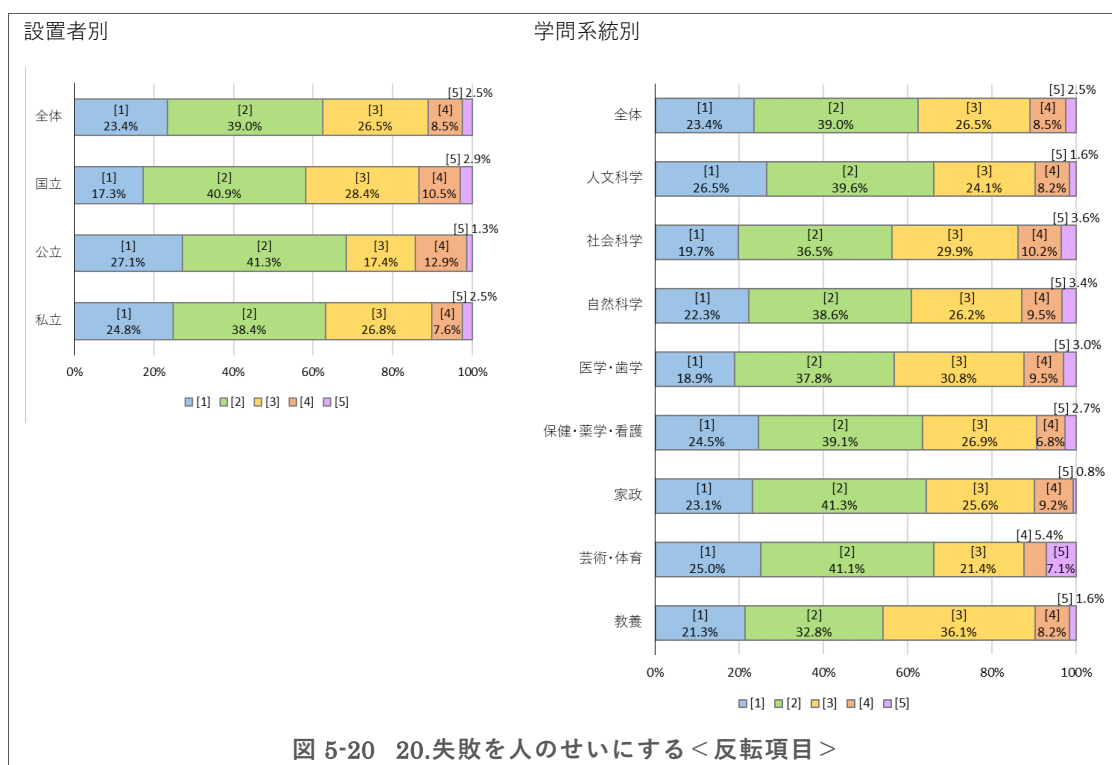
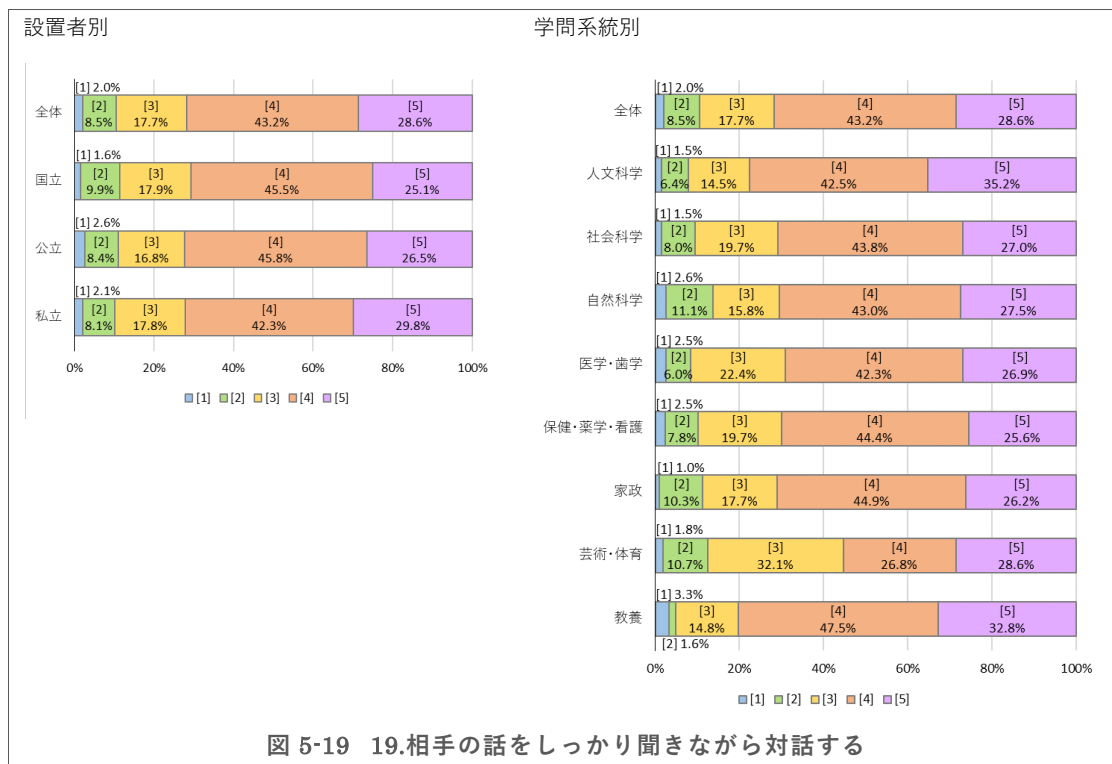


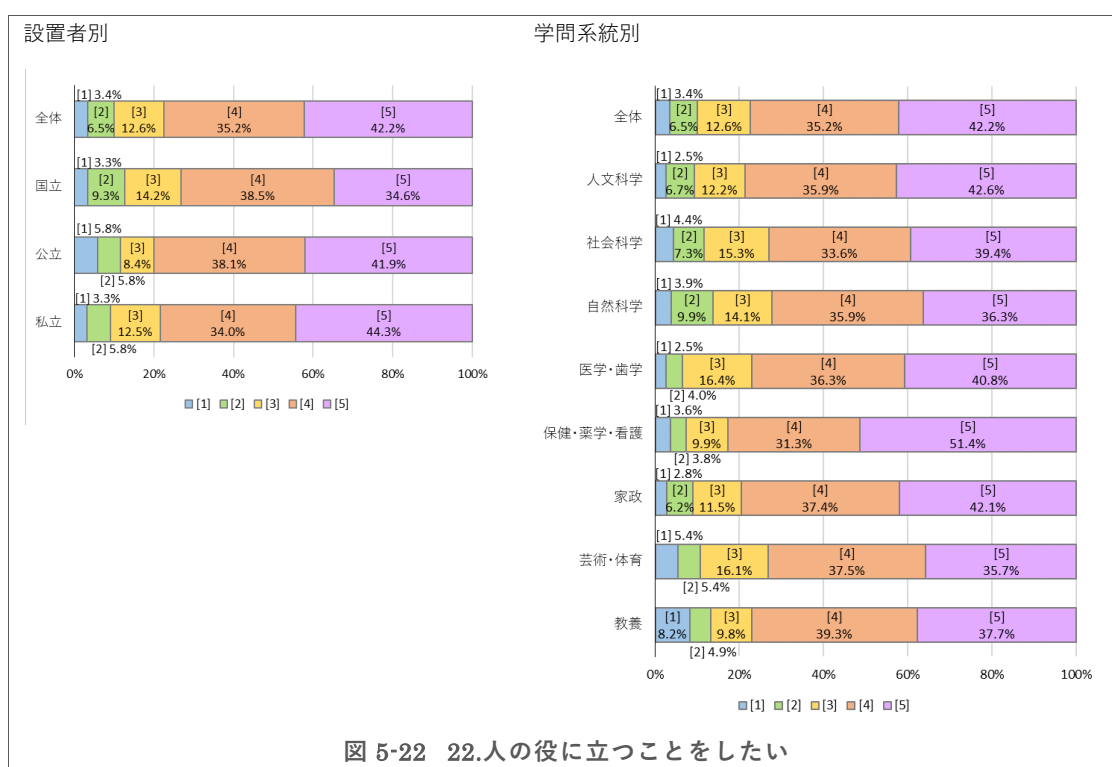
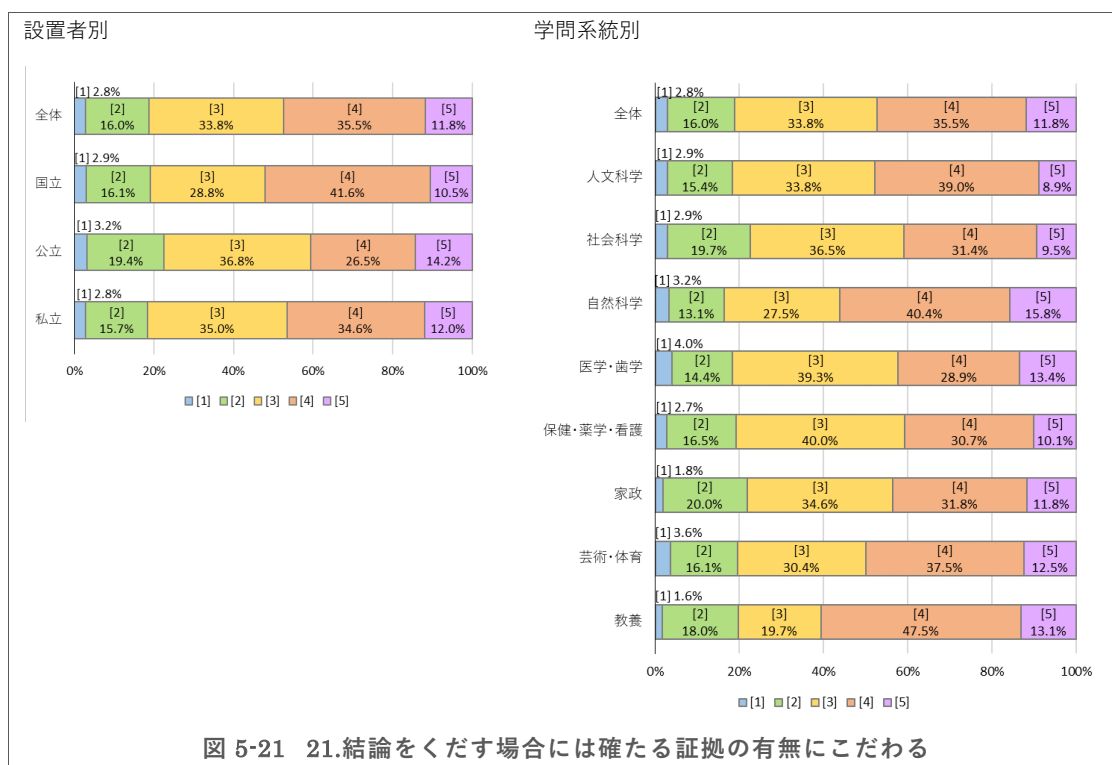


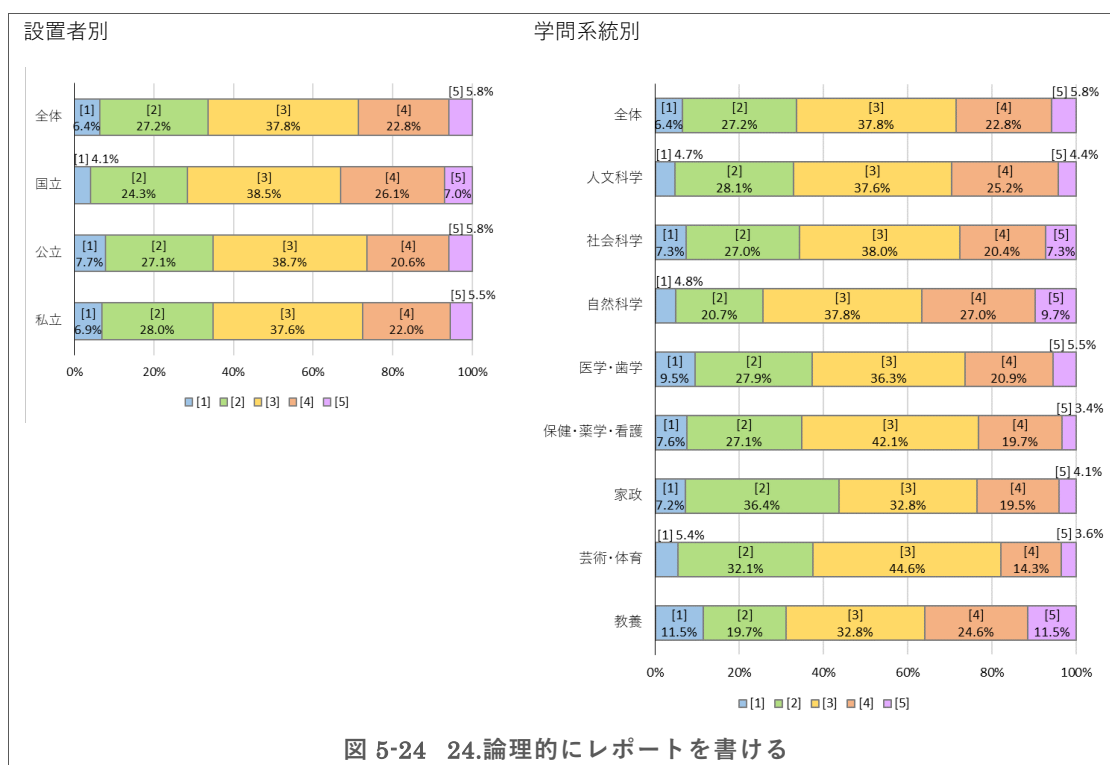
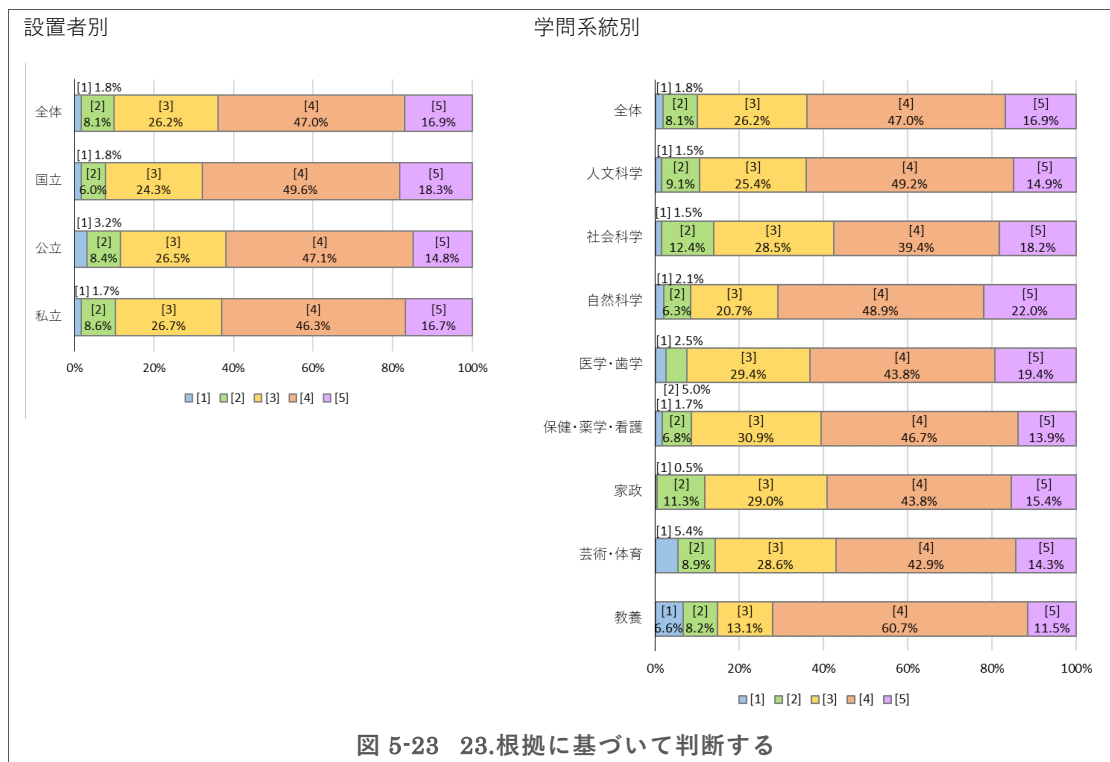


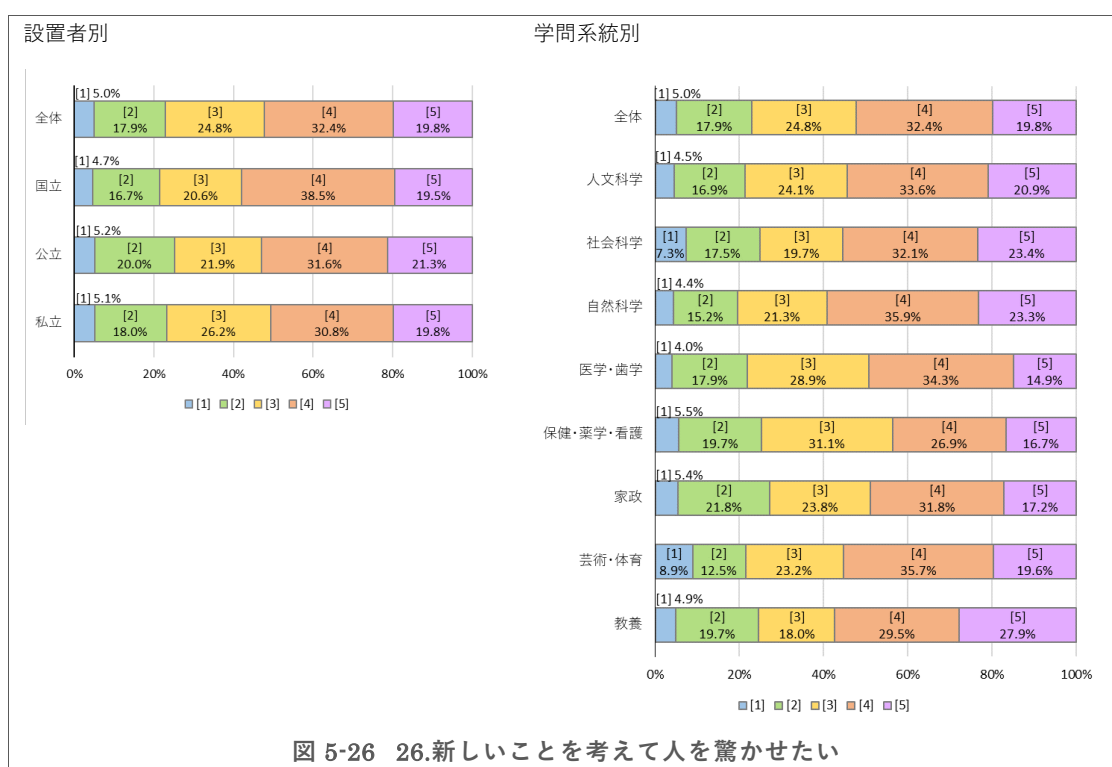
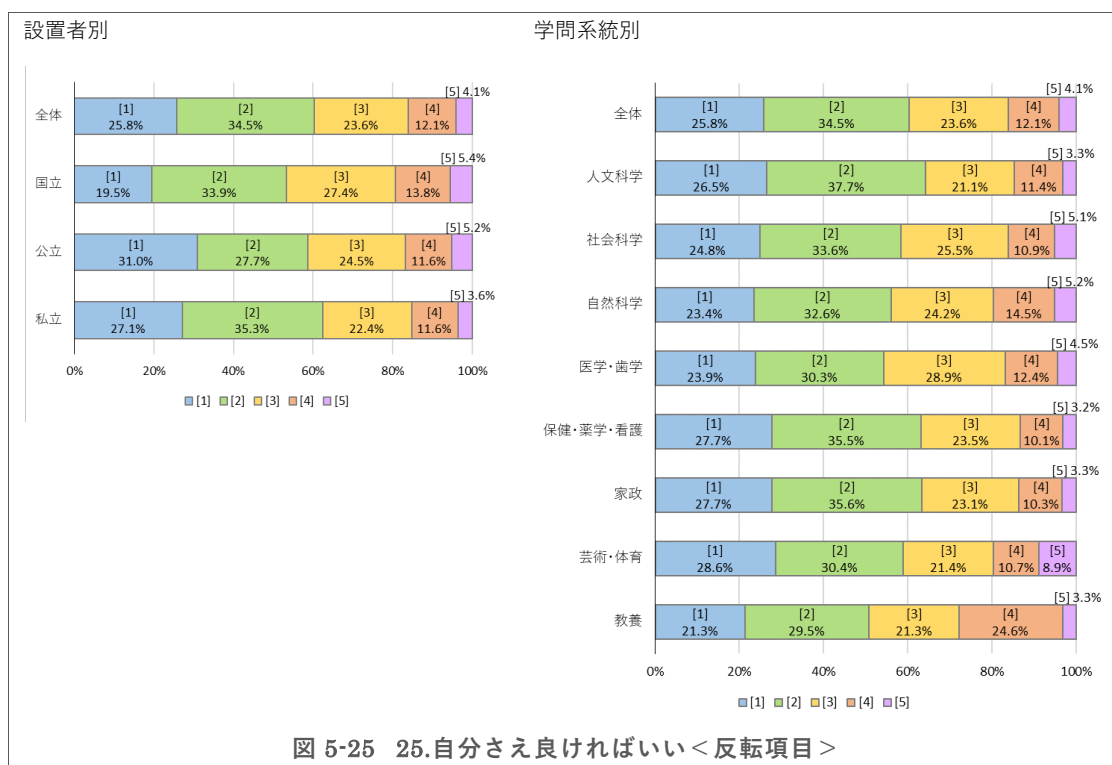


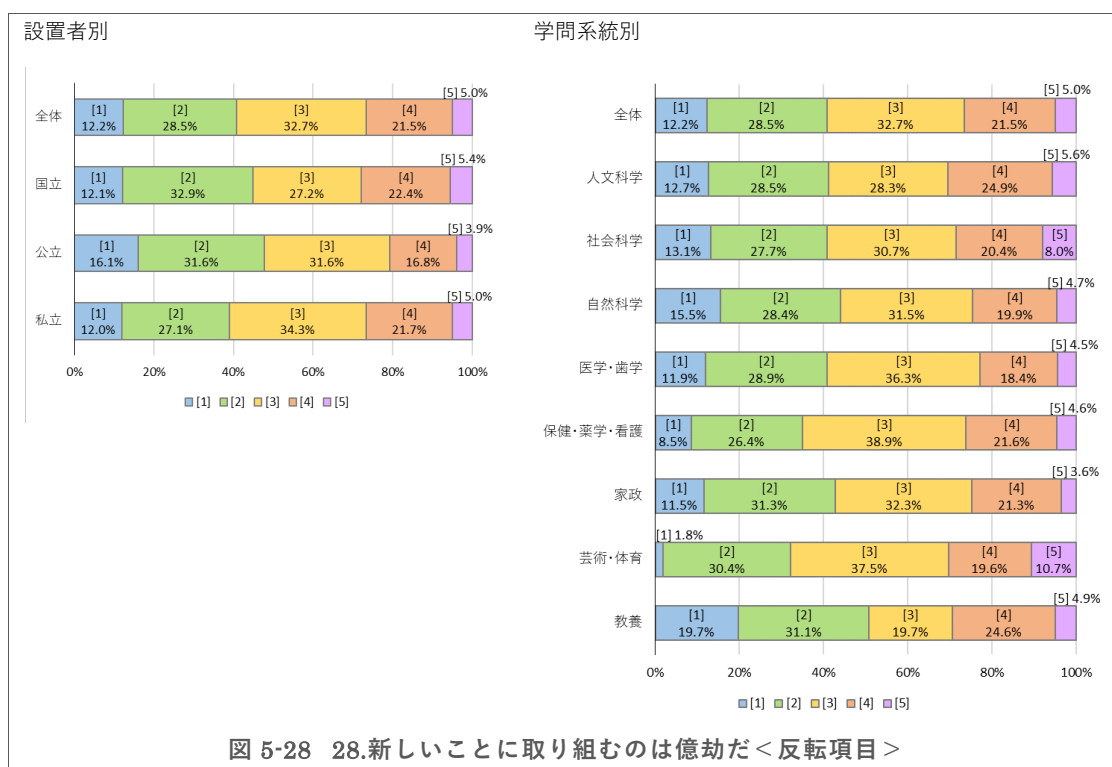
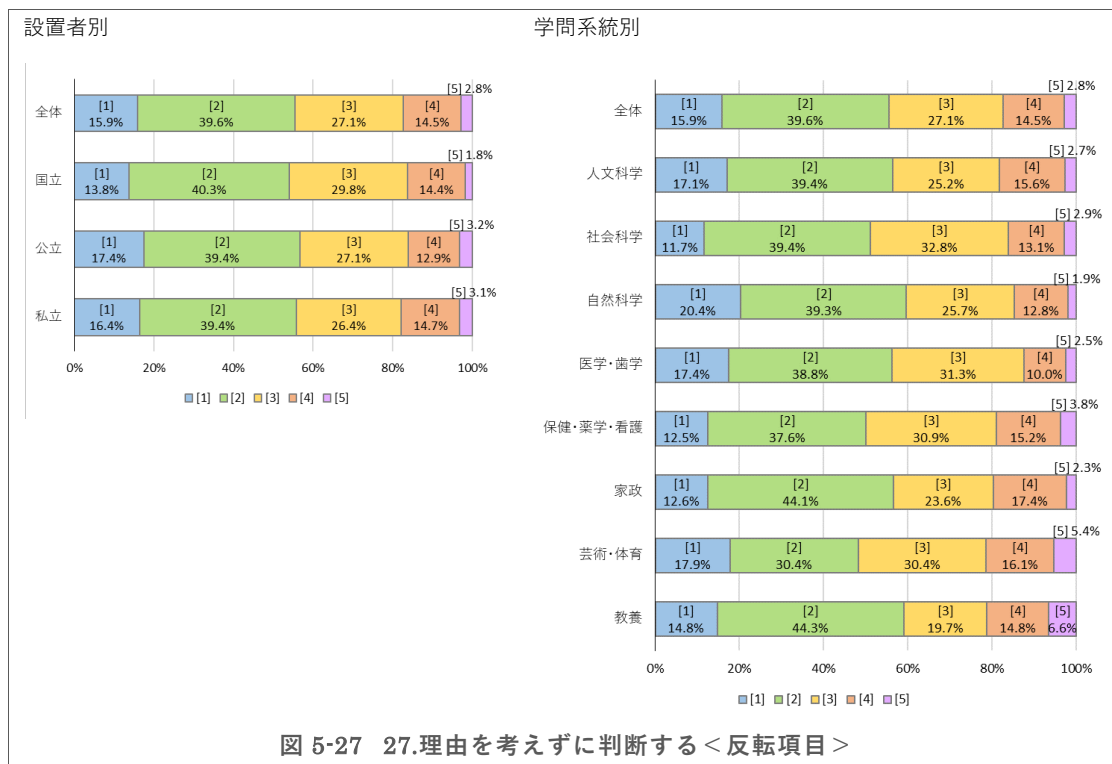


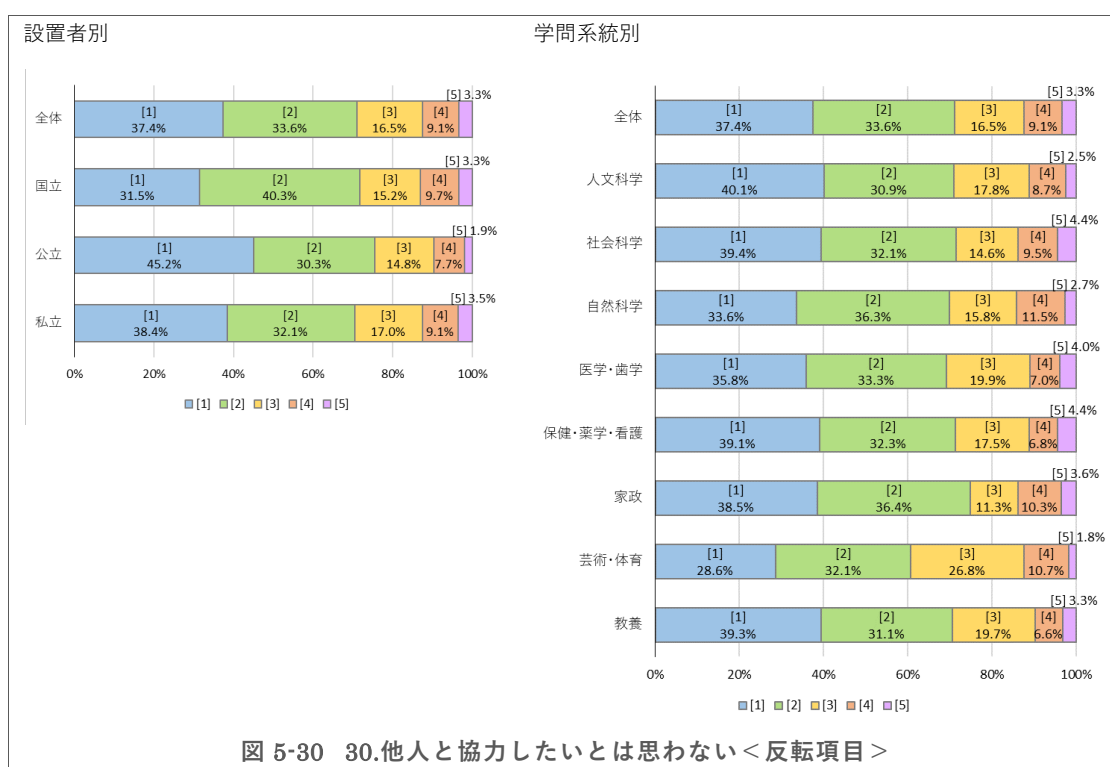
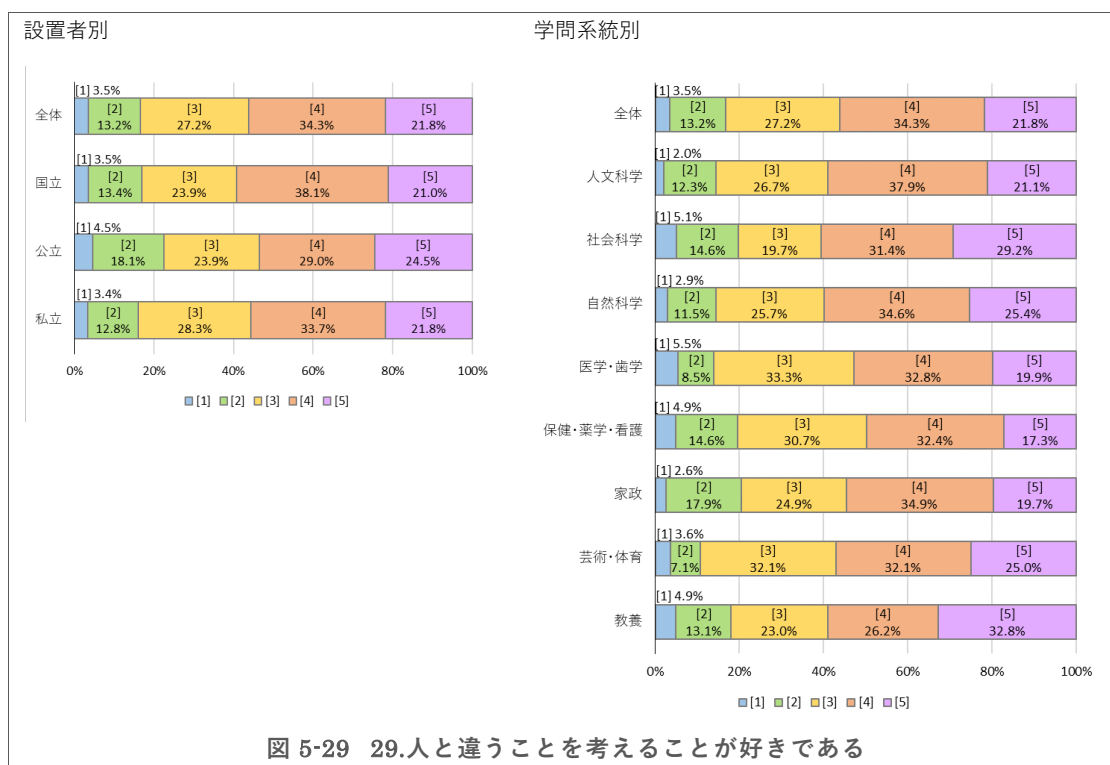


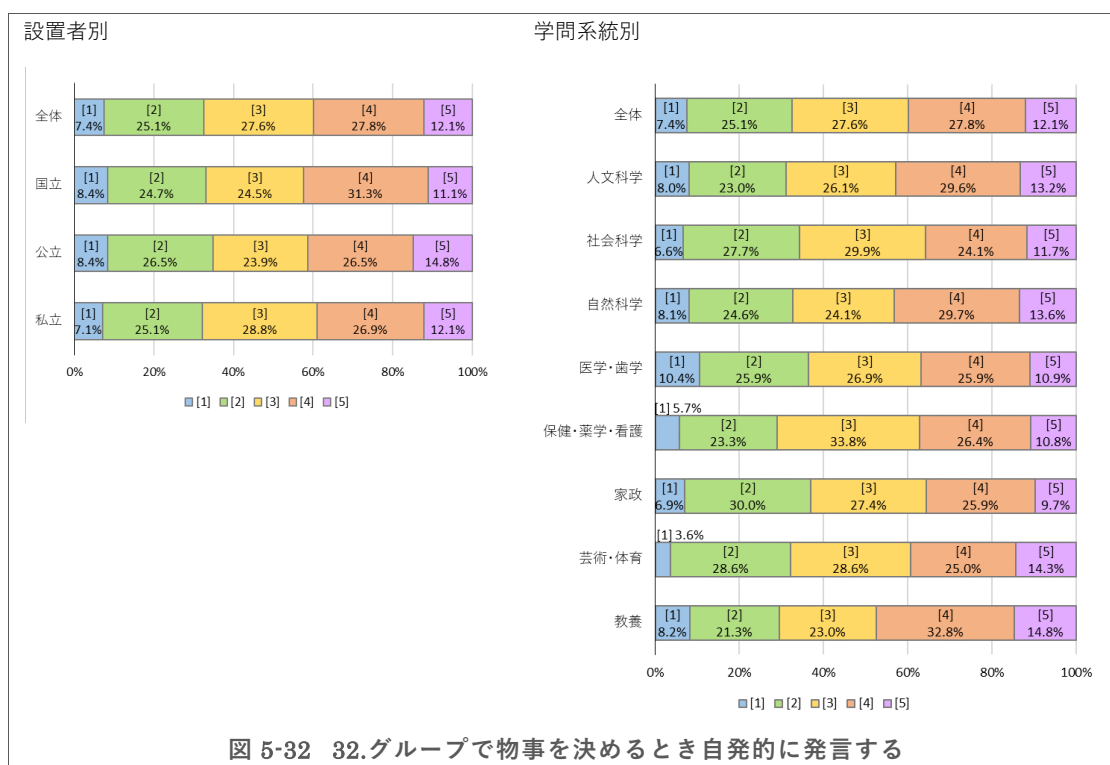
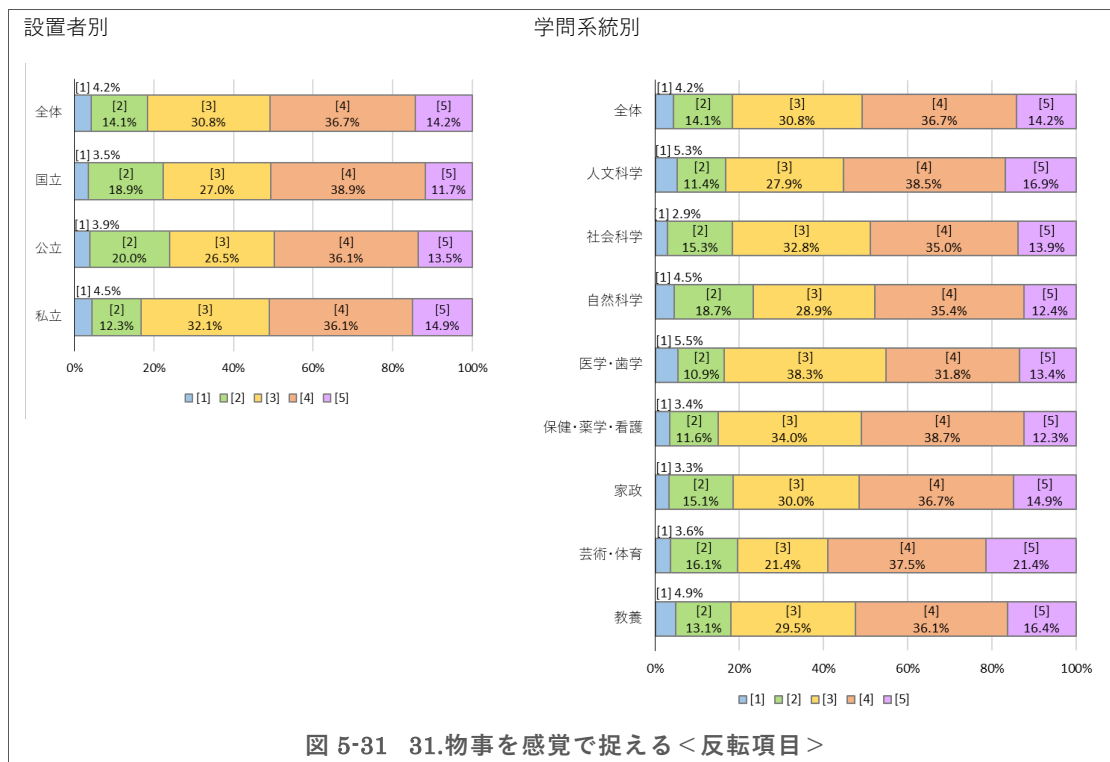


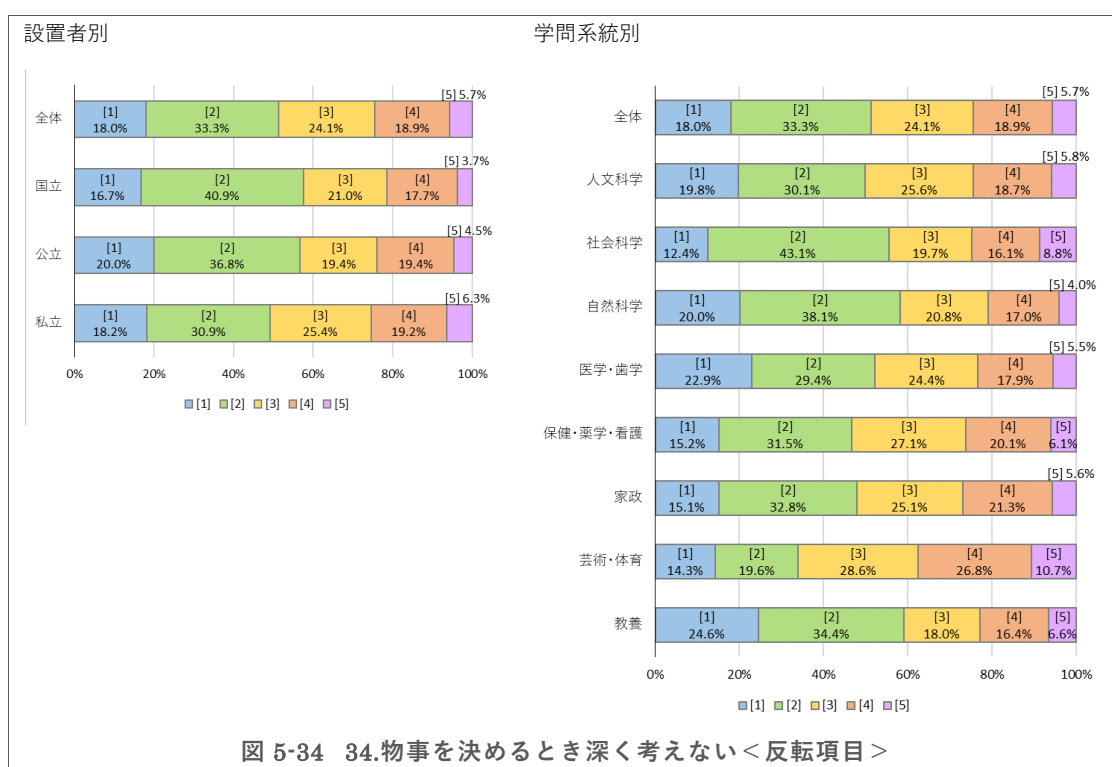
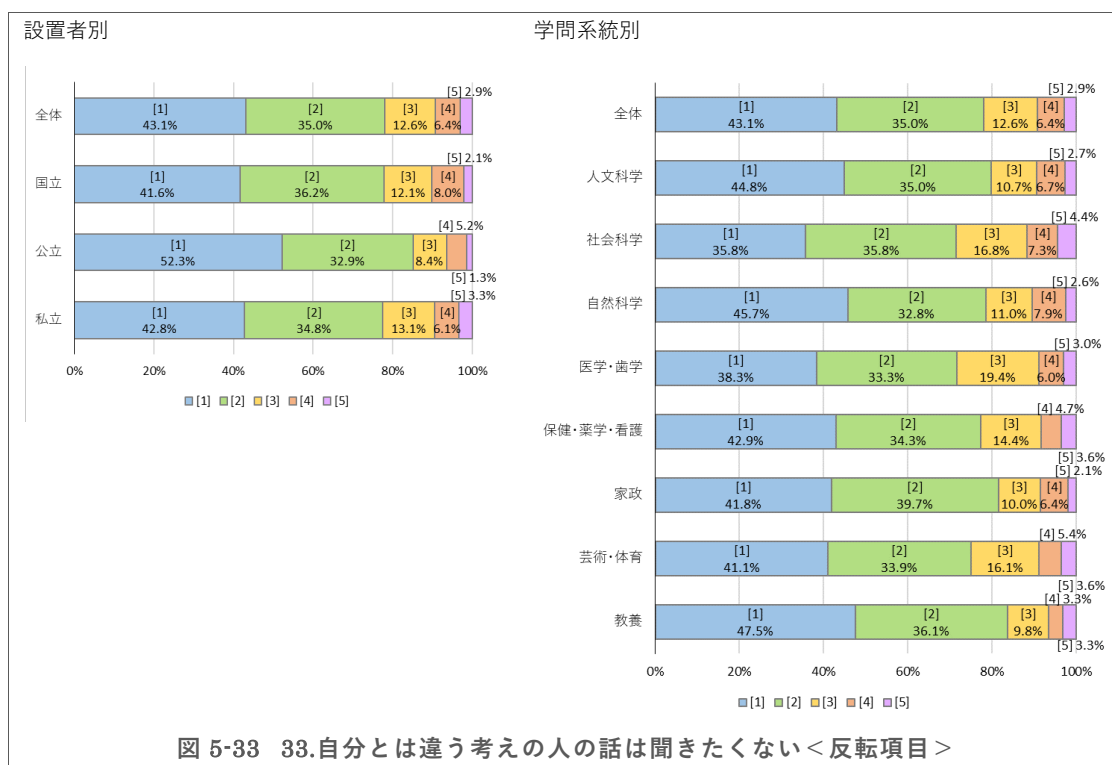


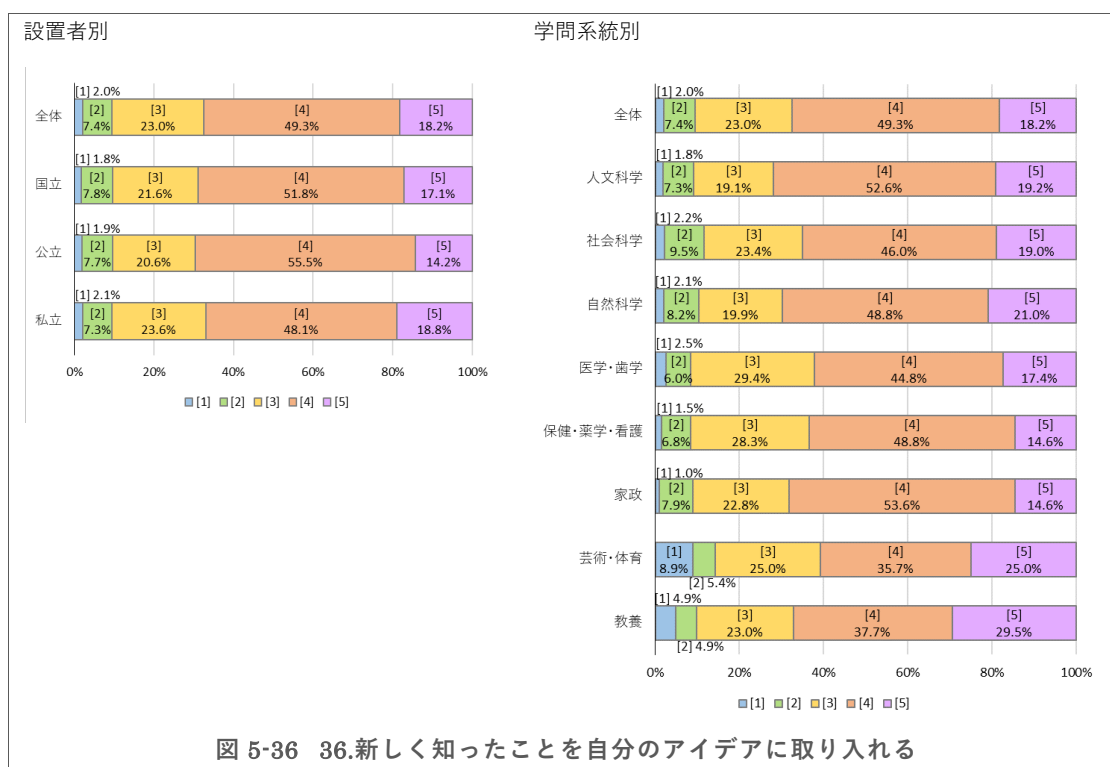
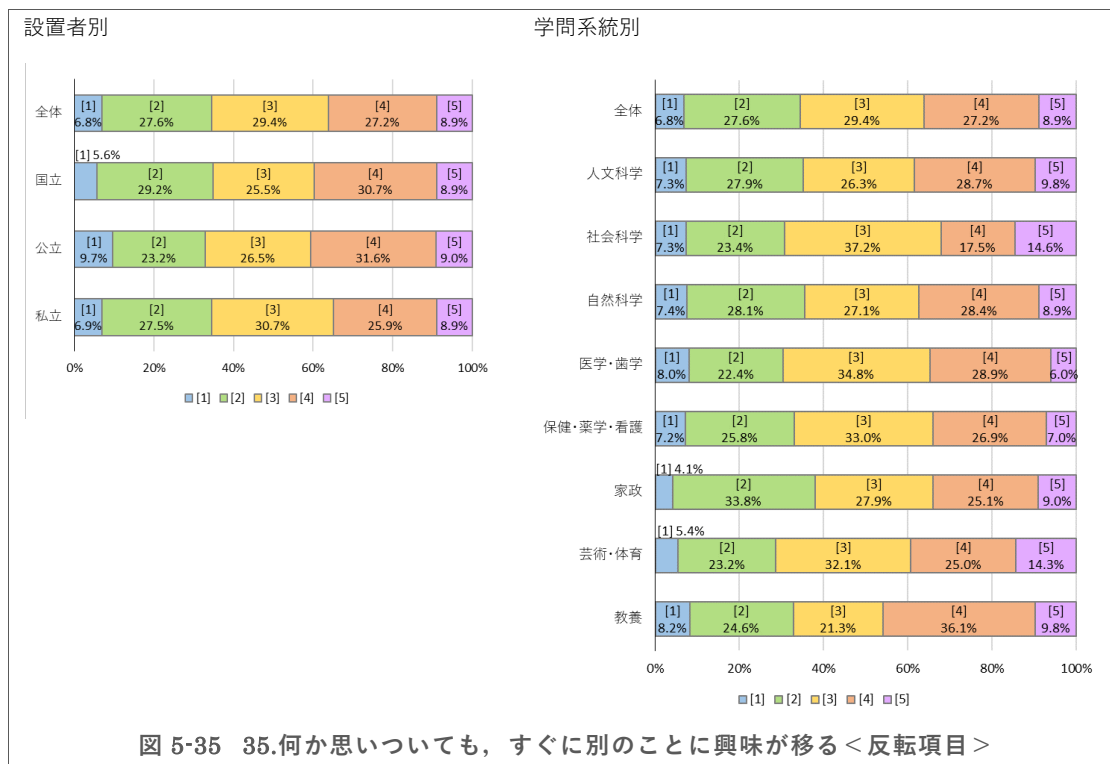


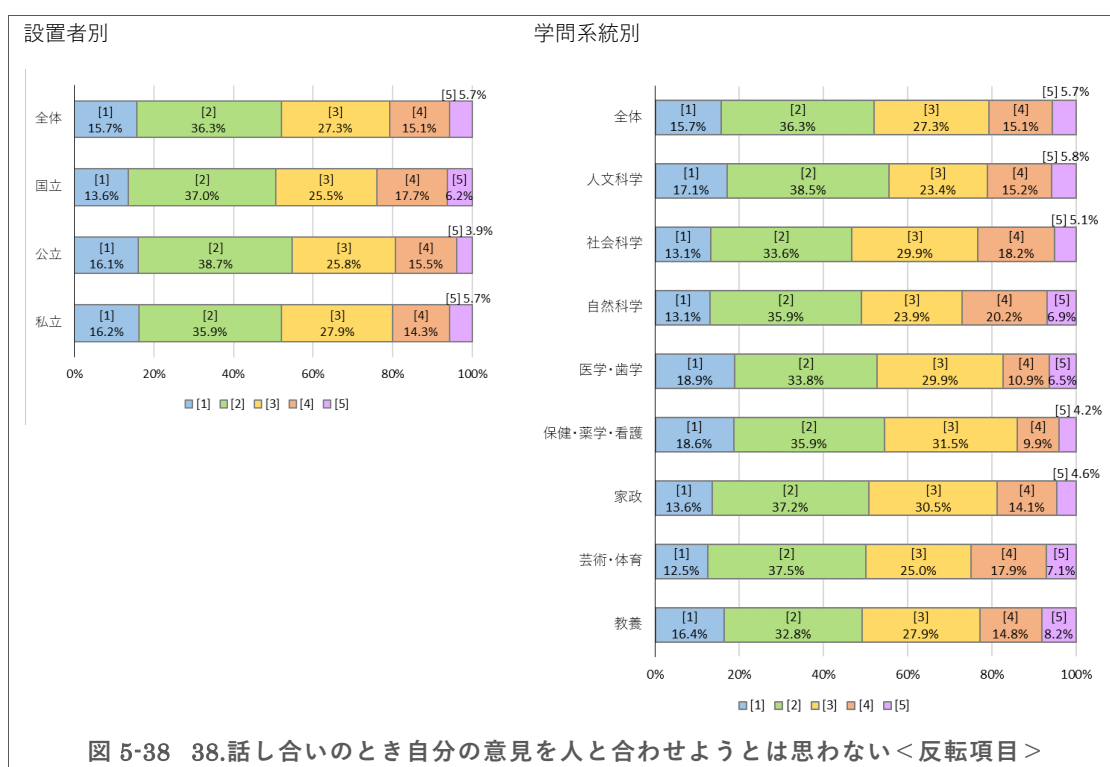
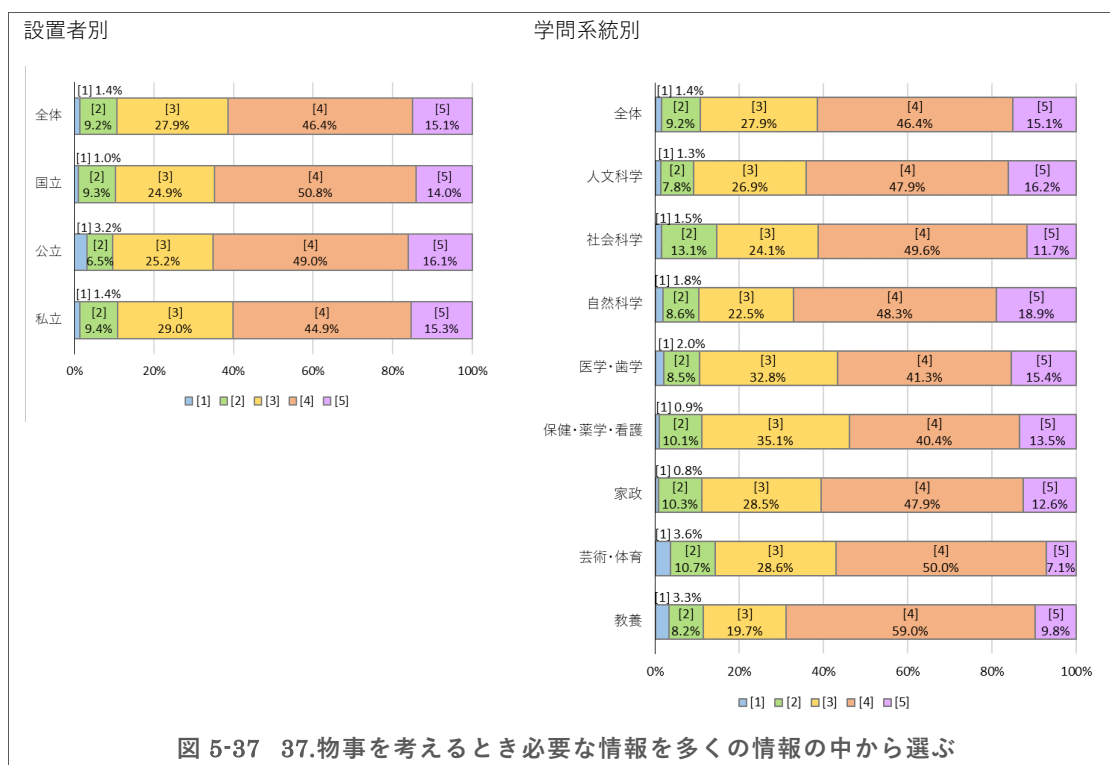


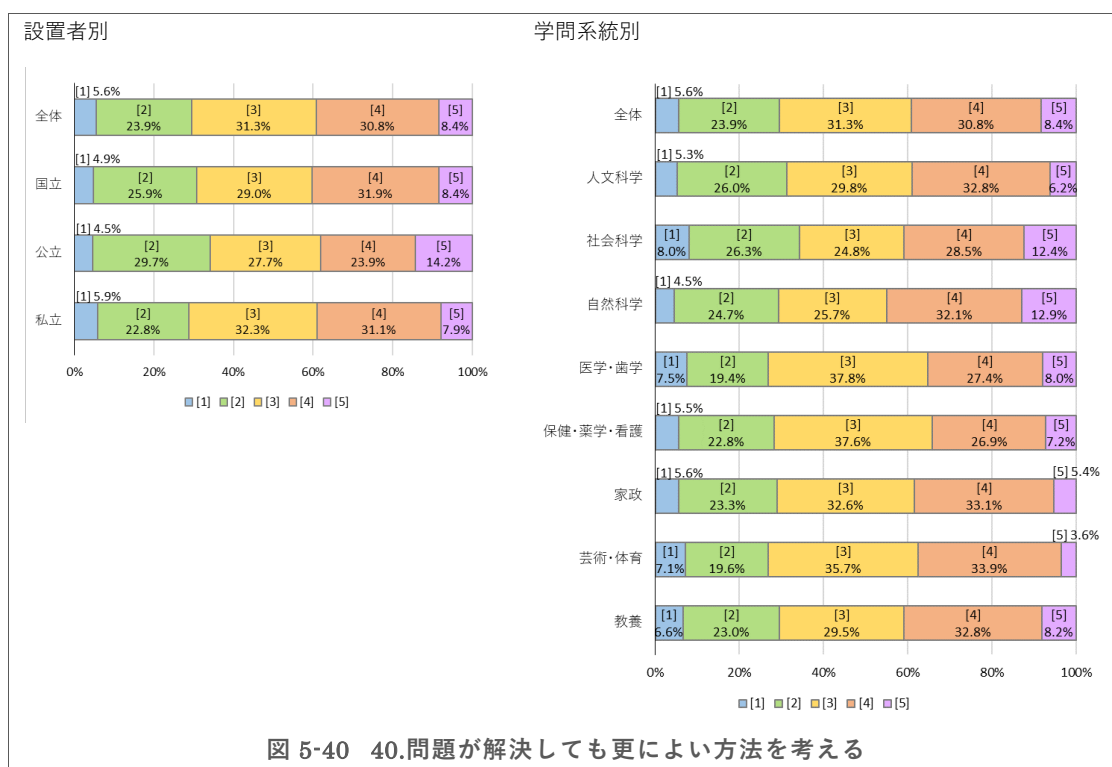
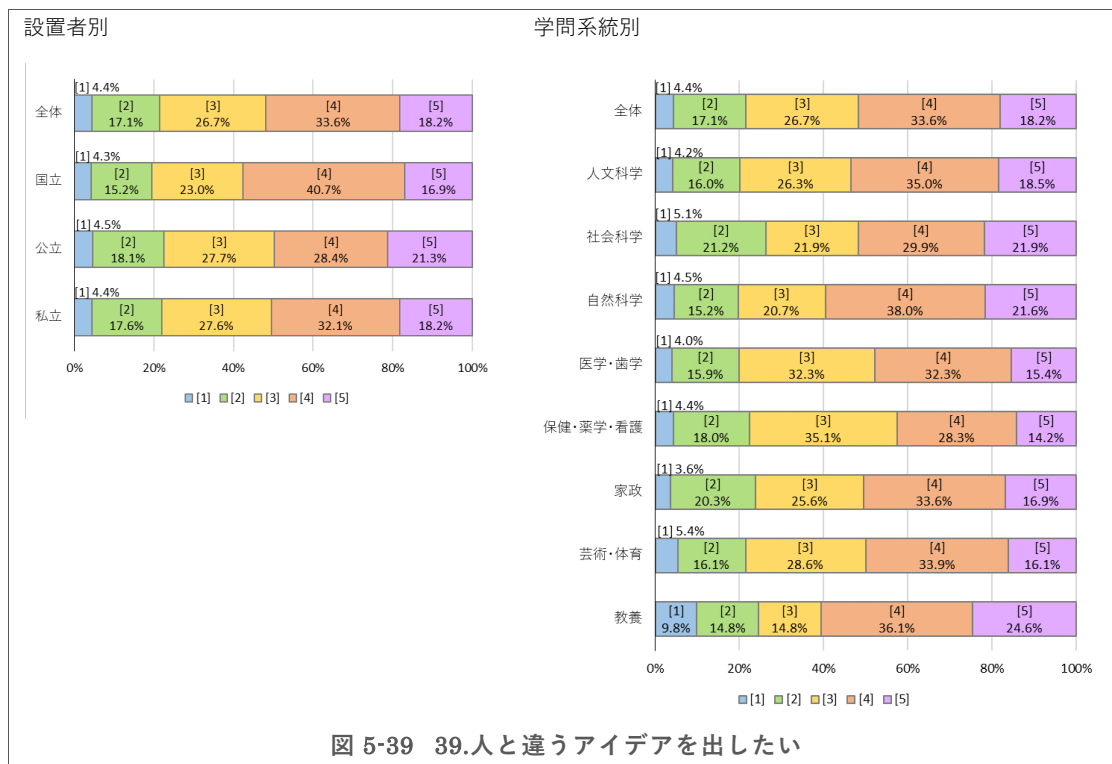


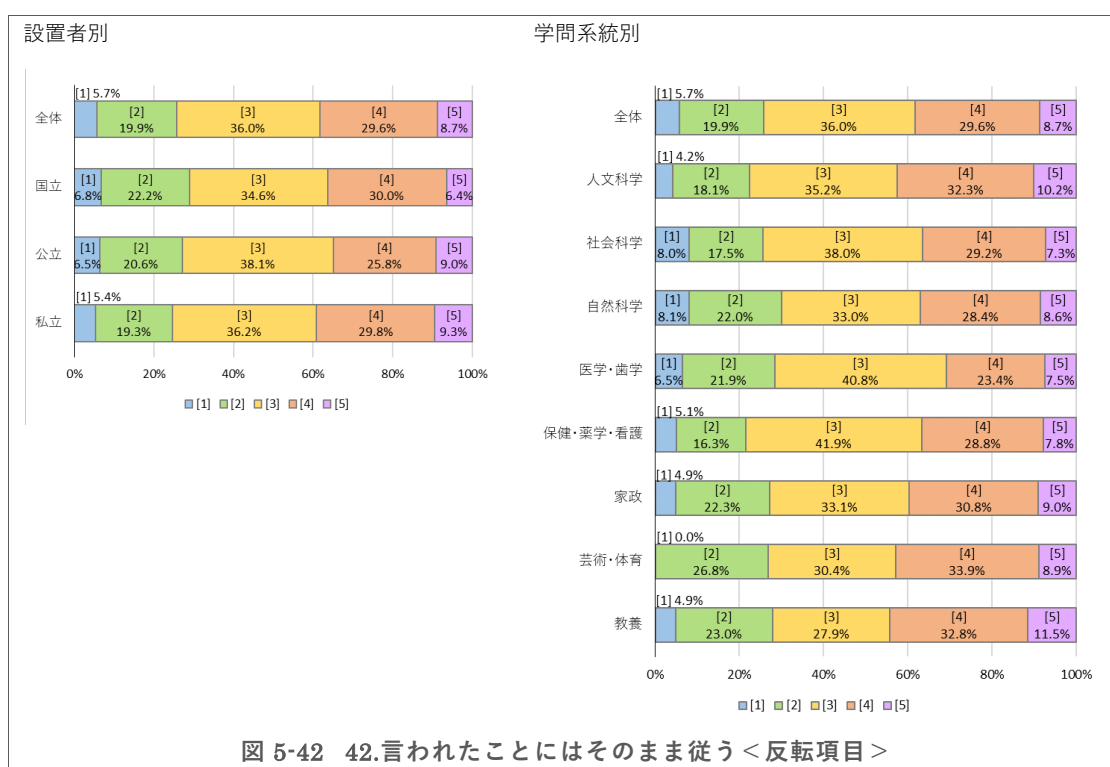
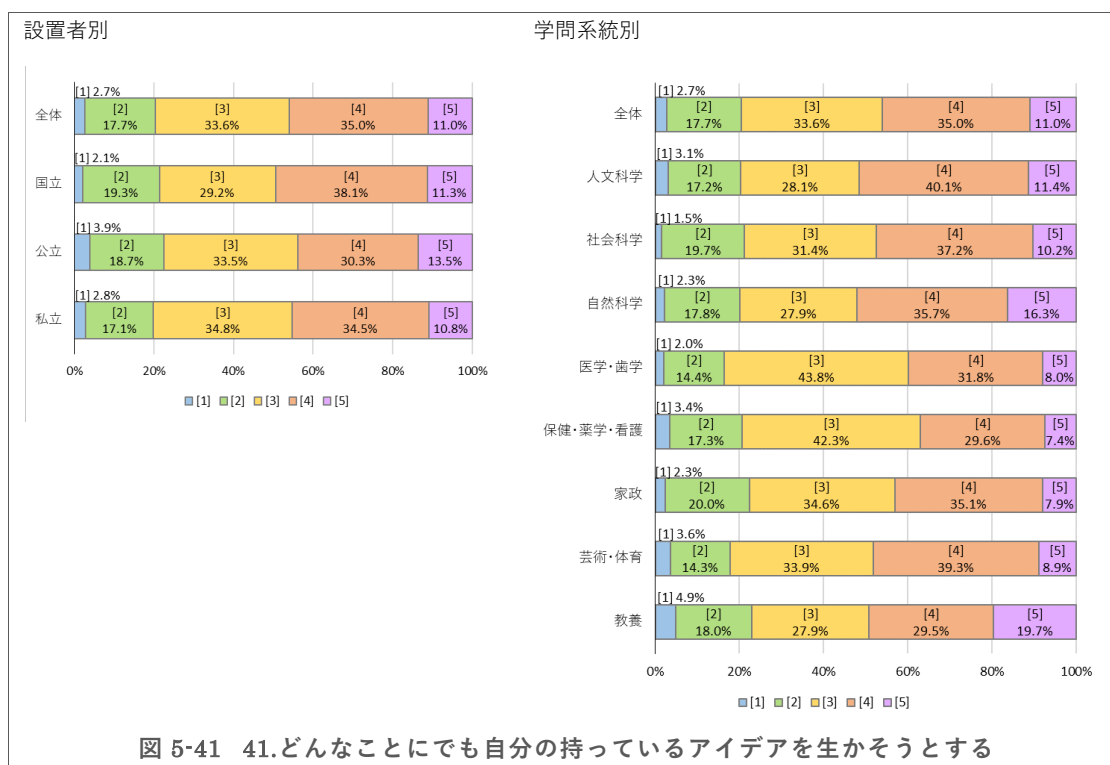


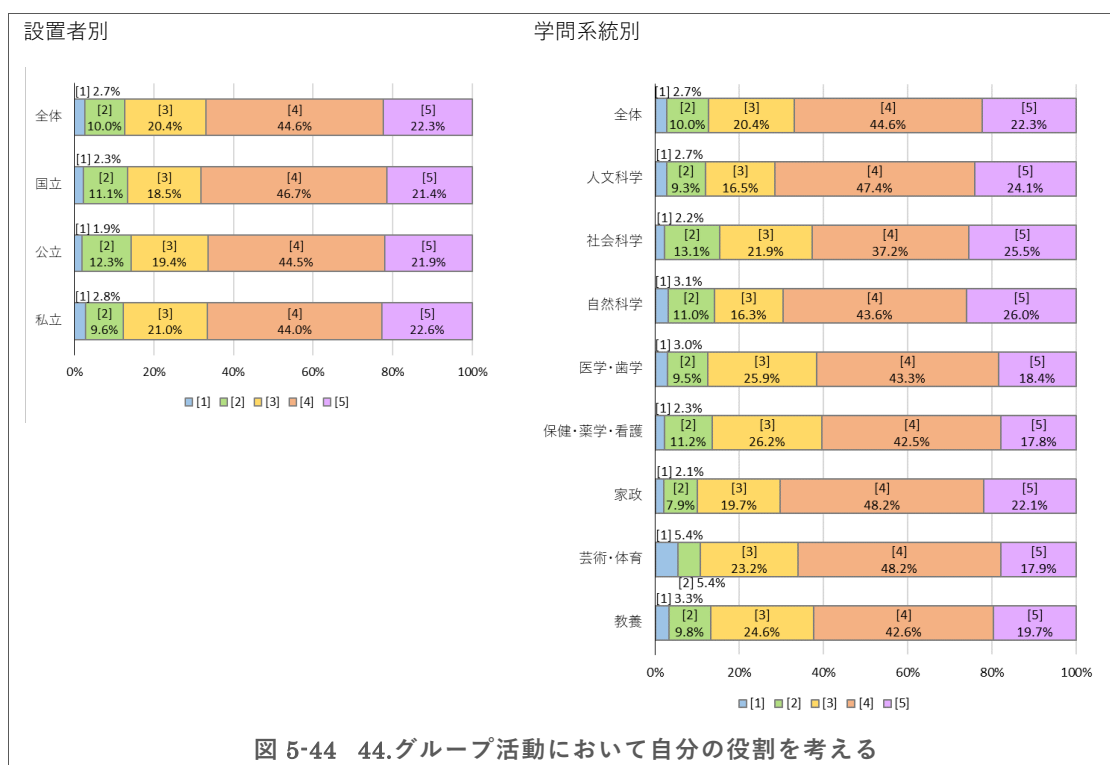
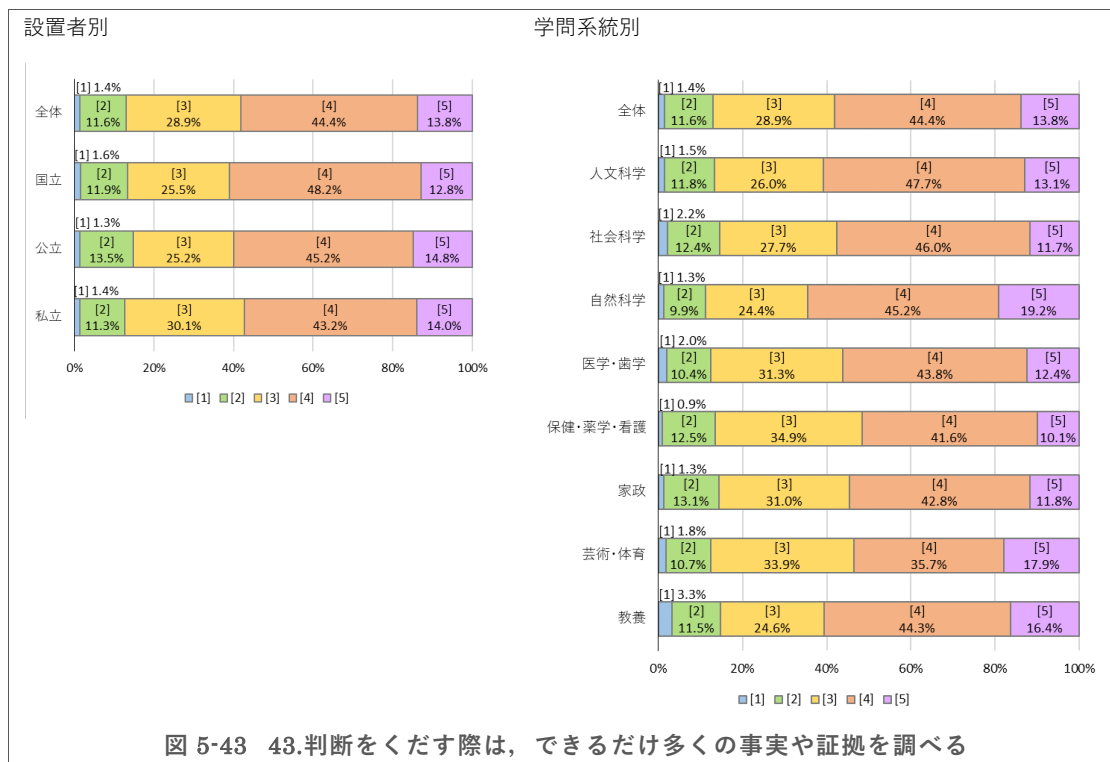


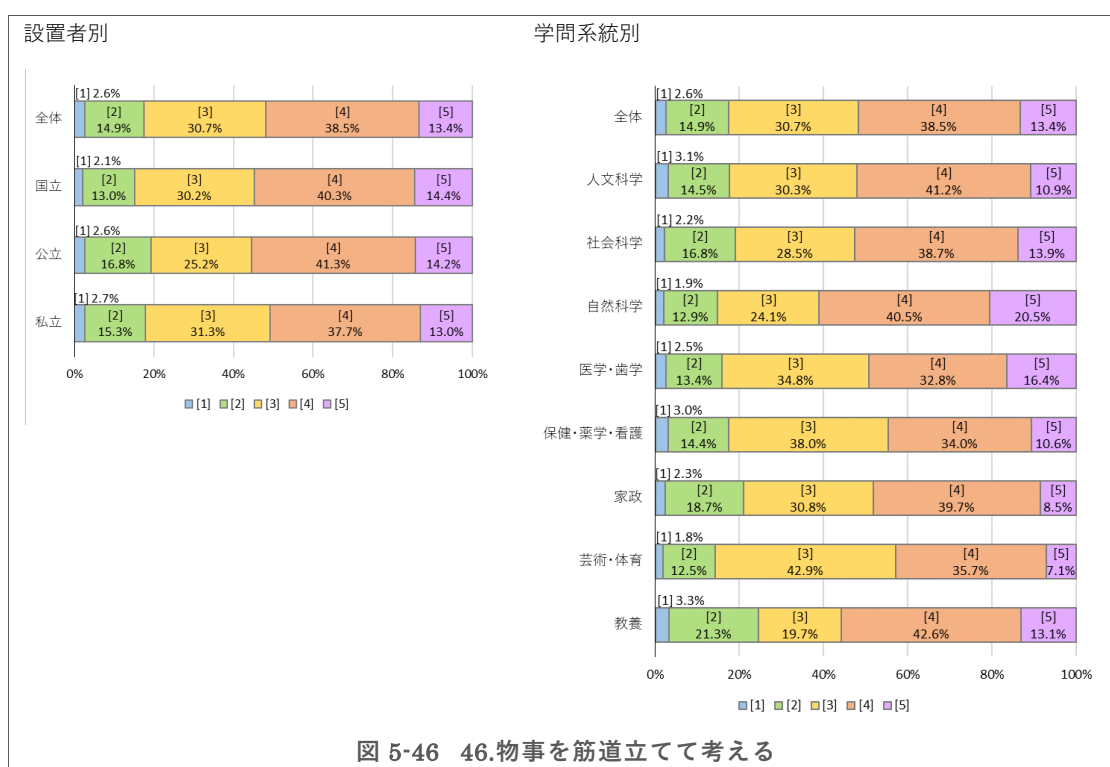
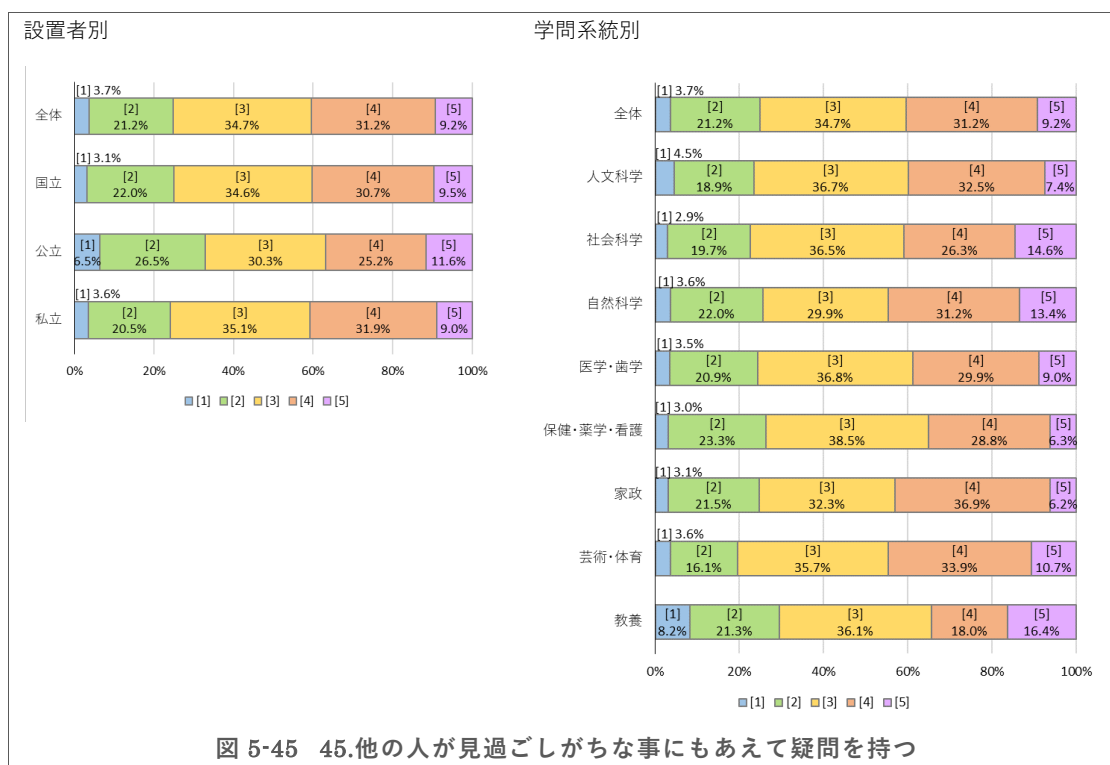


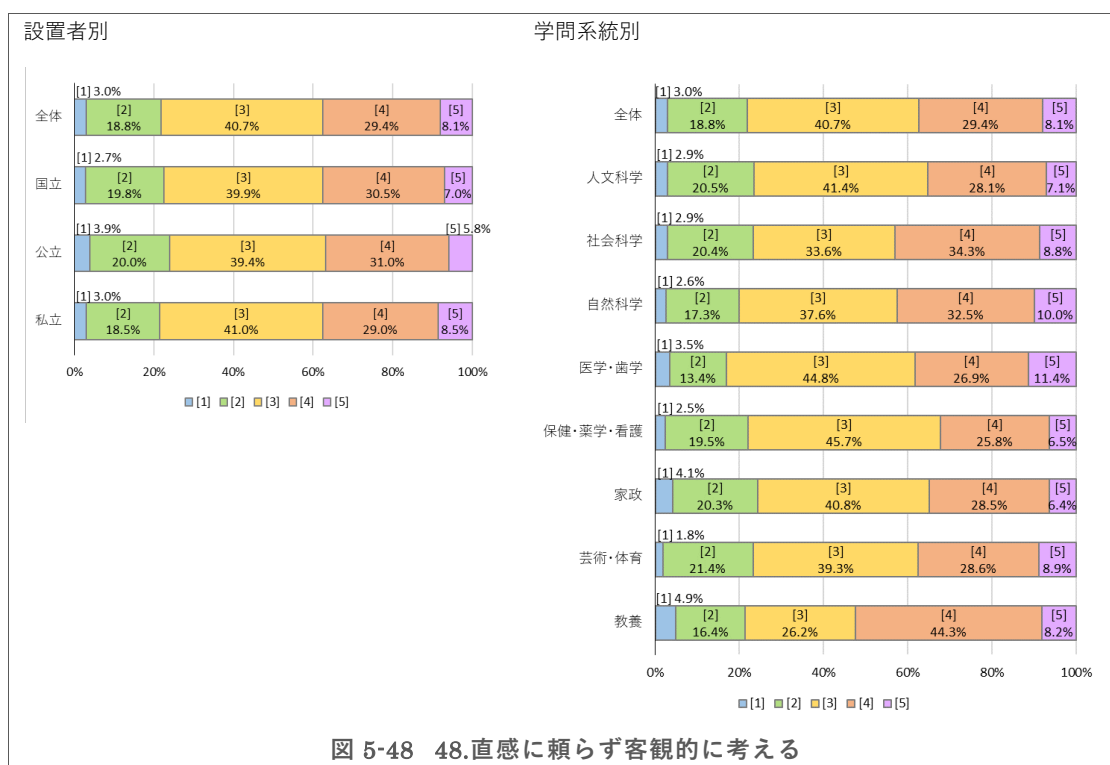
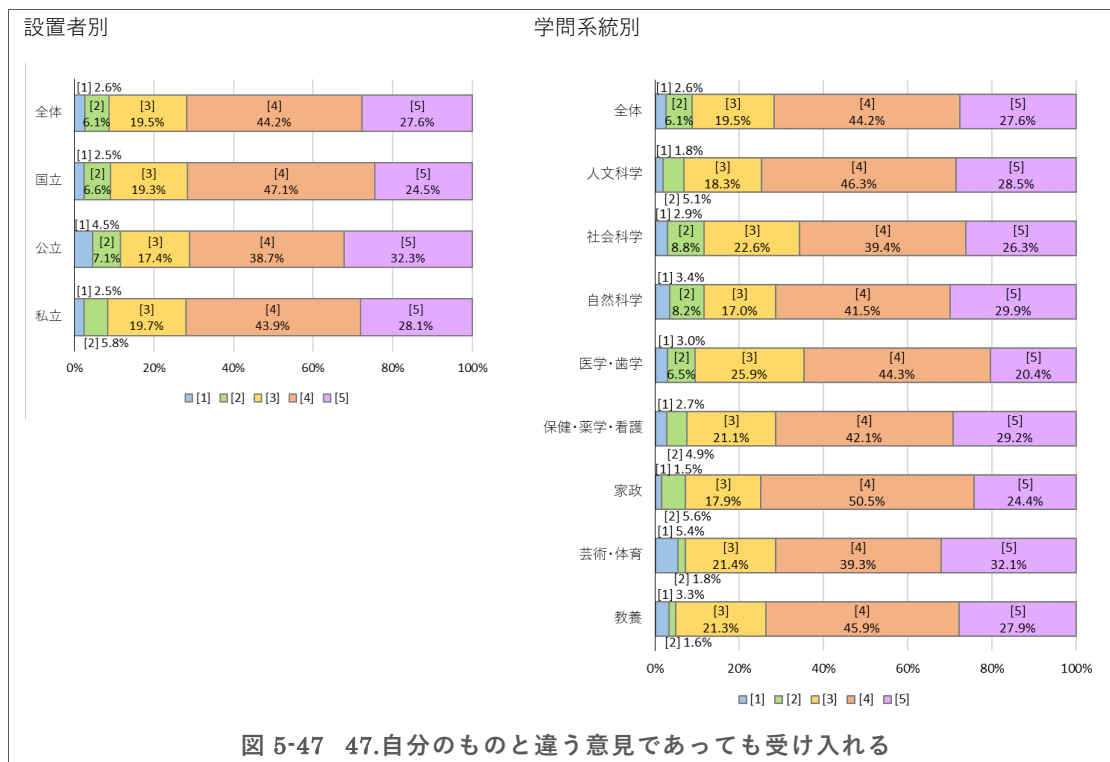


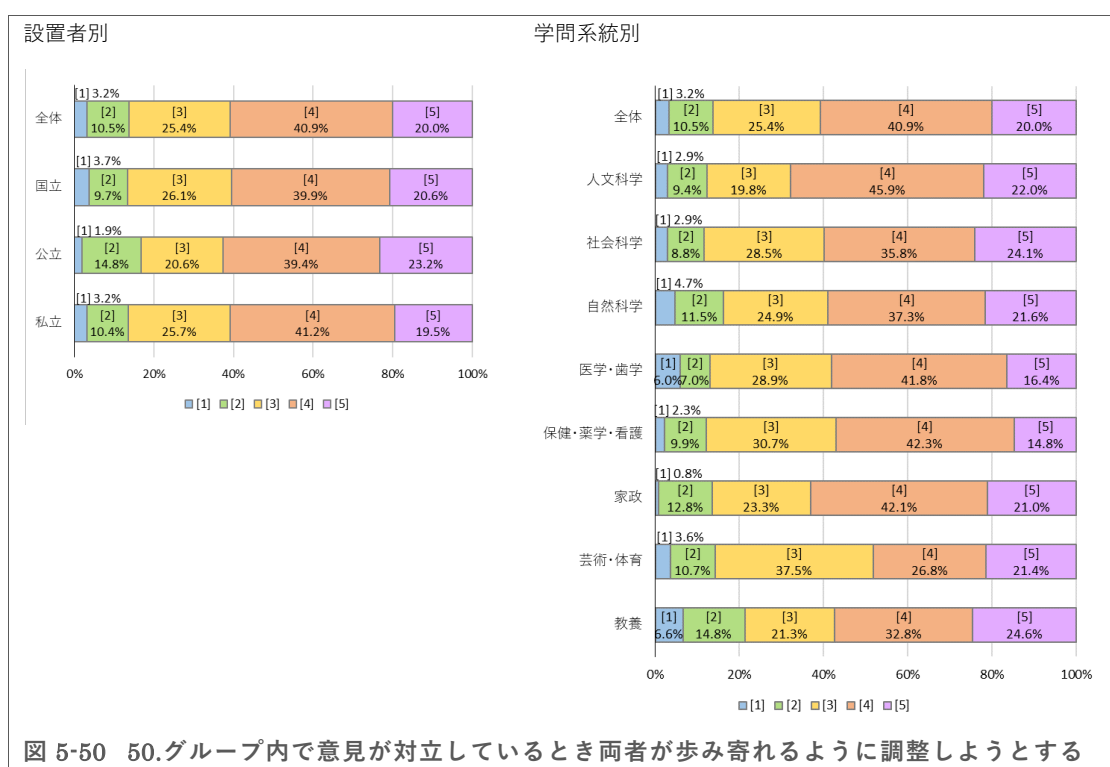
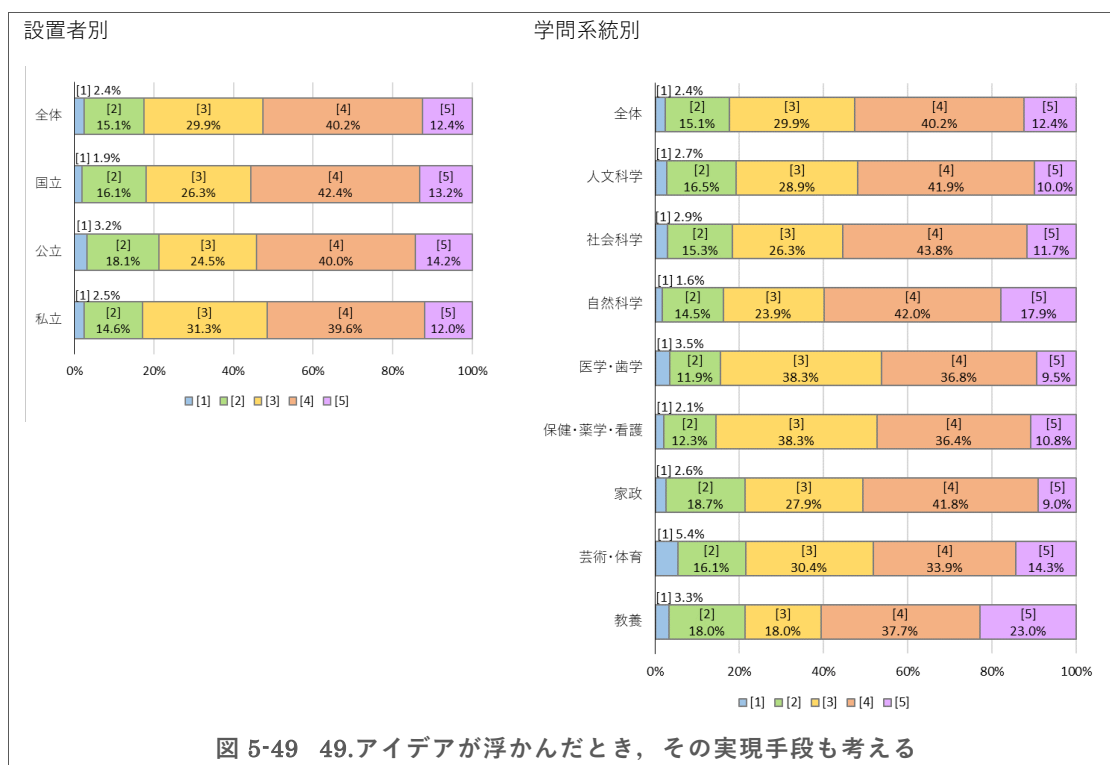


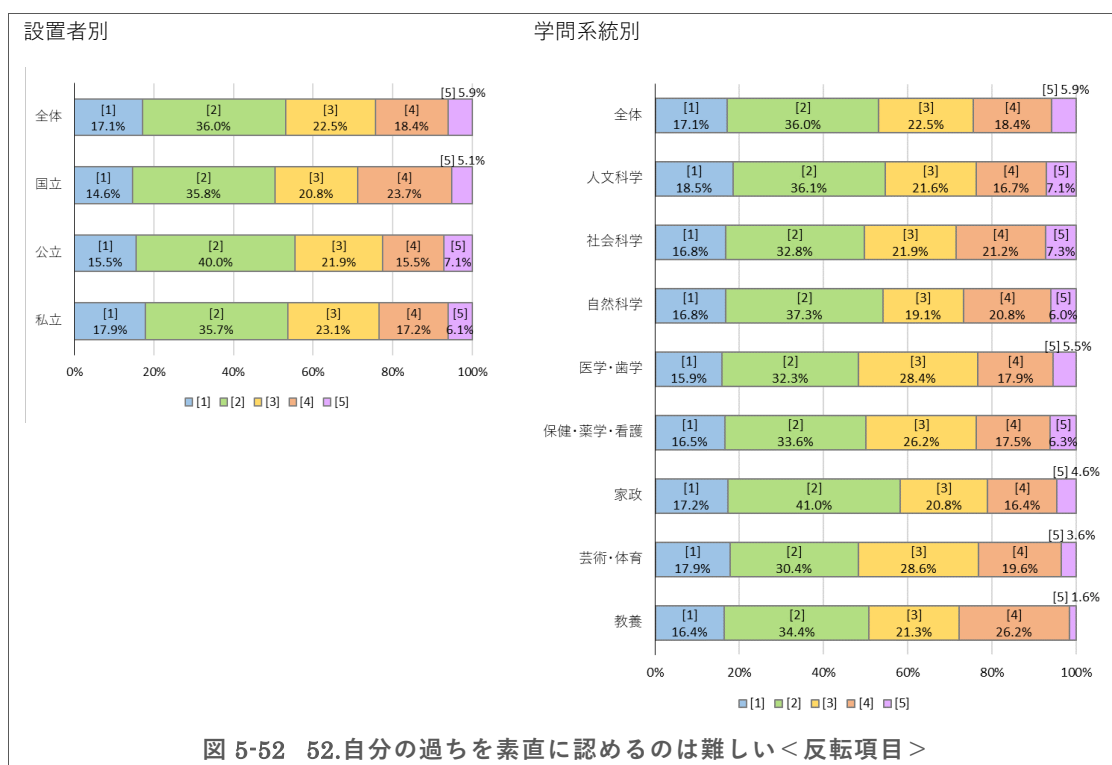
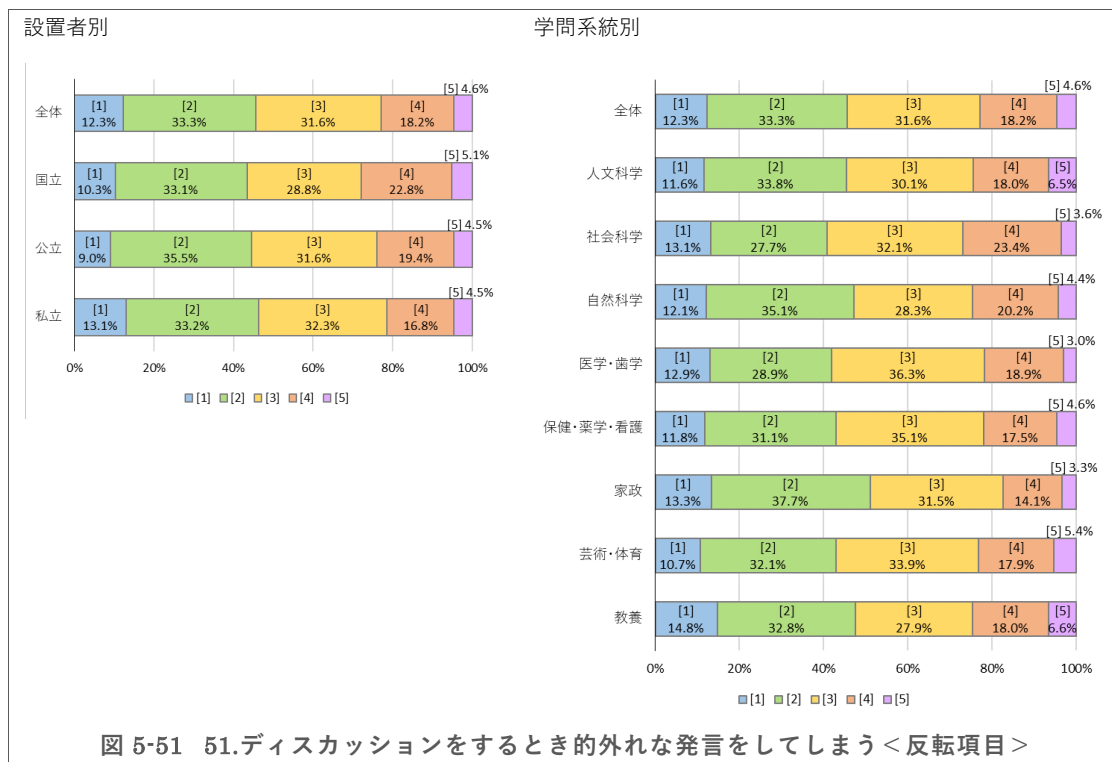


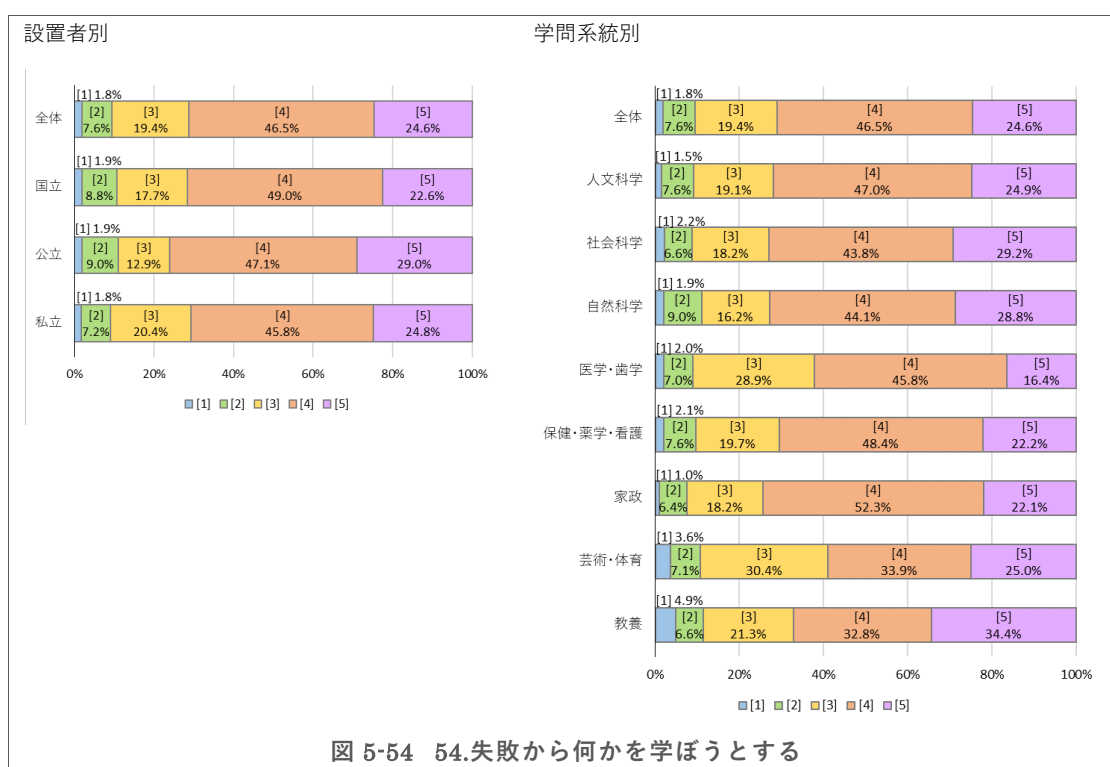
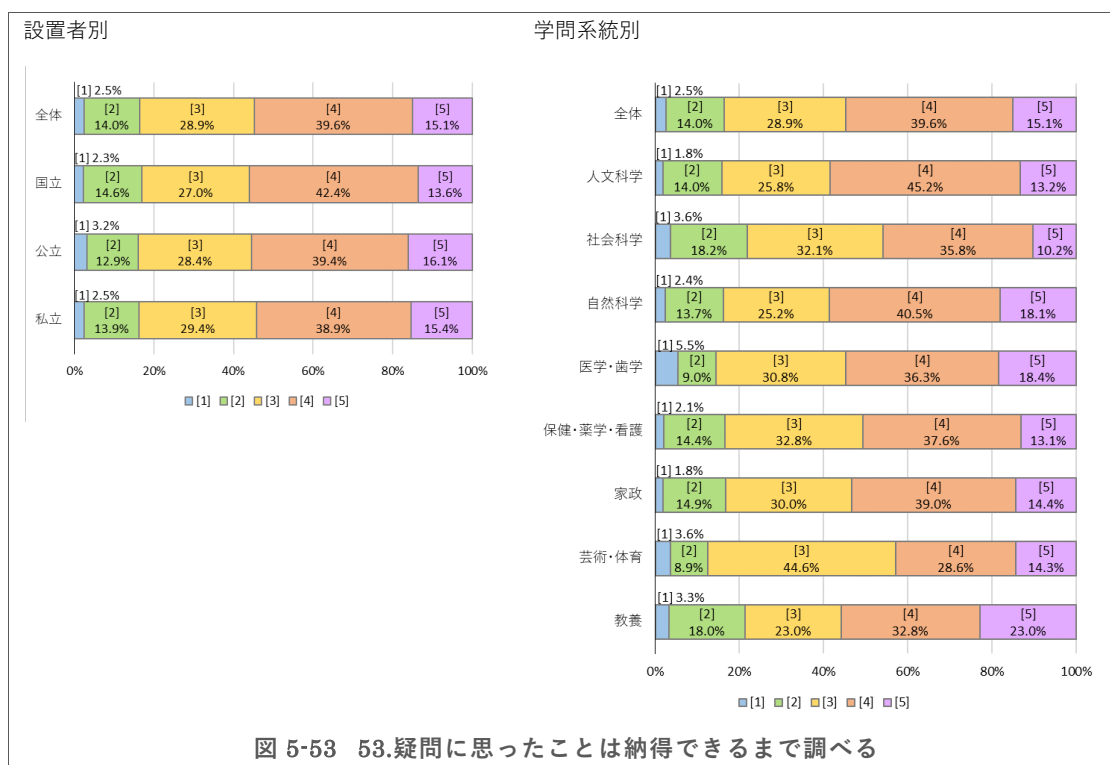


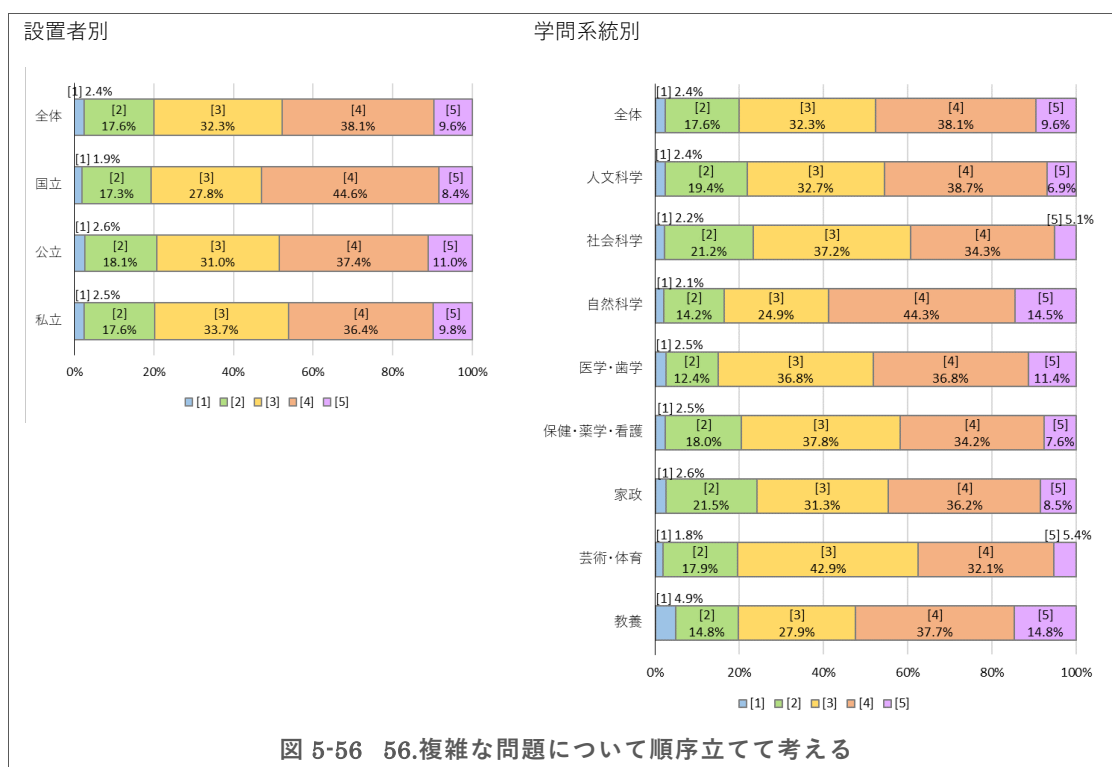
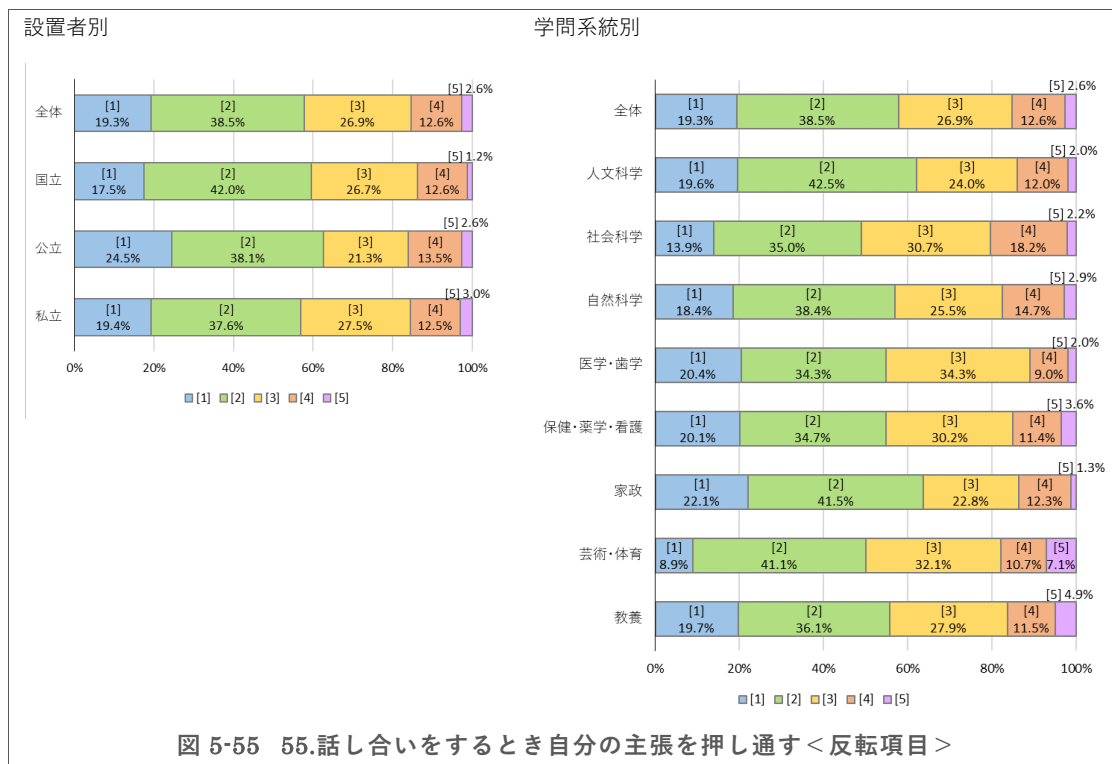


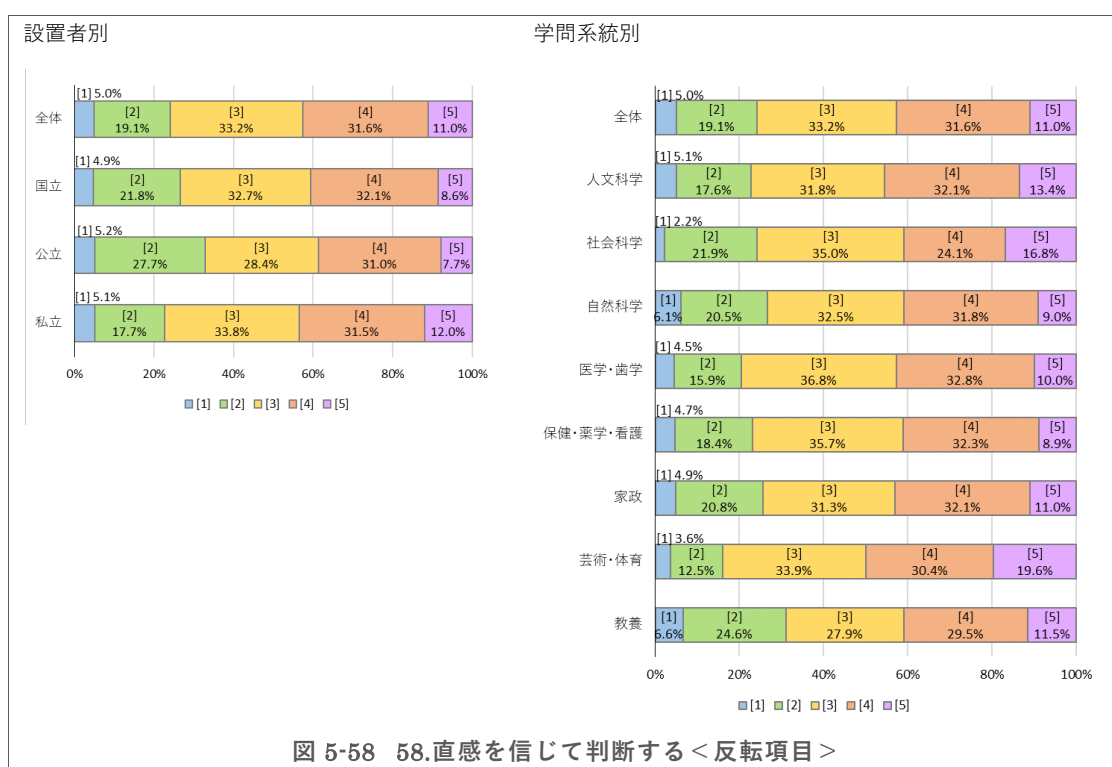
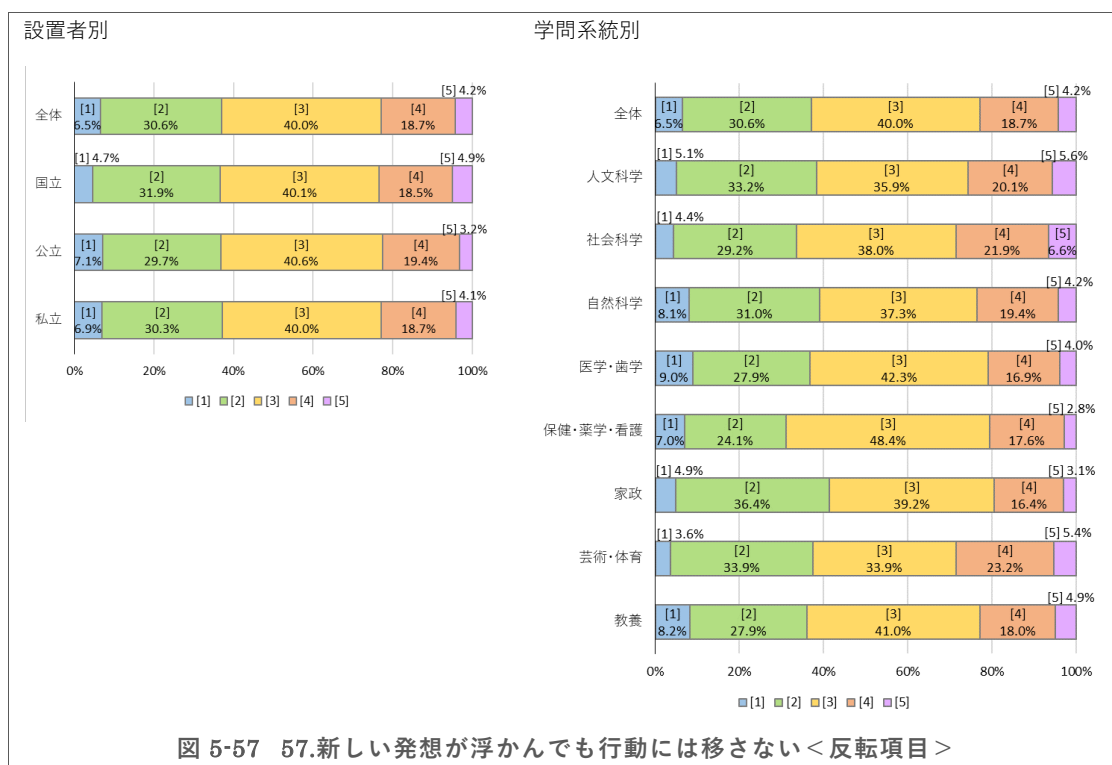


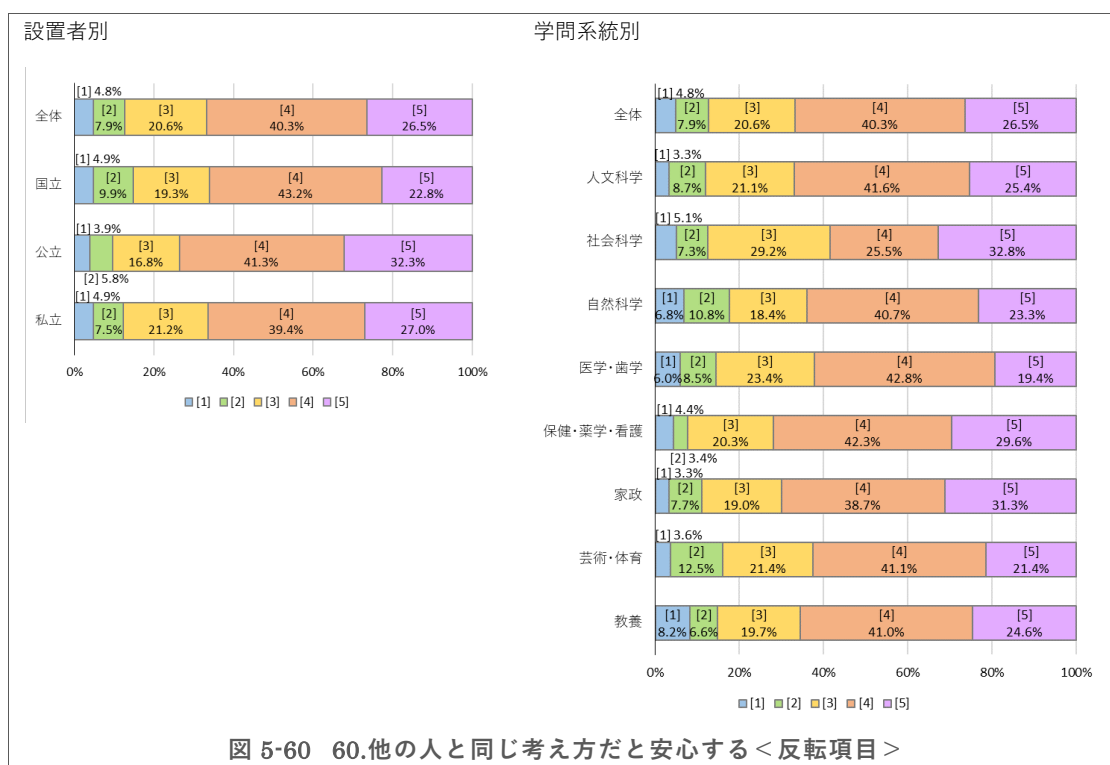
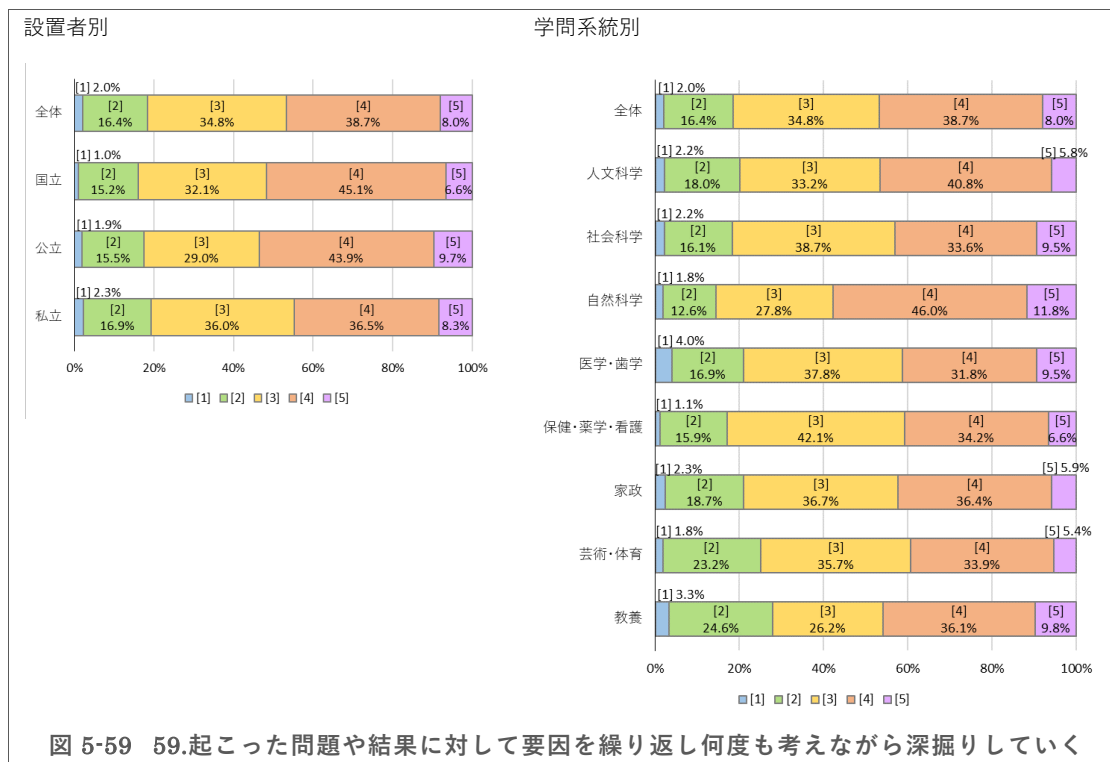


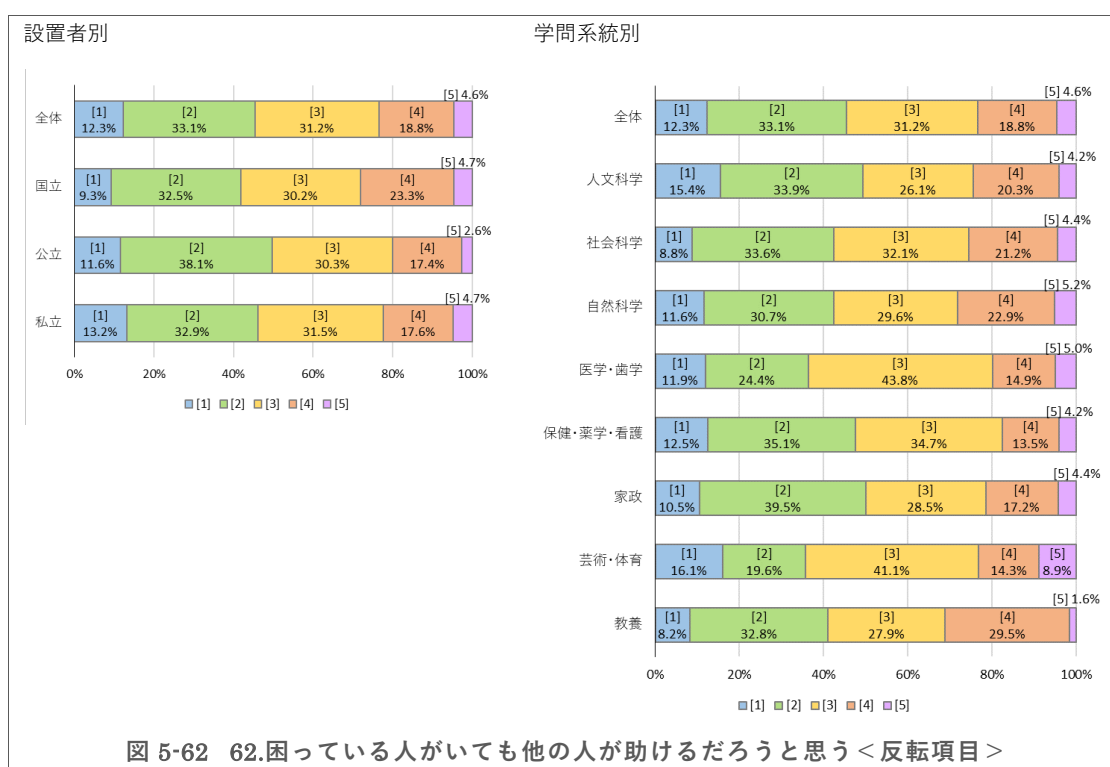
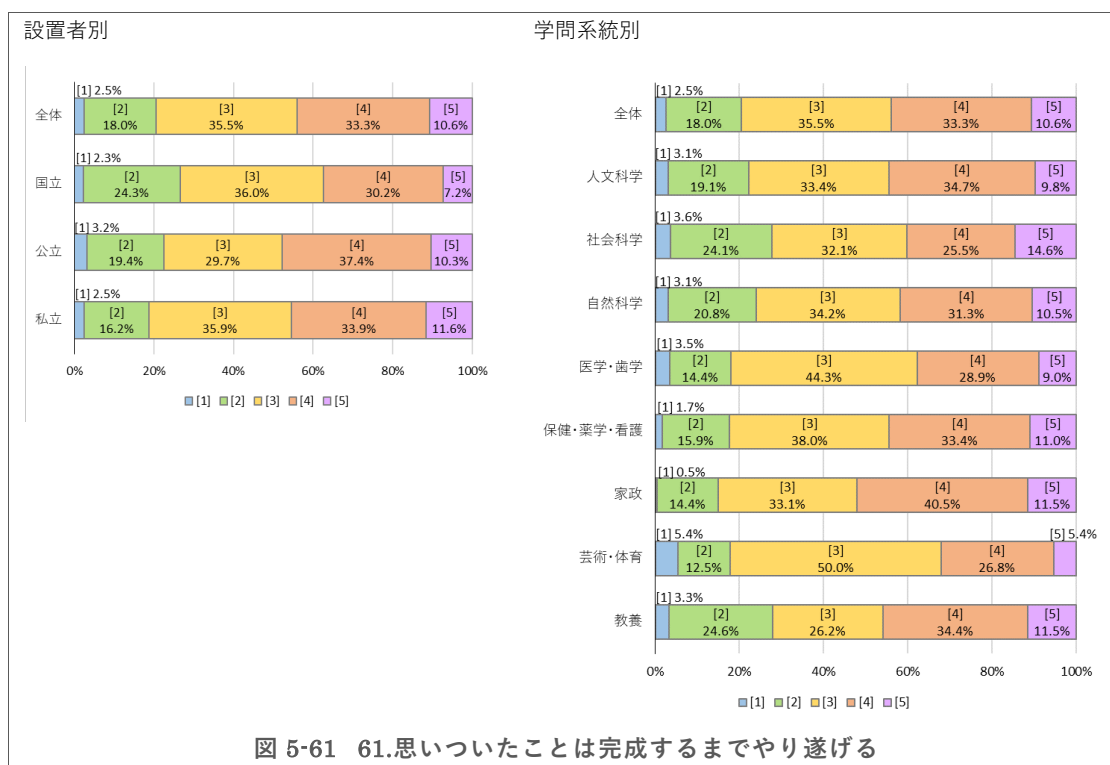


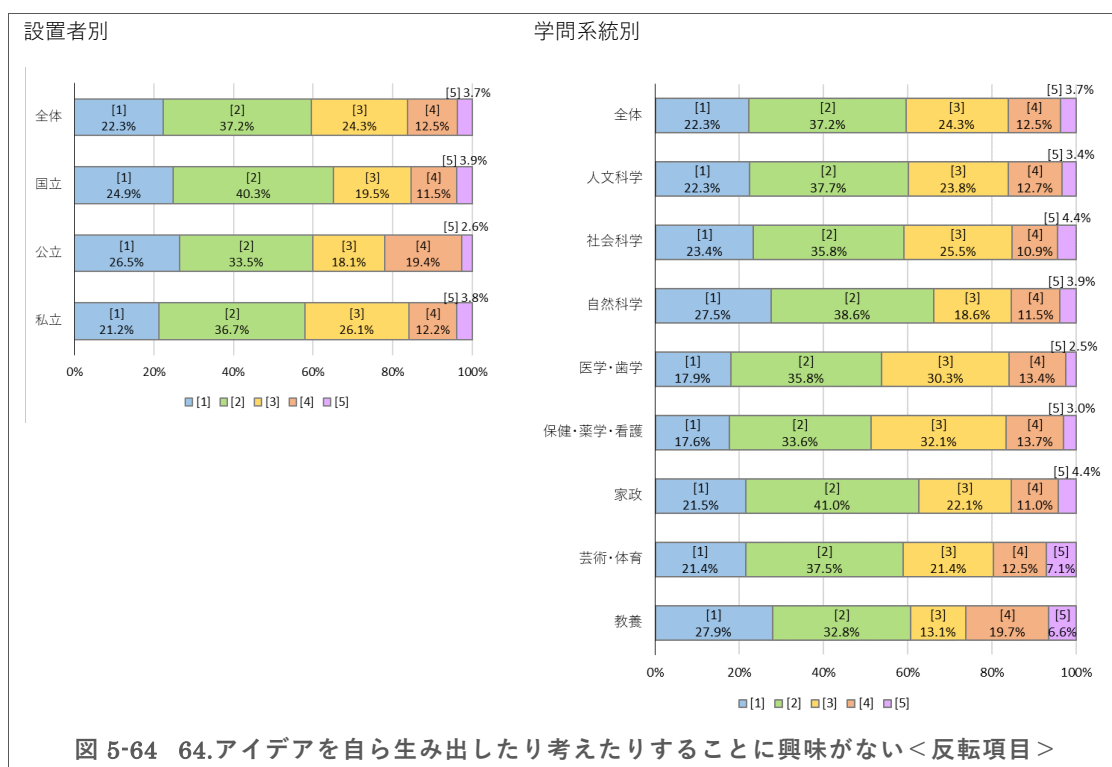
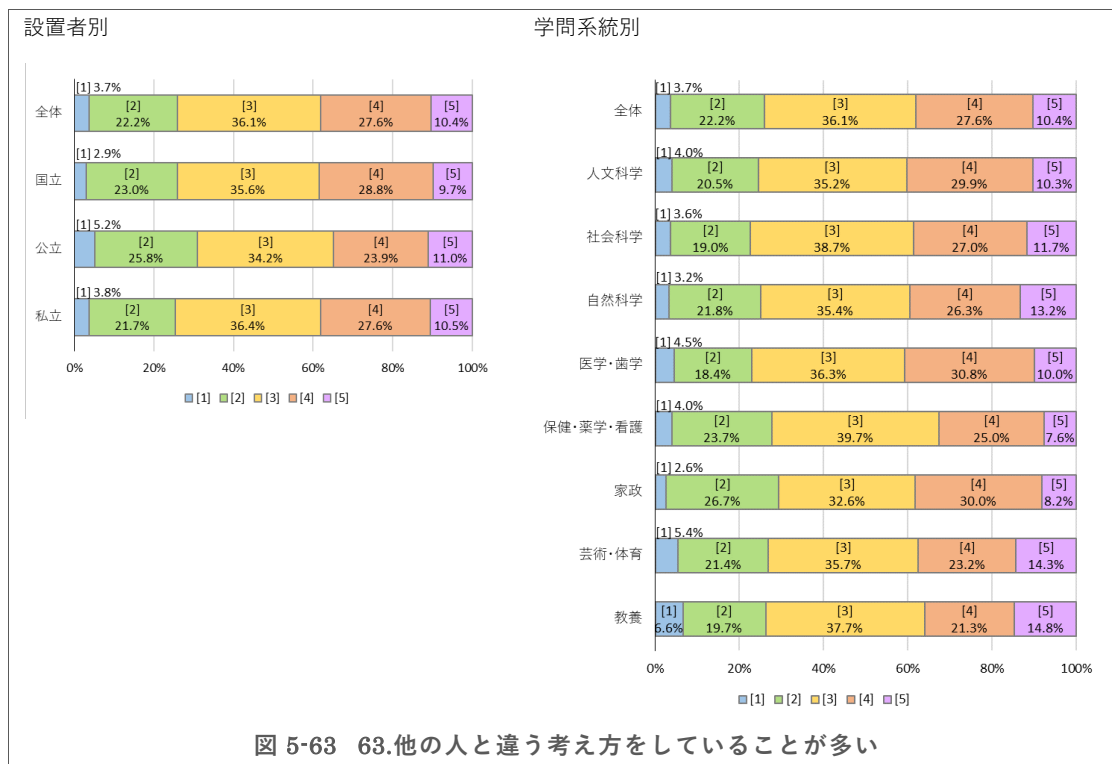


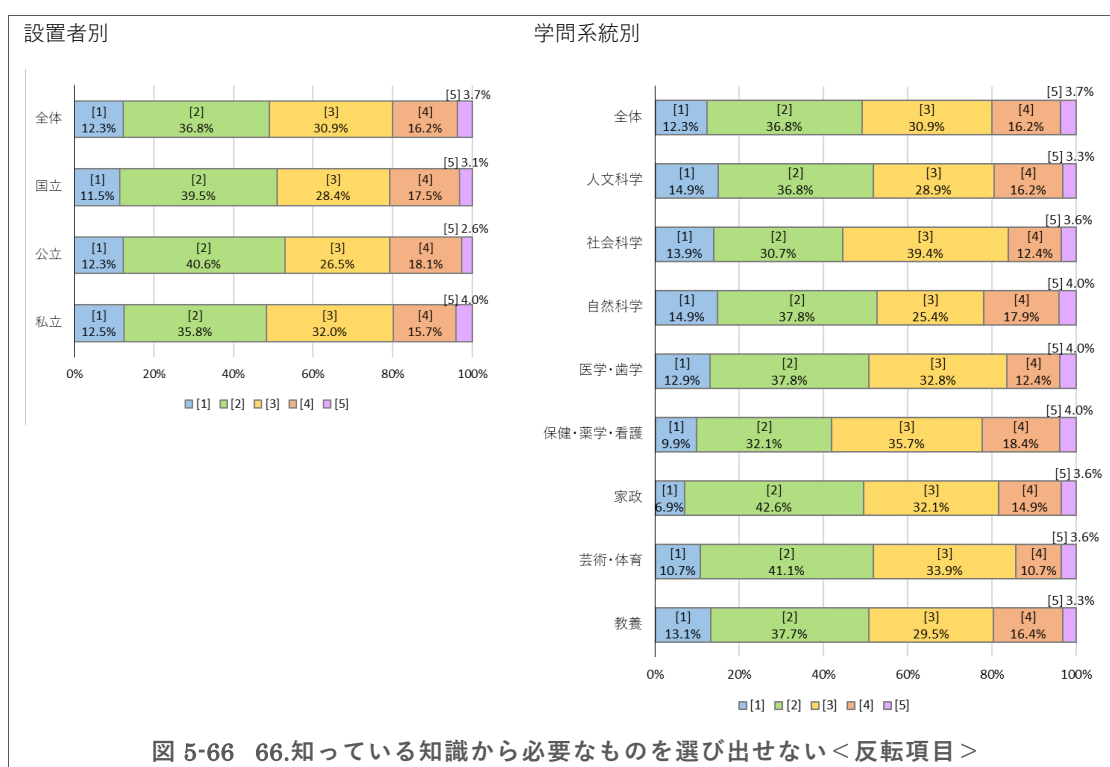
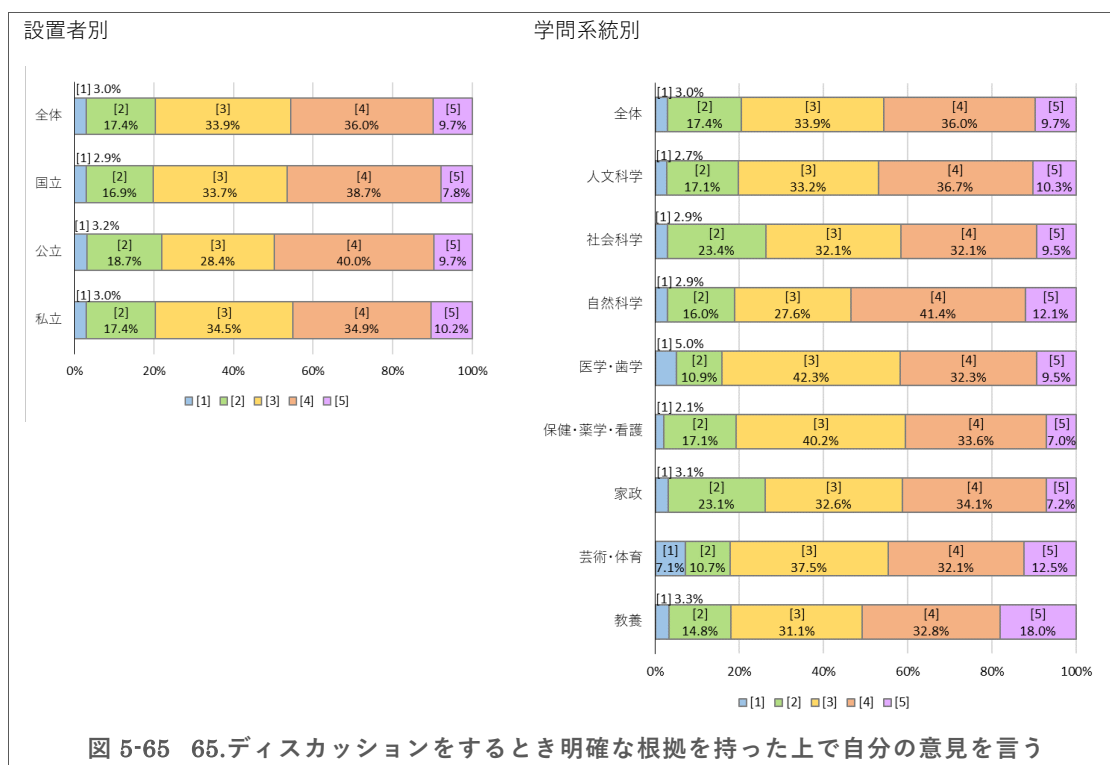


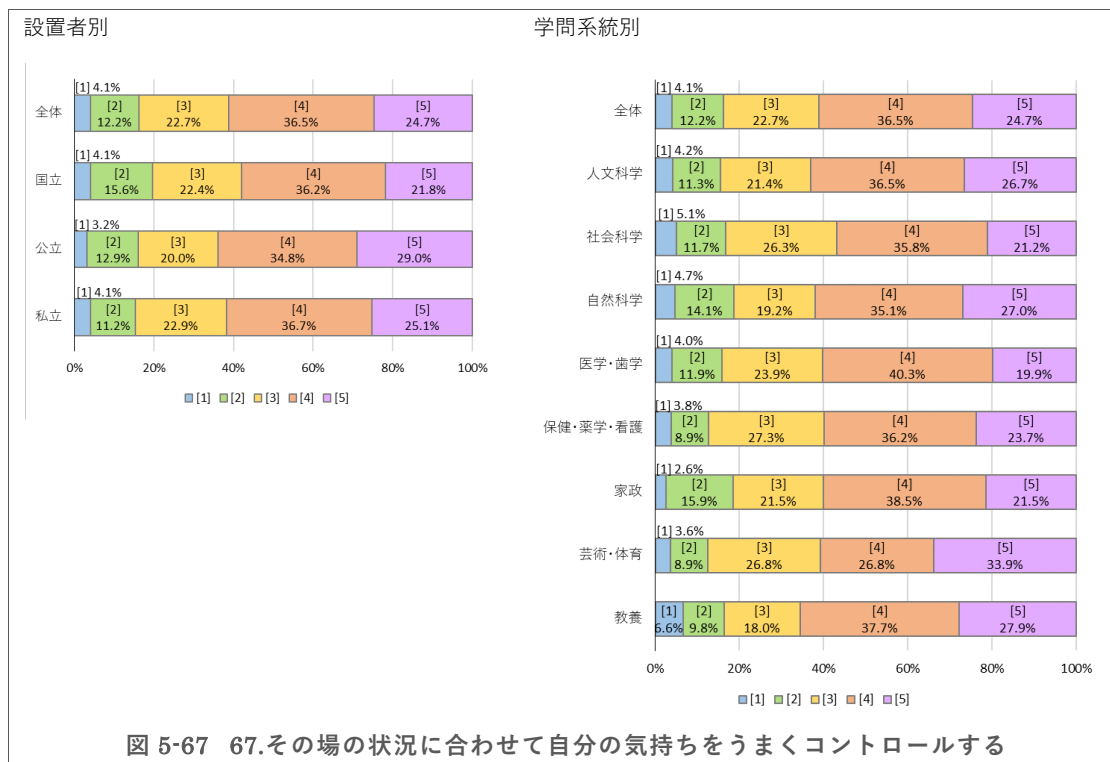












3. 図 5-1～図 5-67 の概観

次の表 6-1、表 6-2 は、P.8-P.41 の図 5-1～図 5-67 を設置者別（国立・公立・私立）、学問系統別（8 系統に分類）にそれぞれ概観できるように、25%未満、25%以上-50%未満、50%以上-75%未満、75%以上の 4 つのカテゴリに分けてまとめたものである。

表 6-1 設置者別の概観

※選択肢「[1]全くあてはまらない[2]あまり当てはまらない[3]どちらとも言えない[4]やや当てはまる[5]大いに当てはまる」の回答のうち、[4]+[5]の回答を集計

(※)の質問項目については、反転項目として[1]+[2]の回答を集計

■全体 ●国立 ●公立 ●私立

No	質問項目	75%以上	75%未満-50%以上	50%未満-25%以上	25%未満
1	自分は探究心が旺盛だ		●国立 ●公立 ●私立	■全体 ●私立	
2	グループ活動において困っている人がいたら積極的に手助けする		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
3	自分も相手も尊重した言動をとる		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
4	色々なアイデアを生み出そうとする		●国立	■全体 ●公立 ●私立	
5	迷惑をかけたことに気づいたら素直に謝る	■全体 ●国立 ●公立 ●私立			
6	物事を人と違う視点から見る			■全体 ●国立 ●公立 ●私立	
7	失敗を恐れない				■全体 ●国立 ●公立 ●私立
8	話し合いをするとき相手の立場に立った言動をする		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
9	自分の考えに固執する (※)			■全体 ●国立 ●公立 ●私立	
10	新しい発見をするのが好きだ		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
11	既成の枠組みにとらわれずに物事を考える			■全体 ●国立 ●公立 ●私立	
12	得た情報が信頼できるかどうか様々な視点で判断する		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
13	既存例から独自性を見出そうとする			■全体 ●国立 ●公立 ●私立	
14	意見を批判されると自分が否定されたように感じる (※)			■全体 ●国立 ●公立 ●私立	●国立
15	今まで知らなかったことを知ることに面白みを感じる	■全体 ●国立 ●公立 ●私立			
16	複雑な問題を考えると混乱してしまう (※)				■全体 ●国立 ●公立 ●私立
17	解決すべき問題を探りながら物事を決める		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
18	新しいことに積極的に取り組む		●公立	■全体 ●国立 ●私立	
19	相手の話をしっかり聞きながら対話する		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
20	失敗を人のせいにする (※)		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
21	結論をくだす場合には確たる証拠の有無にこだわる		●国立	■全体 ●公立 ●私立	
22	人の役に立つことをしたい	■全体 ●国立 ●公立 ●私立	●国立		
23	根拠に基づいて判断する		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
24	論理的にレポートを書ける			■全体 ●国立 ●公立 ●私立	
25	自分さえ良ければいい (※)		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
26	新しいことを考えて人を驚かせたい		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
27	理由を考えずに判断する (※)		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
28	新しいことに取り組むのは億劫だ (※)			■全体 ●国立 ●公立 ●私立	
29	人と違うことを考えることが好きである		■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
30	他人と協力したいとは思わない (※)	●公立	■全体 ●国立 ●公立 ●私立		
31	物事を感覚で捉える (※)				■全体 ●国立 ●公立 ●私立
32	グループで物事を決めるとき自発的に発言する			■全体 ●国立 ●公立 ●私立	
33	自分とは違う考えの人の話は聞きたくない (※)	■全体 ●国立 ●公立 ●私立			
34	物事を決めるとき深く考えない (※)		■全体 ●国立 ●公立 ●私立	●私立	
35	何か思いついても、すぐに別のことに興味が移る (※)			■全体 ●国立 ●公立 ●私立	

（前頁つづき）

※選択肢「[1]全くあてはまらない[2]あまり当てはまらない[3]どちらとも言えない[4]やや当てはまる[5]大いに当てはまる」の回答のうち、[4]+[5]の回答を集計

（※）の質問項目については、反転項目として[1]+[2]の回答を集計

■全体 ●国立 ●公立 ●私立

No	質問項目	75%以上	75%未満-50%以上	50%未満-25%以上	25%未満
36	新しく知ったことを自分のアイデアに取り入れる		■ ●●●		
37	物事を考えるとき必要な情報を多くの情報の中から選ぶ		■ ●●●		
38	話し合いのとき自分の意見を人と合わせようとは思わない（※）		■ ●●●		
39	人と違うアイデアを出したい		■ ●●●	●	
40	問題が解決しても更により方法を考える			■ ●●●	
41	どんなことにでも自分の持っているアイデアを生かそうとする			■ ●●●	
42	言われたことにはそのまま従う（※）			■ ●●●	●
43	判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる		■ ●●●		
44	グループ活動において自分の役割を考える		■ ●●●		
45	他の人が見過ごしがちな事にもあえて疑問を持つ			■ ●●●	
46	物事を筋道立てて考える		■ ●●●		
47	自分のものと違う意見であっても受け入れる		■ ●●●		
48	直感に頼らず客観的に考える			■ ●●●	
49	アイデアが浮かんだとき、その実現手段も考える		■ ●●●		
50	グループ内で意見が対立しているとき両者が歩み寄れるように調整しようとする		■ ●●●		
51	ディスカッションをするときの外れな発言をしてしまう（※）			■ ●●●	
52	自分の過ちを素直に認めるのは難しい（※）		■ ●●●		
53	疑問に思ったことは納得できるまで調べる		■ ●●●		
54	失敗から何かを学ぼうとする	●	■ ●●●		
55	話し合いをするとき自分の主張を押し通す（※）		■ ●●●		
56	複雑な問題について順序立てて考える		●	■ ●●●	
57	新しい発想が浮かんでも行動には移さない（※）			■ ●●●	
58	直感を信じて判断する（※）			■ ●●●	■ ●
59	起こった問題や結果に対して要因を繰り返し何度も考えながら深掘りしていく		●●	■ ●	
60	他の人と同じ考え方だと安心する（※）				■ ●●●
61	思いついたことは完成するまでやり遂げる			■ ●●●	
62	困っている人がいても他の人が助けるだろうと思う（※）			■ ●●●	
63	他の人と違う考え方をしていることが多い			■ ●●●	
64	アイデアを自ら生み出したり考えたりすることに興味が無い（※）		■ ●●●		
65	ディスカッションをするとき明確な根拠を持った上で自分の意見を言う			■ ●●●	
66	知っている知識から必要なものを選び出せない（※）		●●	■ ●	
67	その場の状況に合わせて自分の気持ちをうまくコントロールする		■ ●●●		

ほとんどの質問項目において、設置者別のポイント差は10ポイント未満である。特徴のみられた項目について、記載する。

最大値と最小値の差の大きい項目	項目 1	国立>私立	10.3 ポイント差
	項目 20	国立<公立	10.2 ポイント差
	項目 21	国立>公立	11.4 ポイント差
	項目 58	公立>私立	10.1 ポイント差
	項目 61	国立<公立	10.3 ポイント差
全設置者でポイントが低い項目	項目 60	全設置者 15%未満	

（前頁つづき）

※選択肢「[1]全くあてはまらない[2]あまり当てはまらない[3]どちらとも言えない[4]やや当てはまる[5]大いに当てはまる」の回答のうち、[4]+[5]の回答を集計

（※）の質問項目については、反転項目として[1]+[2]の回答を集計

■全体 ●人文科学 ●社会科学 ●自然科学 ●医学・歯学 ●保健・薬学・看護 ●家政 ●芸術・体育 ●教養

No	質問項目	75%以上	75%未満-50%以上	50%未満-25%以上	25%未満
31	物事を感覚で捉える（※）				●●●●●■
32	グループで物事を決めるとき自発的に発言する			●●●●●■	
33	自分とは違う考えの人の話は聞きたくない（※）	●●●●●■	●●●●●■		
34	物事を決めるとき深く考えない（※）		●●●●●■	●●●●●■	
35	何か思いついても、すぐに別のことに興味が移る（※）			●●●●●■	
36	新しく知ったことを自分のアイデアに取り入れる		●●●●●■		
37	物事を考えるとき必要な情報を多くの情報の中から選ぶ		●●●●●■		
38	話し合いのとき自分の意見を人と合わせようとは思わない（※）		●●●●●■	●●●●●■	
39	人と違うアイデアを出したい		●●●●●■	●●●●●■	
40	問題が解決しても更により方法を考える			●●●●●■	
41	どんなことにも自分の持っているアイデアを生かそうとする		●●●●●■	●●●●●■	
42	言われたことにはそのまま従う（※）			●●●●●■	●●●●●■
43	判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる		●●●●●■		
44	グループ活動において自分の役割を考える		●●●●●■		
45	他の人が見過ごしがちな事にもあえて疑問を持つ			●●●●●■	
46	物事を筋道立てて考える		●●●●●■	●●●●●■	
47	自分のものと違う意見であっても受け入れる		●●●●●■		
48	直感に頼らず客観的に考える		●●●●●■	●●●●●■	
49	アイデアが浮かんだとき、その実現手段も考える		●●●●●■	●●●●●■	
50	グループ内で意見が対立しているとき両者が歩み寄れるように調整しようとする		●●●●●■	●●●●●■	
51	ディスカッションをするときの外れな発言をしてしまう（※）		●●●●●■	●●●●●■	
52	自分の過ちを素直に認めるのは難しい（※）		●●●●●■	●●●●●■	
53	疑問に思ったことは納得できるまで調べる		●●●●●■	●●●●●■	
54	失敗から何かを学ぼうとする		●●●●●■		
55	話し合いをするとき自分の主張を押し通す（※）		●●●●●■	●●●●●■	
56	複雑な問題について順序立てて考える		●●●●●■	●●●●●■	
57	新しい発想が浮かんでも行動には移さない（※）			●●●●●■	
58	直感を信じて判断する（※）			●●●●●■	●●●●●■
59	起こった問題や結果に対して要因を繰り返し何度も考えながら深掘りしていく		●●●●●■	●●●●●■	
60	他の人と同じ考え方だと安心する（※）				●●●●●■

4. 因子分析の結果

調査結果について因子分析したところ、「論理的思考性」について 10 項目、「協調性」について 9 項目、「独創性」について 13 項目を抽出することができた。

(1) 因子分析の結果、および調査実施時の設定

各因子に該当する質問項目、調査実施時の設定をまとめたものを以下に記載する。

表 7 質問項目別 因子分析の結果

※因子分析で抽出された質問項目は、後出の P.52・P.53「表 9 本調査質問項目と日本生涯学習総合研究所設定の 16 の『非認知能力』の要素との関連性」の順序に合わせて記載

質問項目 *数字は、調査票の質問番号	因子分析結果	調査実施時の設定
12 得た情報が信頼できるかどうか様々な視点で判断する	論理的思考性	論理的思考性
21 結論をくだす場合には確たる証拠の有無にこだわる		
23 根拠に基づいて判断する		
43 判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる		
46 物事を筋道立てて考える		
56 複雑な問題について順序立てて考える		
24 論理的にレポートを書く		
48 直感に頼らず客観的に考える		
59 起こった問題や結果に対して要因を繰り返し何度も考えながら深掘りしていく		
65 ディスカッションをするとき明確な根拠を持った上で自分の意見を言う		
2 グループ活動において困っている人がいたら積極的に手助けする	協調性	協調性
50 グループ内で意見が対立しているとき両者が歩み寄れるように調整しようとする		
19 相手の話をしっかり聞きながら対話する		
3 自分も相手も尊重した言動をとる		
8 話し合いをするとき相手の立場に立った言動をする		
67 その場の状況に合わせて自分の気持ちをうまくコントロールする	独創性	独創性
47 自分のものと違う意見であっても受け入れる		
44 グループ活動において自分の役割を考える		
54 失敗から何かを学ぼうとする		
18 新しいことに積極的に取り組む		
6 物事を人と違う視点から見る		
11 既成の枠組みにとらわれずに物事を考える		
63 他の人と違う考え方をしていることが多い		
13 既存例から独自性を見出そうとする		
41 どんなことでも自分の持っているアイデアを生かそうとする		
4 色々なアイデアを生み出そうとする	除外項目	論理的思考性
10 新しい発見をするのが好きだ		
1 自分は探究心が旺盛だ		
64 アイデアを自ら生み出したり考えたりすることに興味が無い		
26 新しいことを考えて人を驚かせたい		
29 人と違うことを考えることが好きである		
39 人と違うアイデアを出したい		
16 複雑な問題を見ると混乱してしまう		
17 解決すべき問題を探りながら物事を決める		
27 理由を考えずに判断する		
31 物事を感覚で捉える	除外項目	協調性
34 物事を決めるとき深く考えない		
37 物事を決めるとき必要な情報を多くの情報の中から選ぶ		
51 ディスカッションをするときの外的な発言をしてしまう		
58 直感を信じて判断する		
66 知っている知識から必要なものを選び出せない		
5 迷惑をかけたことに気づいたら素直に謝る		
9 自分の考えに固執する		
14 意見を批判されると自分が否定されたように感じる		
20 失敗を人のせいにする		
22 人の役に立つことをしたい	除外項目	独創性
25 自分さえ良ければいい		
30 他人と協力したいとは思わない		
32 グループで物事を決めるとき自発的に発言する		
33 自分とは違う考えの人の話は聞きたくない		
38 話し合いのとき自分の意見を人と合わせようとは思わない		
42 言われたことにはそのまま従う		
52 自分の過ちを素直に認めるのは難しい		
55 話し合いをするとき自分の主張を押し通す		
62 困っている人がいても他の人が助けるだろうと思う		
7 失敗を恐れない	除外項目	独創性
15 今まで知らなかったことを知ること面白みを感じる		
28 新しいことに取り組むのは億劫だ		
35 何か思いついても、すぐに別のことに興味が移る		
36 新しく知ったことを自分のアイデアに取り入れる		
40 問題が解決しても更により方法を考える		
45 他の人が見過ごしがちな事にもあえて疑問を持つ		
49 アイデアが浮かんだとき、その実現手段も考える		
53 疑問に思ったことは納得できるまで調べる		
57 新しい発想が浮かんでも行動には移さない		
60 他の人と同じ考え方だと安心する	除外項目	独創性
61 思いついたことは完成するまでやり遂げる		

(2) 表 6-1, 表 6-2 概観との対応

次に、P.42-P.43 の表 6-1, P.44-P.46 の表 6-2 を因子ごとに並べ替えたものを以下に記載する。

論理的思考性（10 項目が該当）

表 8-1-① 論理的思考性の概観（設置者別）

※選択肢「[1]全くあてはまらない[2]あまり当てはまらない[3]どちらとも言えない[4]やや当てはまる[5]大いに当てはまる」の回答のうち、[4]+[5]の回答を集計

■全体 ●国立 ●公立 ●私立

No	質問項目	75%以上	75%未満-50%以上	50%未満-25%以上	25%未満
12	得た情報が信頼できるかどうか様々な視点で判断する		■ ●●●		
21	結論をくだす場合には確たる証拠の有無にこだわる		●	■ ●●	
23	根拠に基づいて判断する		■ ●●●		
43	判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる		■ ●●●		
46	物事を筋道立てて考える		■ ●●●		
56	複雑な問題について順序立てて考える		●	■ ●●	
24	論理的にレポートを書ける			■ ●●●	
48	直感に頼らず客観的に考える			■ ●●●	
59	起こった問題や結果に対して要因を繰り返し何度も考えながら深掘りしていく		●●	■ ●●	
65	ディスカッションをするとき明確な根拠を持った上で自分の意見を言う			■ ●●●	

表 8-1-② 論理的思考性の概観（学問系統別）

※選択肢「[1]全くあてはまらない[2]あまり当てはまらない[3]どちらとも言えない[4]やや当てはまる[5]大いに当てはまる」の回答のうち、[4]+[5]の回答を集計

■全体 ●人文科学 ●社会科学 ●自然科学 ●医学・歯学 ●保健・薬学・看護 ●家政 ●芸術・体育 ●教養

No	質問項目	75%以上	75%未満-50%以上	50%未満-25%以上	25%未満
12	得た情報が信頼できるかどうか様々な視点で判断する		■ ●●●●●●●●●●	●	
21	結論をくだす場合には確たる証拠の有無にこだわる		●●●●●●●●●●	■ ●●●●●●●●●●	
23	根拠に基づいて判断する		■ ●●●●●●●●●●		
43	判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる		■ ●●●●●●●●●●		
46	物事を筋道立てて考える		■ ●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	
56	複雑な問題について順序立てて考える		●●●●●●●●●●	■ ●●●●●●●●●●	
24	論理的にレポートを書ける			■ ●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
48	直感に頼らず客観的に考える		●●●●●●●●●●	■ ●●●●●●●●●●	
59	起こった問題や結果に対して要因を繰り返し何度も考えながら深掘りしていく		●●●●●●●●●●	■ ●●●●●●●●●●	
65	ディスカッションをするとき明確な根拠を持った上で自分の意見を言う		●●●●●●●●●●	■ ●●●●●●●●●●	

協調性（9項目が該当）

表 8-2-① 協調性の概観（設置者別）

※選択肢「[1]全くあてはまらない[2]あまり当てはまらない[3]どちらとも言えない[4]やや当てはまる[5]大いに当てはまる」の回答のうち、[4]+[5]の回答を集計

■全体 ●国立 ●公立 ●私立

No	質問項目	75%以上	75%未満-50%以上	50%未満-25%以上	25%未満
2	グループ活動において困っている人がいたら積極的に手助けする		■ ●●●●●		
50	グループ内で意見が対立しているとき両者が歩み寄れるように調整しようとする		■ ●●●●●		
19	相手の話をしっかり聞きながら対話する		■ ●●●●●		
3	自分も相手も尊重した言動をとる		■ ●●●●●		
8	話し合いをするとき相手の立場に立った言動をする		■ ●●●●●		
54	失敗から何かを学ぼうとする	●	■ ●●●●●		
67	その場の状況に合わせて自分の気持ちをうまくコントロールする		■ ●●●●●		
47	自分のものと違う意見であっても受け入れる		■ ●●●●●		
44	グループ活動において自分の役割を考える		■ ●●●●●		

表 8-2-② 協調性の概観（学問系統別）

※選択肢「[1]全くあてはまらない[2]あまり当てはまらない[3]どちらとも言えない[4]やや当てはまる[5]大いに当てはまる」の回答のうち、[4]+[5]の回答を集計

■全体 ●人文学 ●社会科学 ●自然科学 ●医学・歯学 ●保健・薬学・看護 ●家政 ●芸術・体育 ●教養

No	質問項目	75%以上	75%未満-50%以上	50%未満-25%以上	25%未満
2	グループ活動において困っている人がいたら積極的に手助けする		■ ●●●●●●●●●●		
50	グループ内で意見が対立しているとき両者が歩み寄れるように調整しようとする		■ ●●●●●●●●●●	●	
19	相手の話をしっかり聞きながら対話する	● ●	■ ●●●●●●●●●●		
3	自分も相手も尊重した言動をとる		■ ●●●●●●●●●●		
8	話し合いをするとき相手の立場に立った言動をする		■ ●●●●●●●●●●		
54	失敗から何かを学ぼうとする		■ ●●●●●●●●●●		
67	その場の状況に合わせて自分の気持ちをうまくコントロールする		■ ●●●●●●●●●●		
47	自分のものと違う意見であっても受け入れる		■ ●●●●●●●●●●		
44	グループ活動において自分の役割を考える		■ ●●●●●●●●●●		

独創性（13項目が該当）

表 8-3-① 独創性の概観（設置者別）

※選択肢「[1]全くあてはまらない[2]あまり当てはまらない[3]どちらとも言えない[4]やや当てはまる[5]大いに当てはまる」の回答のうち、[4]+[5]の回答を集計

(※)の質問項目については、反転項目として[1]+[2]の回答を集計。

No	質問項目	75%以上	75%未満-50%以上	50%未満-25%以上	25%未満
18	新しいことに積極的に取り組む		●	■ ● ●	
6	物事を人と違う視点から見る			■ ● ● ●	
11	既成の枠組みにとらわれずに物事を考える			■ ● ● ●	
63	他の人と違う考え方をしていることが多い			■ ● ● ●	
13	既存例から独自性を見出そうとする			■ ● ● ●	
41	どんなことにでも自分の持っているアイデアを生かそうとする			■ ● ● ●	
4	色々なアイデアを生み出そうとする		●	■ ● ●	
10	新しい発見をするのが好きだ		■ ● ● ●		
1	自分は探究心が旺盛だ		● ●	■ ●	
64	アイデアを自ら生み出したり考えたりすることに興味がない(※)		■ ● ● ●		
26	新しいことを考えて人を驚かせたい		■ ● ● ●		
29	人と違うことを考えることが好きである		■ ● ● ●		
39	人と違うアイデアを出したい		■ ● ●	●	

表 8-3-② 独創性の概観（学問系統別）

※選択肢「[1]全くあてはまらない[2]あまり当てはまらない[3]どちらとも言えない[4]やや当てはまる[5]大いに当てはまる」の回答のうち、[4]+[5]の回答を集計

(※)の質問項目については、反転項目として[1]+[2]の回答を集計

No	質問項目	75%以上	75%未満-50%以上	50%未満-25%以上	25%未満
18	新しいことに積極的に取り組む		● ● ● ●	■ ● ● ● ● ● ● ●	
6	物事を人と違う視点から見る			■ ● ● ● ● ● ● ● ● ●	
11	既成の枠組みにとらわれずに物事を考える			■ ● ● ● ● ● ● ● ● ●	
63	他の人と違う考え方をしていることが多い			■ ● ● ● ● ● ● ● ● ●	
13	既存例から独自性を見出そうとする			■ ● ● ● ● ● ● ● ● ●	
41	どんなことにでも自分の持っているアイデアを生かそうとする		● ● ●	■ ● ● ● ● ● ● ●	
4	色々なアイデアを生み出そうとする		● ● ● ● ●	■ ● ● ● ● ● ● ●	
10	新しい発見をするのが好きだ		■ ● ● ● ● ● ● ● ● ●		
1	自分は探究心が旺盛だ		■ ● ● ● ● ● ● ● ● ●	■ ● ● ● ● ● ● ●	
64	アイデアを自ら生み出したり考えたりすることに興味がない(※)		■ ● ● ● ● ● ● ● ● ●		
26	新しいことを考えて人を驚かせたい		■ ● ● ● ● ● ● ● ● ●	■ ● ● ● ● ● ● ●	
29	人と違うことを考えることが好きである		■ ● ● ● ● ● ● ● ● ●	●	
39	人と違うアイデアを出したい		■ ● ● ● ● ● ● ● ● ●	■ ● ● ● ● ● ● ●	

（3）日本生涯学習総合研究所における 16 の「非認知能力」の要素との比較

日本生涯学習総合研究所において設定した 16 の「非認知能力」の要素（P.56-P.57＜参考 2＞「日本生涯学習総合研究所の 16 の『非認知能力』の要素」参照）と本調査における因子分析の結果を比較すると、④問題解決力、⑤批判的思考力、⑥協働力¹、⑦コミュニケーション力、⑧主体性、⑨自己管理能力、⑭探求心等の他に、「独自性」「特性（Big Five 尺度における「開放性」）との関連があることが分かった。

これらは、『非認知能力』の概念に関する考察（Ⅱ）（日本生涯学習総合研究所 2019 年 12 月公表、2020 年 11 月改訂版発行）」における、非認知能力の要素の下位項目（当考察 P.6-P.17「2-3 各『非認知能力』要素の下位項目グループの設定」）に当てはめて比較したもので、次頁の表 9 のようになる。

この分析では、「非認知能力」の要素に関する質問項目を含む文献（幼児から社会人までを調査対象とする既存資料）の中から、52 の資料を選定し、1,349 の質問項目について、前述の 16 の「非認知能力」要素への振り分け作業を行った。その際、すべての質問項目に対して該当すると思われる要素を少なくとも 1 つ以上当てはめ、複数の「非認知能力」の要素が当てはまった質問項目については、どの「非認知能力」の要素が最も適合するかという観点から分析を行った。さらに、同様の内容と考えられる質問項目を集め、下位項目（「非認知能力」の各要素の具体的な内容について、さらに詳細に複数にカテゴリ分けしたもの）に共通性があるかについて考察を行い、その特徴を表す下位項目の名称を決定した（本調査の結果に関連する「非認知能力」については、P.60-62＜参考 4＞「『非認知能力』の要素ごとの下位項目」に記載）。そして、これらの分析について「非認知能力」の要素の関連性に着目した分析を行い、新しい要素概念図「『非認知能力の育成と発揮』に関する要素概念図」（P.63＜参考 5＞「『非認知能力の育成と発揮』に関する要素概念図」）を作成した。

¹ ※2018 年 3 月発行の「『非認知能力』の概念に関する考察Ⅰ」における「協調性」を、2020 年 11 月改訂発行の考察Ⅱでは「協働力」とし、考察Ⅰにおける「異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢」を「達成できる力」とした。

表 9 本調査質問項目と日本生涯学習総合研究所設定の16の「非認知能力」の要素との関連性

Item No.	Q No.	質問項目	測定能力	日本生涯学習総合研究所の解釈														
				④問題解決力	⑤批判的思考力	⑥協働力	⑦コミュカ	⑧主体性	⑨自己管理能力	⑩自己肯定感	⑪探究心	⑫共感性	⑬道徳心	⑭倫理観	⑮規範意識	⑯公共性	独自性	特性
1196	12	得た情報が信頼できるかどうか様々な視点で判断する	論理的 思考性	④論理的思考力 ④対処力-判断力	⑤論理的思考力													
1197	21	結論をくだす場合には確たる証拠の有無にこだわる		④論理的思考力 (④対処力-判断力)	⑤論理的思考力													
1198	23	根拠に基づいて判断する		④論理的思考力 ④対処力-判断力	⑤論理的思考力													
1199	24	論理的にレポートを書ける		④論理的思考力	⑤論理的思考力													
1200	43	判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる		④論理的思考力 ④課題発見力-課題設定力-情報収集 (④対処力-判断力)	⑤論理的思考力													
1201	46	物事を筋道立てて考える		④論理的思考力	⑤論理的思考力													
1202	48	直感に頼らず客観的に考える		④論理的思考力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得													
1203	56	複雑な問題について順序立てて考える		④論理的思考力	⑤論理的思考力													
1204	59	起こった問題や結果に対して要因を繰り返し何度も考えながら深掘りしていく		④論理的思考力 ④課題発見力-課題設定力-現状把握 ④課題発見力-課題設定力-原因把握 ④遂行準備力-構築力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得													
1205	65	ディスカッションをするとき明確な根拠を持った上で自分の意見を言う		④論理的思考力 ④対処力-発信力	⑤論理的思考力		⑦自己の考えの表現（発信） -論理的（効果的）な説明											
1210	44	グループ活動において自分の役割を考える	協調性	④論理的思考力 ④課題発見力-課題設定力-現状把握	⑤論理的思考力 ⑤視点取得	⑤所属意識		⑧周囲との関わりに対する姿勢 （自発性）		⑩自己効力感					⑯公共性		誠実性 調和性 外向性	
1206	2	グループ活動において困っている人がいたら積極的に手助けする		④課題発見力-課題設定力-現状把握 ④対処力-推進力 ④対処力-対応力-柔軟の対応		⑤他者との関わり方-他者への 協力（行動）		⑧周囲との関わりに対する姿勢 （自発性）		⑩自己効力感			⑬道徳心				調和性 外向性	
1212	50	グループ内で意見が対立しているとき両者が歩み寄れるように調整しようとする		(④論理的思考力) ④課題発見力-課題設定力-現状把握 ④対処力-情報共有力 ④対処力-対応力-柔軟の対応	(⑤論理的思考力) ⑤視点取得	⑤他者との関わり方-他者調整	⑦他者の考えの理解（受信・ 理解）-傾聴力	⑧周囲との関わりに対する姿勢 （自発性） ⑧問題対処姿勢（意志・自発性）							⑯公共性		調和性 開放性 外向性	
1209	19	相手の話をしっかり聞きながら対話する		(④論理的思考力) ④対処力-情報共有力	(⑤論理的思考力) ⑤視点取得	⑤他者との関わり方-協調姿勢	⑦他者の考えの理解（受信・ 理解）-傾聴力		⑨self-行動-対人行動におけるt s7・コントロール-s-対処の柔軟性								誠実性 調和性 外向性	
1207	3	自分も相手も尊重した言動をとる		④対）発信力 ④対）対応力-柔軟の対応	⑤視点取得	⑤他者との関わり方-他者視点 での協調（気持ち）	⑦自己の考えの表現（発信） -自己調整による伝達	⑧自己の考え・意志（意志） ⑧主張姿勢（意志・自発性）	⑨self-行動-対人行動におけるt s7・コントロール-s-対処の柔軟性	⑩自尊意識					⑯公共性		誠実性 調和性 情緒安定性 外向性	
1208	8	話し合いをするとき相手の立場に立った言動をする		④論理的思考力 ④課題発見力-課題設定力-現状把握 ④対処力-発信力 ④対処力-対応力-臨機応変さ	⑤論理的思考力 ⑤視点取得	⑤他者との関わり方-他者視点 での協調（気持ち）	⑦自己の考えの表現（発信） -自己調整による伝達		⑨self-行動-対人行動におけるt s7・コントロール-s-対処の柔軟性								調和性 外向性	
1213	54	失敗から何かを学ぼうとする		(④論理的思考力)	(⑤論理的思考力)			⑧向上心（意欲）									誠実性	
1214	67	その場の状況に合わせて自分の気持ちをうまくコントロールする		④論理的思考力 ④課題発見力-課題設定力-現状把握					⑨self-感情-感情の統制								開放性	
1211	47	自分のものと違う意見であっても受け入れる				⑤他者との関わり方-協調姿勢	⑦他者の考えの理解（受信・ 理解）-傾聴力		⑨self-思考-柔軟な思考-異なる 意見・考えの受容								調和性	

※黄色の部分が、最も適合するとした「非認知能力」の要素および下位項目。「⑤批判的思考力」「⑥協働力」「⑦コミュニケーション力」「⑧主体性」「⑨自己管理能力」の他の下位項目については、P.60-P.62<参考 4>「『非認知能力』の要素ごとの下位項目」参照。

※「④問題解決力」の論理的思考力、「⑤批判的思考力」の論理的思考力、視点取得については、第2下位項目を記載していない。

※2018年3月発行の「『非認知能力』の概念に関する考察Ⅰ」における「協調性」を、2020年11月改訂発行の考察Ⅱでは「協働力」とし、考察Ⅰにおける「異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢」を「達成できる力」とした。

（前頁つづき）

Item No.	Q No.	質問項目	測定能力	④問題解決力	⑤批判的思考力	⑥協働力	⑦コミュニ	⑧主体性	⑨自己管理能力	⑩自己肯定感	⑪探究心	⑫共感性	⑬道徳心	⑭倫理観	⑮規範意識	⑯公共性	独自性	特性
1216	4	色々なアイデアを生み出そうとする	独創性	④論理的思考力	⑤批判的思考力			⑧新しいことへの意欲（意欲）									独自性	開放性
1221	18	新しいことに積極的に取り組む						⑧新しいことへの意欲（意欲）									独自性	開放性
1224	39	人と違うアイデアを出したい		④論理的思考力	⑤論理的思考力			⑧新しいことへの意欲（意欲）									独自性	開放性
1218	10	新しい発見をするのが好きだ		④論理的思考力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得						⑪探究心							開放性
1227	64	アイデアを自ら生み出したり考えたりすることに興味がない		④論理的思考力（R）	⑤論理的思考力（R） ⑤視点取得（R）			⑧新しいことへの意欲（意欲） （R）			⑪探究心 （R）						独自性（R）	開放性（R）
1217	6	物事を人と違う視点から見るとする		④論理的思考力 ④対処力-発想力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得												独自性	開放性
1219	11	既存の枠組みにとらわれずに物事を考える		④論理的思考力 ④対処力-発想力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得												独自性	開放性
1225	41	どんなことにも自分の持っているアイデアを生かそうとする		④論理的思考力 ④対処力-発想力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得												独自性	開放性
1226	63	他の人と違う考え方をしていることが多い		④論理的思考力 ④対処力-発想力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得												独自性	開放性
1220	13	既存例から独自性を見出そうとする		④論理的思考力 ④対処力-発想力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得												独自性	
1215	1	自分は探究心が旺盛だ						⑧新しいことへの意欲（意欲）										開放性
1222	26	新しいことを考えて人を驚かせたい															独自性	開放性
1223	29	人と違うことを考えることが好きである															独自性	開放性

※黄色の部分が、最も適合するとした「非認知能力」の要素および下位項目。「⑧主体性」の他の下位項目については、P.60-P.62<参考 4>「『非認知能力』の要素ごとの下位項目」参照。「開放性」については、P.59<参考 3>「『特性』について」参照。「独自性」については、下位項目を設定していない。

※「④問題解決力」の論理的思考力、「⑤批判的思考力」の論理的思考力、視点取得については、第2下位項目を記載していない。

※2018年3月発行の「『非認知能力』の概念に関する考察Ⅰ」における「協調性」を、2020年11月改訂発行の考察Ⅱでは「協働力」とし、考察Ⅰにおける「異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢」を「達成できる力」とした。

次頁には、2017年度に実施した「『高等教育機関における人材育成』に関する実態調査」（全国の大学の学部長、および研究科長を対象に実施）の因子分析との対応も参考資料として掲載しておく。

●参考資料 2017 年度調査（全国の大学の学部長及び大学院の研究科長を対象とし、学生の入学時点・卒業時点の能力の到達度について質問）

Item No.	Q No.	質問項目	測定能力	日本生涯学習総合研究所の解釈															
				④問題解決力	⑤批判的思考力	⑥協働力	⑦コミュニカ	⑧主体性	⑨自己管理能力	⑩自己肯定感	⑪探究心	⑫共感性	⑬道徳心	⑭倫理観	⑮規範意識	⑯公共性	独自性	特性	
1178	22	自分の知識を問題解決に使える	論理的 思考性	④論理的思考力 ④対処力・活用力・知識活用	⑤論理的思考力														
1172	16	主観的な事柄と客観的な事柄とを区別できる		④論理的思考力	⑤論理的思考力														
1173	17	根拠に基づいた判断ができる		④論理的思考力 ④対処力・判断力	⑤論理的思考力														
1174	18	物事を筋道立てて考えることができる		④論理的思考力	⑤論理的思考力														
1176	20	多くの情報の中から問題解決に必要な情報を判別 できる		④論理的思考力 ④対処力・活用力・知識活用 ④対処力・活用力・資源活用（資料・情報）	⑤論理的思考力														
1177	21	問題解決のための情報を的確な方法で分析できる		④論理的思考力 ④課題発見力・課題設定力・情報収集 ④課題発見力・課題設定力・現状把握 ④対処力・活用力・知識活用	⑤論理的思考力														
1175	19	問題の本質を的確に把握できる		④論理的思考力	⑤論理的思考力														
1180	24	自分の先入観にとらわれずに物事を考えることが できる		④論理的思考力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得														
1181	26	俯瞰的な視点で物事を考えることができる		④論理的思考力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得														
1170	1	自分の意見や疑問を相手に解りやすく説明できる		④論理的思考力 ④対処力・発信力 ④対処力・情報共有力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得	⑥他者との関わり方・他者視点での 協調（気持ち）	⑦自己の考えの表現（発信）・論 理的（効果的）な説明											調和性 外向性	
1171	12	何事も人から言われたことをすぐには信じ込まず 慎重に考えることができる		④論理的思考力	⑤論理的思考力					⑨self-行動のコントロール-判断・対処に おけるt47・コントロール-6								誠実性	
1179	23	問題解決の方法を自ら考えることができる		④論理的思考力 ④課題発見力・課題設定力・現状把握 ④課題発見力・課題設定力・原因把握 ④進捗準備力・構築力 ④対処力・判断力 ④対処力・活用力・知識活用 ④対処力・活用力・発想力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得													独自性 * 自ら生み出すの意味の場合	（開放性）
1184	4	グループの中での自分の役割を果たせる	協調性			⑥所属意識					⑩自己効力感						⑯公共性	誠実性 調和性	
1185	5	異なる立場の相手とも協力できる		④対処力・対応力・柔軟的対応		⑥他者との関わり方・協調姿勢				⑨self-行動のコントロール-対人行動にお けるt47・コントロール-6-対処の柔軟性	⑩自己効力感						⑯公共性	調和性 外向性	
1182	2	自分も相手も尊重した言動をとることができる		④対処力・発信力 ④対処力・対応力・柔軟的対応	③視点取得	⑥他者との関わり方・他者視点での 協調（気持ち）	⑦自己の考えの表現（発信）・自 己調整による伝達	⑧自己の考え・意志（意志） ⑧主張姿勢（意志・自発性）	⑨self-行動のコントロール-対人行動にお けるt47・コントロール-6-対処の柔軟性	⑩自尊意識							⑯公共性	誠実性 調和性 情緒安定性 外向性	
1190	10	何事にも積極的に取り組める						⑩向上心（意欲）										誠実性	
1187	7	他人に言われてするよりも何事も自分で進んでや る						⑧行動の自発性（自発性）										誠実性	
1189	9	自分の考えで行動できる						⑩自立心（自主性）			⑩自己効力感							開放性	
1183	3	自分のものと違う意見であっても受容できる				⑥他者との関わり方・協調姿勢	⑦他者の考えの理解（受信・理 解）・傾聴力		⑨self-認知のコントロール-思考-柔軟的な 思考-異なる意見・考えの受容	⑩自己効力感								調和性	
1188	8	人と違うことも恥ずかしがらずにできる																開放性	
1186	6	いろいろなことに興味を持てる							⑧新しいことへの意欲（意欲）									開放性	
1192	14	既存例から独自性を見出そうとする	独創性	④論理的思考力 ④対処力・発想力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得												独自性		
1193	15	独創的なアイデアを生み出そうとする		④論理的思考力 ④対処力・発想力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得													独自性	
1194	25	既成の枠組みにとらわれず新しい視点から物事を 見ることができる		④論理的思考力 ④対処力・発想力	⑤論理的思考力 ⑤視点取得			⑧新しいことへの意欲（意欲）										独自性	開放性
1191	13	人と違うことを考えることが好きである																独自性	開放性

※黄色の部分が、最も適合するとした「非認知能力」の要素および下位項目。「④問題解決力」「⑤批判的思考力」「⑥協働力」「⑦コミュニケーション力」「⑧主体性」「⑨自己管理能力」の要素については、P.60-P.62<参考 4>「『非認知能力』の要素ごとの下位項目」参照。「開放性」については、P.59<参考 3>「『特性』について」参照。「独自性」については、下位項目を設定していない。

※「④問題解決力」の論理的思考力、「⑤批判的思考力」の論理的思考力、視点取得については、第 2 下位項目を記載していない。

※2018 年 3 月発行の「『非認知能力』の概念に関する考察Ⅰ」における「協調性」を、2020 年 11 月改訂発行の考察Ⅱでは「協働力」とし、考察Ⅰにおける「異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢」を「達成できる力」とした。

<参考 1> 「2017 年度調査における学問系統区分」

表 10 学問系統区分表

学問系統		学問分野			
人文科学	文学系	1. 文学			
	語学系	2. 語学	3. 言語学		
	教育学系	4. 教育学	5. 教員養成		
	人文学・教養学・人間科学系	6. 文化学	7. 教養学	8. コミュニケーション学	9. 人間科学
		10. 哲学	11. 史学,地理学	12. 心理学	
社会科学	経済学・経営学・商学系	13. 経済学	14. 経営学	15. 商学	16. 会計学
		17. 経営情報学			
	法学系	18. 法学	19. 政治学		
	社会学系	20. 社会学	21. 福祉学	22. 観光学	23. メディア学
		24. 国際関係学	25. 国際文化学		
自然科学	工学系	26. 機械工学	27. 情報工学	28. 材料工学	29. 資源工学
		30. 電気・電子工学	31. 建築学	32. 土木工学	33. 生物工学
		34. 応用化学	35. 医用・生体工学	36. その他工学系	
	理学系	37. 数学,情報科学	38. 物理学	39. 化学	40. 生物学,生命科学
		41. 地学	42. 環境科学	43. 宇宙科学	
	農学・獣医畜産学・水産学系	44. 農学	45. 農芸化学	46. 獣医学	47. 畜産学
		48. 水産学	49. 森林科学	50. 生物生産学,生物資源学	
	医学系	51. 医学			
	歯学系	52. 歯学			
	薬学系	53. 薬学			
	栄養学系	54. 栄養学			
	看護学系	55. 看護学	56. 医療学		
	総合系	総合科学系	57. 総合科学		
家政・生活科学系		58. 被服学	59. 児童学,こども学	60. 住居学	61. 食物学
		62. 家政系その他			
芸術学系		63. 美術	64. 音楽	65. 工芸	66. デザイン
		67. 芸術系その他			
体育・健康科学系		68. 体育学	69. 健康科学	70. 体育系その他	
その他の領域	71. メディア,コンテンツ				
その他	その他	72. その他			

< 参考 2 > 日本生涯学習総合研究所の 16 の「非認知能力」の要素

日本生涯学習総合研究所では、政府機関等が提唱する「新しい時代に必要な能力」について調査し、各発達段階（幼児期から高等教育期まで）においてどのような能力の習得が要求されているのかについての考察をおこなった（日本生涯学習総合研究所 2018 年 3 月公開「『非認知能力』の概念に関する考察」<http://www.shogai-soken.or.jp/htmltop/toppage.files/non-cog2018.pdf> 参照）。

その結果、共通する 19 の能力の要素を抽出し、「非認知能力」には、そのうちの 16 の能力の要素が該当すると判定した。

●政府機関等が提唱する「新しい時代に必要な能力」

政府機関等が提唱する「『新しい時代に必要な能力』についての 10 の提言」（表 11）から抽出した 19 の能力の要素について、さらに、従来型の学力である「認知能力」と、これまで測定対象とならず認知されてこなかった「非認知能力」に区分すると、「認知能力」のカテゴリには 3 つの要素が対応し、「非認知能力」のカテゴリには 16 の要素が対応することがわかった（表 12）。

表 11 「新しい時代に必要な能力」についての 10 の提言

	提言の名称	発表機関	発表年
1	幼児教育において育みたい資質・能力の三つの柱	文部科学省	2016 年(平成 28 年)
2	生きる力	文部科学省	1996 年(平成 8 年)
3	人間力	内閣府	2003 年(平成 15 年)
4	社会人基礎力	経済産業省	2006 年(平成 18 年)
5	キャリア教育	文部科学省	2006 年(平成 18 年)
6	学士力	文部科学省	2008 年(平成 20 年)
7	課題探求能力	文部科学省	1998 年(平成 10 年)
8	大学院に求められる人材養成機能	文部科学省	2005 年(平成 17 年)
9	就職基礎能力	厚生労働省	2004 年(平成 16 年)
10	キー・コンピテンシー	OECD・DeSeCo	2003 年(平成 15 年)

表 12 能力の要素

認知能力	①基礎学力	②基礎的な知識・技能	③専門性・専門知識
非認知能力	④問題解決力 ⑥協働力 ※2 ⑩自己肯定感 ⑮共感性	⑤批判的思考力 ※1 ⑦コミュニケーション力 ⑪実行力 ⑯道徳心	⑧主体性 ⑨自己管理能力 ⑫統率力 ⑬創造性 ⑭探究心 ⑰倫理観 ⑱規範意識 ⑲公共性

※ 1：④ ⑤は、認知能力に区分される場合もある。

※ 2：2018 年 3 月発行の「『非認知能力』の概念に関する考察Ⅰ」における「協調性」を、2020 年 11 月改訂発行の考察Ⅱでは「協働力」とし、考察Ⅰにおける「異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢」を「達成できる力」とした。

これらの能力の要素を抽出する際に使用したそれぞれの能力の定義は、表 13 の通りである。

表 13 能力の要素の定義

	能力の要素	定 義
認 知 能 力	①基礎学力	・すべての学習を成立させるうえで必須の基礎的な知識や技能（例：読み書き、計算等、教科等の独自の基礎的な知識・技能）
	②基礎的な知識・技能	・社会の変化や科学技術の進展等に対応するために必要とされる知識や技能
	③専門性・専門知識	・「基礎学力」、「基礎的な知識・技能」をベースとした、個々の特性に応じた特定の領域に関する高度な知識と経験

非認知能力	④問題解決力 * 認知能力に区分される場合もある	・ 論理的思考力の要素である「物事の意味を正しく捉え、自分の理解度や対応できる範囲を把握したうえで、問題解決に当たることができる力」をベースとし、自分で考え、本質的な問題を発見し、解決策を立案し、さらに、それを臨機応変かつ適切に対応しながら遂行（実行し成果を出す）することができる力
	⑤批判的思考力 * 認知能力に区分される場合もある	・ 論理的思考力の要素である「主観的な事柄と客観的な事柄とを区別したうえで、根拠に基づいて判断し、さらに、筋道立てて考えることができる力」をベースとし、他者および自分の考えに対して熟考し、先入観にとらわれずに、俯瞰的な視点から考えることができる力
	⑥協働力 ※	・ 異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成できる力
	⑦コミュニケーション力	・ お互いの気持ちや感情を理解・尊重し合いながら、適切なタイミングや表現方法で自分の感情や意思を伝えたり、受け止めたりして、信頼関係を築くことができる力
	⑧主体性	・ 自分の意志や判断によって責任をもって行動する姿勢、および遂行しようとする意欲
	⑨自己管理能力	・ 自分の目標や目的を達成するため、または集団のルールの中で自分の役割を果たすために、自分を律し、管理し、自己を分析することができる力
	⑩自己肯定感	・ 自分のあり方を積極的に評価できる感覚、および自分の価値や存在意義を肯定できる感覚
	⑪実行力	・ 「目的のために行動する力」をベースとし、自分または集団の目標や目的の方向性を適切に見極めたうえで、計画を立案し、遂行することができる力
	⑫統率力	・ 他者の行動を統制してチームを1つにまとめ、そのチームを率いてチーム全体の目標や目的の達成のために行動することができる資質や力
	⑬創造性	・ 突然出現するものではなく、長い年月を要する基礎的な努力に加え、熱中して物事に取り組むことや様々な経験を積み重ねた結果として築かれるもので、新奇で独自かつ生産的な発想を考え出すこと、またはその姿勢
	⑭探究心	・ 物事の本質を捉えようとする姿勢、および本質や意義について、より掘り下げて見極めようとする意欲、および好奇心
	⑮共感性	・ 他者と喜怒哀楽の感情を共有すること、またはそれらを感じ取ることができる感性 ・ 自然、生き物に対する愛情や畏敬の念
	⑯道徳心	・ 道徳を守る心 ・ 善悪を判断し、善を行おうとする心
	⑰倫理観	・ 人として守り行うべき道、倫理（善悪・正邪の判断において普遍的な規準となるもの）についての考え方や捉え方
	⑱規範意識	・ 道徳、倫理、および法律等の社会のルールを守ろうとする意識
	⑲公共性	・ 価値観が違ふと思われる組織、集団、社会での自分の役割を理解し、その責務を果たそうとする姿勢

※2018年3月発行の「『非認知能力』の概念に関する考察Ⅰ」における「協調性」を、2020年11月改訂発行の考察Ⅱでは「協働力」とし、考察Ⅰにおける「異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢」を「達成できる力」とした。

ここまでの内容を整理し、政府機関等が提唱する能力の要素まとめたものが、次頁表14である。

表 14 政府機関等が提唱する「新しい時代に必要な能力」についての要素のまとめ
(2019.11.1 時点)

		1 幼児教育において育みたい資質・能力の三つの柱	2 生きる力	3 人間力	4 社会人基礎力	5 キャリア教育	6 学士力	7 課題探求能力	8 大学院に求められる人材養成機能	9 就職基礎能力	10 キー・コンピテンシー
		文部科学省(2016)	文部科学省(1996)	内閣府(2003)	経済産業省(2006)	文部科学省(2006)	文部科学省(2008)	文部科学省(1998)	文部科学省(2005)	厚生労働省(2004)	OECD(2003)
認知能力	①基礎学力			●						●	
	②基礎的な知識・技能	●	●	●		●	●		●※1	●	●
	③専門性・専門知識			●		●	●		●		
非認知能力	④問題解決力	●	●※5	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑤批判的思考力	●※2		●	※6	※6	●		●		●
	⑥協調性	●	●	●	●	●	●			●	●
	⑦コミュニケーション力	●	<●>	●	●	●	●		●	●	●
	⑧主体性	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑨自己管理能力	●	●	●	●	●	●		●	●	●
	⑩自己肯定感	●	<●>	●		●					
	⑪実行力				●	●	※3	※3	※3		●
	⑫統率力			●		●	●				
	⑬創造性		<●>	●	●	●	●	●	●		
	⑭探究心	●	●				●	●	●	●	
	⑮共感性	●	●								
	⑯道徳心	●	<●>								
	⑰倫理観	●※4				●	●		●	●	
	⑱規範意識	●	<●>	●	●		●			●	
	⑲公共性	●	<●>	●	●	●	●		●	●	●

※<●>の要素については、提言には記載がみられないが、学習指導要領等をふまえ、概念図作成の参考にした。

※1 大学院では「知識・技能」。

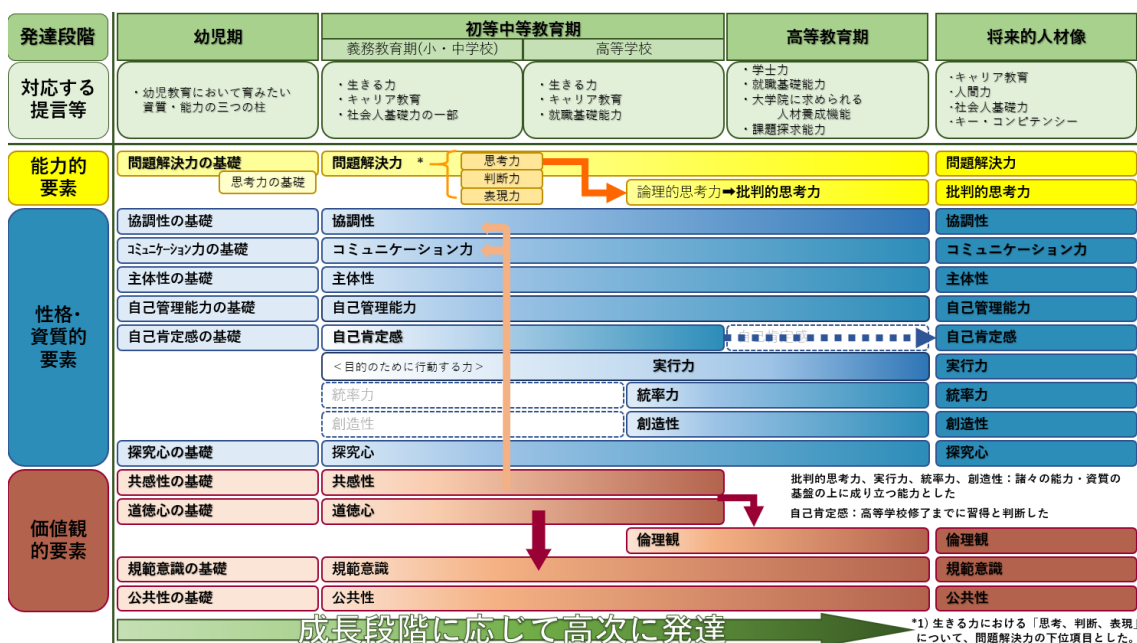
※2 幼児の段階では「思考力」。

※3 高等教育期の提言には見られないが、他の発達段階との関連から考察した結果、当然のこととして捉えられ記載されていないと解釈した。

※4 幼児の段階では「共感性」。

※5 「確かな学力：思考力、判断力、表現力」は、④問題解決力と判定した。

※6 ⑤批判的思考力の下位項目について記載されている箇所があるが、批判的思考力の定義全体を指す記載ではないため、概念図作成時の参考とするにとどめた。



<参考 3> 「特性」について

「性格特性用語を用いた Big Five 尺度の作成」和田（1996）を用いて(表 15)，<参考 2>「日本生涯学習総合研究所の 16 の『非認知能力』の要素（P.56-P.57「表 13 能力の要素の定義」）」とは別のカテゴリとして区分した。

表 15 性格特性用語を用いた BIG FIVE 尺度

誠実性	協調性 (調和性)	情緒安定性 (神経症傾向)	開放性	外向性
いい加減な	温和な	悩みがち	独創的な	話し好き
ルーズな	短気	不安になりやすい	多才の	無口な
怠惰な	怒りっぽい	心配性	進歩的	陽気な
成り行きまかせ	寛大な	気苦労の多い	洞察力のある	外向的
不精な	親切的な	弱気になる	想像力に富んだ	暗い
計画性のある	良心的な	傷つきやすい	美的感覚の鋭い	無愛想な
無頓着な	協力的な	動揺しやすい	頭の回転の速い	社交的
軽率な	とげがある	神経質な	臨機応変な	人嫌い
勤勉な	かんしゃくもち	くよくよしない	興味の広い	活動的な
無節操	自己中心的	悲観的な	好奇心が強い	意思表示しない
几帳面な	素直な	緊張しやすい	独立した	積極的な
飽きっぽい	反抗的	憂鬱な	飲み込みの速い	地味な

< 参考 4 > 「非認知能力」の要素ごとの下位項目

『「非認知能力」の概念に関する考察（Ⅱ）」（日本生涯学習総合研究所 2019 年 12 月公開）より抜粋。 <http://www.shogai-soken.or.jp/htmltop/toppage.files/non-cog2019.pdf>

【④問題解決力の下位項目】

能力の要素	第 1 下位項目グループ	第 2 下位項目・第 3 下位項目グループ		認知・非認知区分
④問題解決力	論理的思考力	思考力 理解力 自己の理解度・対応可能範囲の把握（メタ記憶） 等		認知能力
	課題発見力	問題発見力	課題発見，問題発生予測	
		課題設定力	情報収集 観察力 現状把握 原因把握 等	
	遂行準備力	目標設定 計画力 構築力（含：優先順位付） 企画力 等		
	対処力	判断力（学力の 3 要素） 表現力（学力の 3 要素） 活用力・知識活用 -資源活用（資料・情報）		非認知能力
発想力 決断力 推進力 発信力 情報共有力 対応力・柔軟的対応 -臨機応変さ -資源活用（経験・人材） 成果の見直しを次に生かす力 等				

※④問題解決力の下位項目グループは、「認知能力」と考えられる領域と「非認知能力」と考えられる領域に区分することができるため、「認知能力」、「非認知能力」の区分についても記載する。「認知能力」と「非認知能力」は明確には区別できるものではないが、本研究では、発想力、決断力、推進力、発信力、情報共有力、対応力、成果の見直しを次に生かす力を「非認知能力」とした。

【⑤批判的思考力の下位項目】

能力の要素	第 1 下位項目グループ	第 2 下位項目グループ		認知・非認知区分	
⑤批判的思考力	論理的思考力	思考力（学力の 3 要素） 主観的な事柄と客観的な事柄の区別 根拠に基づいた判断（含：関連性の見極め） 筋道立てて考える 情報選択 情報分析		認知能力	
		視点取得	客観的視点		他者視点 社会的視点
			複眼的な視点		
			俯瞰的な視点（含：多数の分野の関連）		
	自己の思考・行動の評価（メタ認知）		非認知能力		

※⑤批判的思考力下位項目グループは、「認知能力」と考えられる領域と「非認知能力」と考えられる領域に区分することができるため、「認知能力」、「非認知能力」の区分についても記載する。「認知能力」と「非認知能力」は明確には区別できるものではないが、本研究では、複眼的な視点、俯瞰的な視点、自己の思考・行動の評価を「非認知能力」とした。

【⑥協働力※の下位項目】

能力の要素	第1下位項目グループ	第2下位項目グループ
⑥協働力※	所属意識	—
	他者との関わり方	協調姿勢
		他者への協力（行動）
		他者視点での協調（気持ち）
		他者調整

※2018年3月発行の「『非認知能力』の概念に関する考察Ⅰ」における「協調性」を、2020年11月改訂発行の考察Ⅱでは「協働力」とし、考察Ⅰにおける「異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢」を「達成できる力」とした。

【⑦コミュニケーション力の下位項目】

能力の要素	第1下位項目グループ	第2下位項目グループ
⑦コミュニケーション力	他者の考えの理解 （受信・理解）	他者情報の読み取り
		傾聴力
	自己の考えの表現 （発信）	論理的（効果的）な説明
		注意・忠告
		感情・気持ちの伝達
		考え・意志の伝達
		要求の伝達
		誤解の修正
		自己調整による伝達

【⑧主体性の下位項目】

能力の要素	第1下位項目グループ	参考：意欲・意志・自発性・自主性との関連			
⑧主体性	新しいことへの意欲	意欲			
	向上心	意欲			
	やり遂げる意欲	意欲			
	目標達成への意欲	意欲		自発性	
	自己の考え・意志		意志		
	自己の行動に対する意志		意志		
				自発性	
	主張姿勢			自発性	
			意志		
	行動の自発性			自発性	
	周囲との関わりに対する姿勢			自発性	
	問題対処姿勢		意志	自発性	
	自立心				自主性

※⑧主体性については、「意欲」、「意志」、「自発性」、「自主性」の組み合わせで質問項目が成り立っているため、参考として、この4点も記載しておく。

【⑨自己管理能力の下位項目】

⑨自己管理能力は、「メタ認知」(自分の思考や行動を客観視し、評価すること。認知していることの認知)および、「自己調整力(セルフ・レギュレーション Self-regulation)」(「時間管理、学習習慣、健康や食生活、他者関係、人生のゴールなど人間活動の質に関わる重要な要素」杉谷乃百合 1991)に区分できると考えた。メタ認知を正しく行った上で、自らを調整すること(制御し、判断し、行動できる力)が高次元の自己管理能力と考える。

能力の要素	第1下位項目グループ	第2下位項目グループ
⑨自己管理能力	メタ認知	自己分析, 自己認知, 認知している事柄の認知 等
	自己調整力	セルフ・コントロール
		ストレスマネジメント
		健康管理

【セルフ・コントロールの下位項目グループ】

さらに、セルフ・コントロールを「行動、感情、認知(思考・注意)等、自分自身を意識的にコントロールすること」と定義し、第3下位項目として、「感情のコントロール」、「認知のコントロール(さらに「思考」および「注意」に区分)」、「行動のコントロール」に分けて整理し、セルフ・コントロールの全ての下位項目グループをまとめた。

(セルフ・コントロールの下位項目グループ)

第2下位項目グループ	第3下位項目グループ		第4下位項目グループ	第5下位項目グループ
セルフ・コントロール	感情のコントロール		感情の抑制	—
			感情の制御	—
			感情の統制	—
	認知のコントロール	思考	思考の転換	捉え方の転換
				行動に直結する思考転換
		柔軟的な思考		異なる意見・考えの受容
				自己への否定・注意の受容
		注意	集中力	—
			注意力	—
			持続力	—
	行動のコントロール		身の回りの管理	—
			自己の対応可能範囲の管理・計画的遂行	—
			ルール・マナーにおけるセルフ・コントロール	—
			自己の欲求(内的要因)・誘惑(外的要因)におけるセルフ・コントロール	—
			義務におけるセルフ・コントロール	—
			困難におけるセルフ・コントロール	—
			判断・対処におけるセルフ・コントロール	—
			対人行動におけるセルフ・コントロール	衝動的行動の制御
				自衛本能の制御
				他者視点での自己制御
				対処の柔軟性

【ストレスマネジメントの下位項目グループ】

本研究においては、ストレスマネジメントを「問題解決自体を目的とするのではなく、気分転換等により、感情の安定を図ること」と定義し、「セルフ・コントロール」とは区別して考えている。

<参考 5> 「非認知能力の育成と発揮」に関する要素概念図

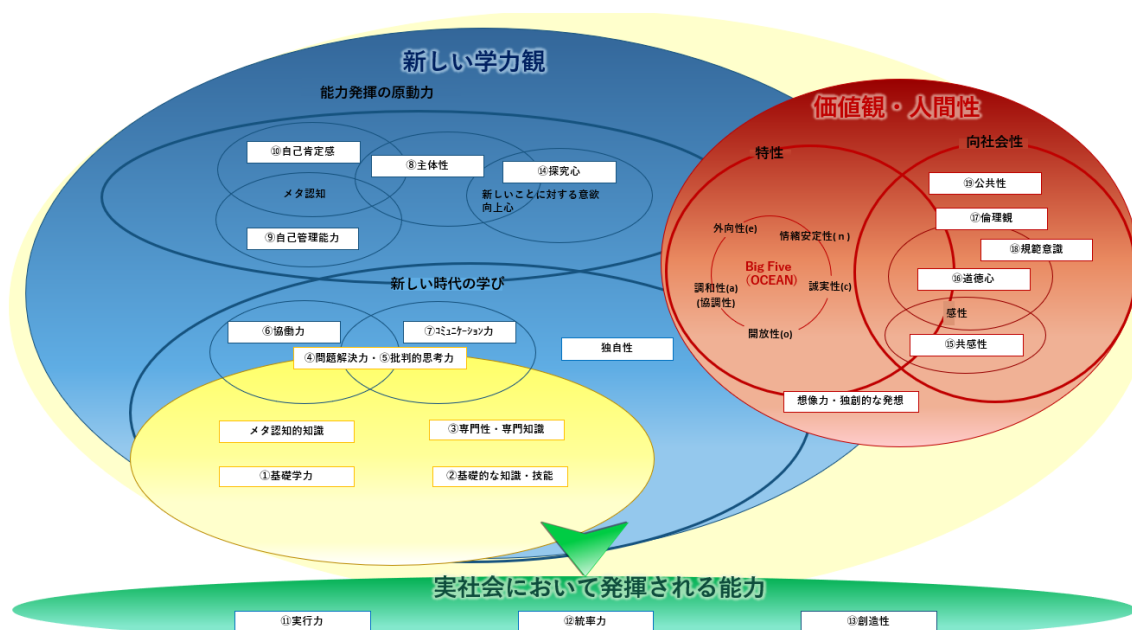


図 7 「非認知能力の育成と発揮」に関する要素概念図
(2019 年 日本生涯学習総合研究所 公表)

「高等教育機関における人材育成」に関する実態調査（Ⅱ）

《学生対象：2018 年 11 月～2019 年 1 月実施》

報 告 書

2019 年 12 月 1 日発行

2020 年 11 月 1 日一部改訂

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-20-10

TEL. 03-3539-3785